

# 男女間における暴力に関する調査報告書

平成 28（2016）年 2 月

立川市

## 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| I 調査の概要 .....                  | 1  |
| 1 調査目的 .....                   | 1  |
| 2 調査項目 .....                   | 1  |
| 3 調査対象 .....                   | 1  |
| 4 調査時期 .....                   | 1  |
| 5 調査方法 .....                   | 1  |
| 6 回収結果 .....                   | 1  |
| 7 回答者の属性 .....                 | 2  |
| (1) 性別 .....                   | 2  |
| (2) 年齢 .....                   | 2  |
| (3) 未既婚 .....                  | 3  |
| (4) 職業 .....                   | 5  |
| 8 本報告書を読む際の注意 .....            | 7  |
| II 今回調査と前回調査の比較 .....          | 8  |
| 1 夫婦間での行為における暴力としての認識 .....    | 8  |
| 2 配偶者からの被害経験 .....             | 11 |
| 3 交際相手からの被害経験 .....            | 15 |
| 4 相談窓口の認識 .....                | 18 |
| 5 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制 ..... | 25 |
| III 調査結果の概要 .....              | 30 |
| 1 夫婦間での行為における暴力としての認識 .....    | 30 |
| 2 配偶者からの被害経験 .....             | 54 |
| (1) これまでの被害経験の有無 .....         | 54 |
| (2) 配偶者からの被害の相談先 .....         | 62 |
| (3) 相談しなかった理由 .....            | 65 |
| (4) 配偶者から被害を受けたときの行動 .....     | 67 |
| (5) 配偶者と別れなかった理由 .....         | 69 |
| (6) 命の危険を感じた経験 .....           | 70 |
| 3 交際相手からの被害経験 .....            | 73 |
| (1) 交際相手の有無 .....              | 73 |
| (2) 交際相手からの被害経験 .....          | 75 |

|                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| (3) 交際相手から被害を受けた時の行動 .....           | 79         |
| (4) 交際相手と別れなかった理由 .....              | 80         |
| (5) 生活上の変化.....                      | 82         |
| (6) 交際相手からの被害の相談先 .....              | 84         |
| (7) 相談しなかった理由 .....                  | 86         |
| <b>4 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制.....</b> | <b>88</b>  |
| (1) 男女間の暴力を防止するために必要なこと .....        | 88         |
| (2) 被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと.....     | 90         |
| (3) 女性総合センター・アイム・カウンセリング相談の周知度 ..... | 92         |
| <b>IV その他、ご意見欄への自由意見 .....</b>       | <b>94</b>  |
| <b>使用した調査票と単純集計 .....</b>            | <b>112</b> |

## I 調査の概要

### 1 調査目的

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（以下、「配偶者暴力防止法」という。）第 25 条では、国及び地方公共団体は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に資するため、調査研究の推進に努めるよう規定している。

本市が平成 23 年に実施した「男女間における暴力に関する調査」（以下、「前回調査」という）を踏まえつつ、市内の男女間における暴力の実態を把握し、第 6 次男女平等参画推進計画における暴力被害の防止や暴力被害者への支援のあり方等の具体的施策を検討するための資料とすることを目的として実施した。

### 2 調査項目

- （１） 夫婦間での行為における暴力としての認識
- （２） 配偶者からの被害経験
- （３） 交際相手からの被害経験
- （４） 相談窓口の認識
- （５） 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制

### 3 調査対象

- （１） 母集団 立川市民 20 歳以上の男女
- （２） 抽出数 2,000 人
- （３） 抽出法 住民基本台帳からの無作為抽出

### 4 調査時期

平成 27 年 8 月～9 月

### 5 調査方法

郵送配布・郵送回収

### 6 回収結果

有効回収数（率）

707 人（35.4％）

うち女性 400 人 男性 278 人 無回答 29 人

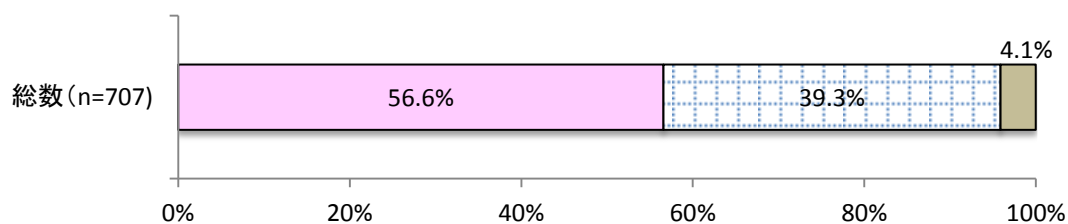
## 7 回答者の属性

### (1) 性別

F1 あなたの性別（1つを選択）

図1 性別

■ 女性 ■ 男性 ■ 無回答

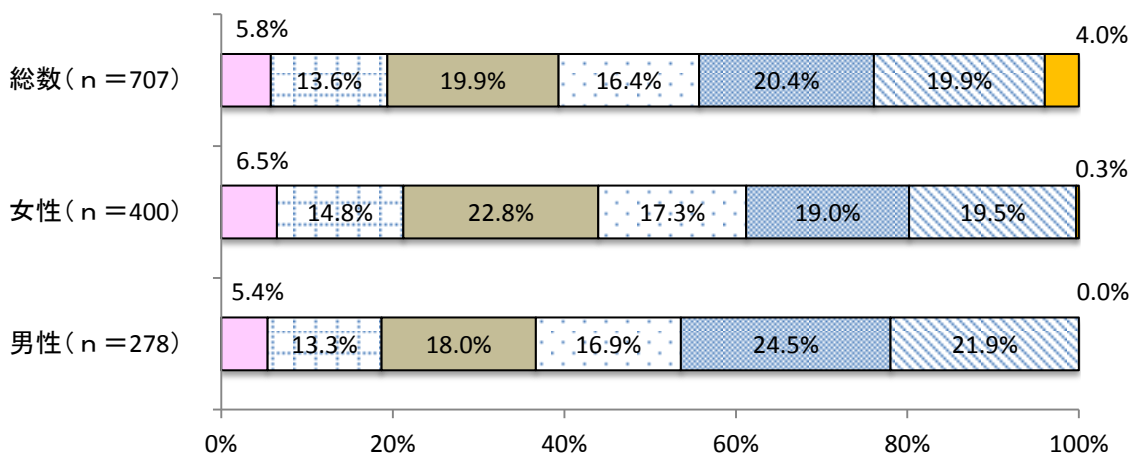


### (2) 年齢

F2 あなたの年齢はおいくつですか。（1つを選択）

図2 年齢

■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70歳以上 ■ 無回答



### (3) 未既婚

F3 あなたは、現在、結婚していますか。(1つを選択) ※ここでの「結婚」には、事実婚や別居中の夫婦も含みます。

図3 未既婚

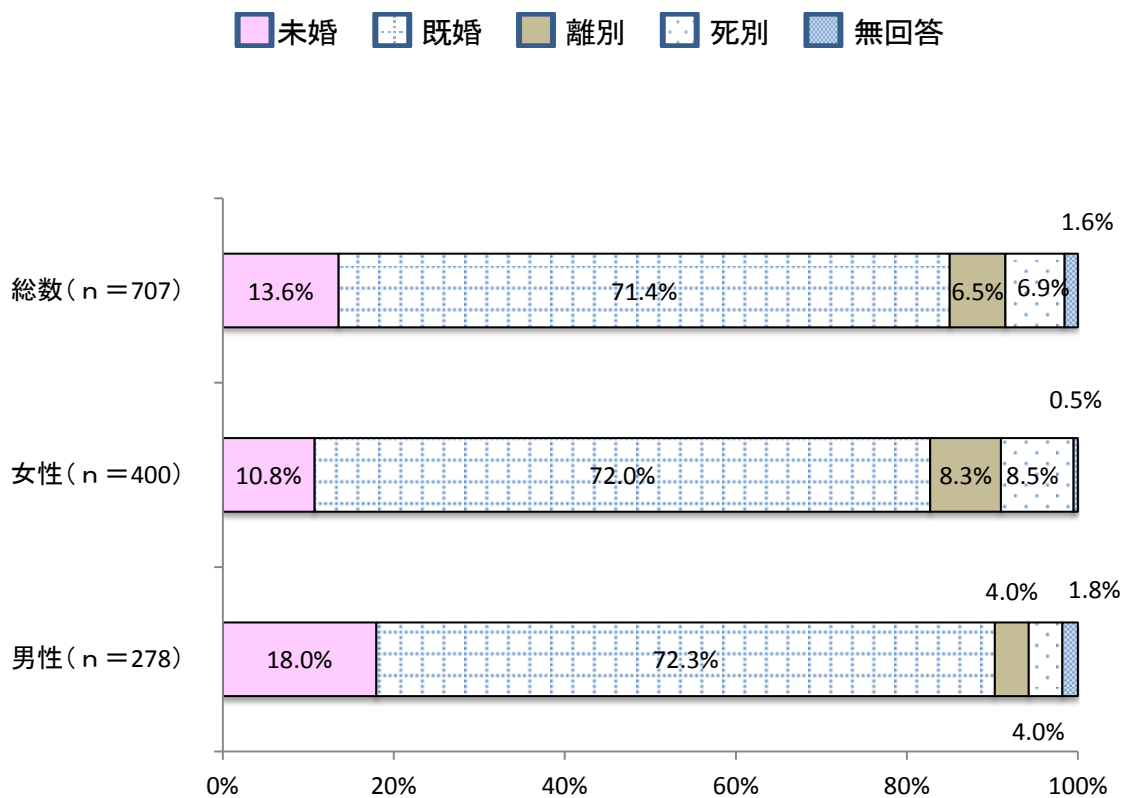
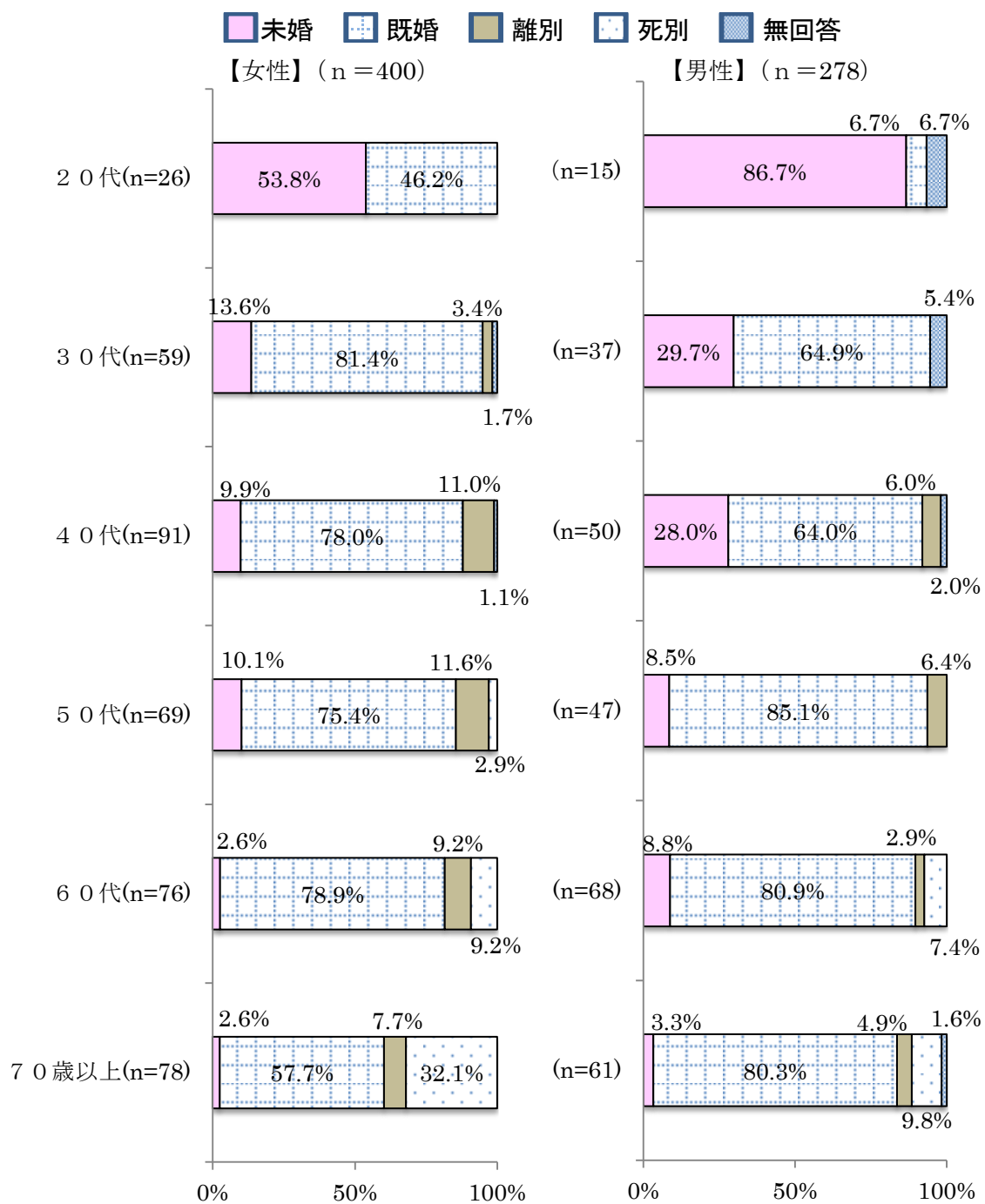


図4 未既婚（性・年齢別）



#### (4) 職業

F4 あなたの職業は次のどれにあたりますか。(1つを選択)

図5 職業

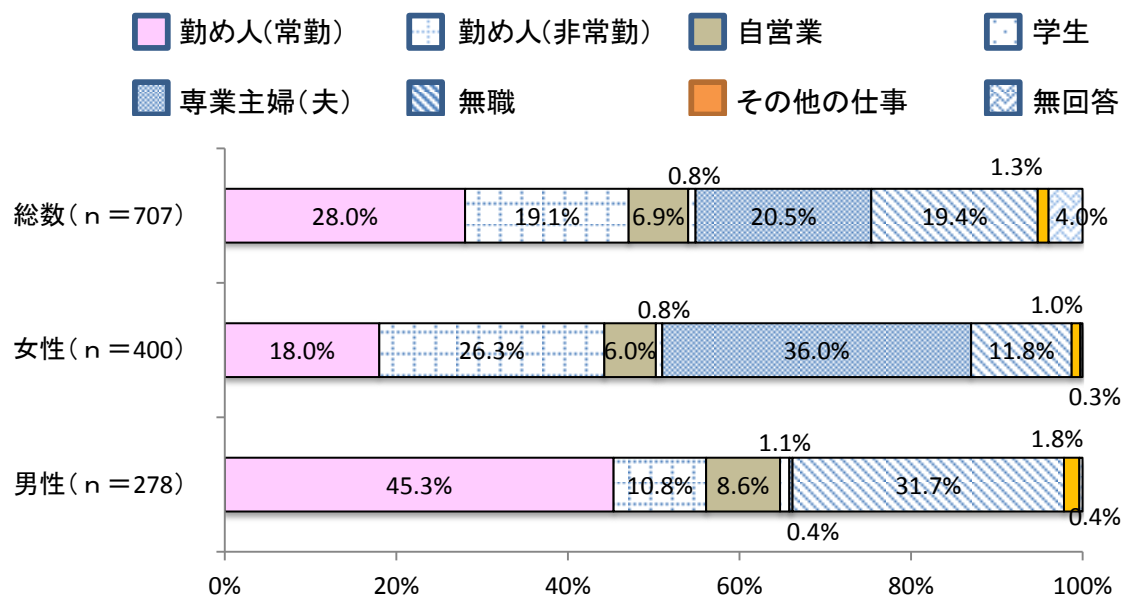
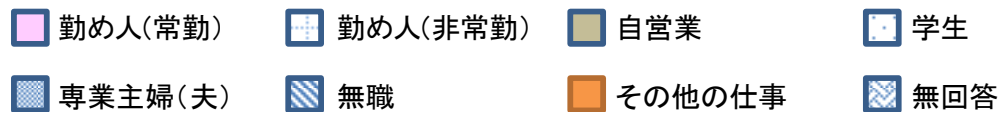
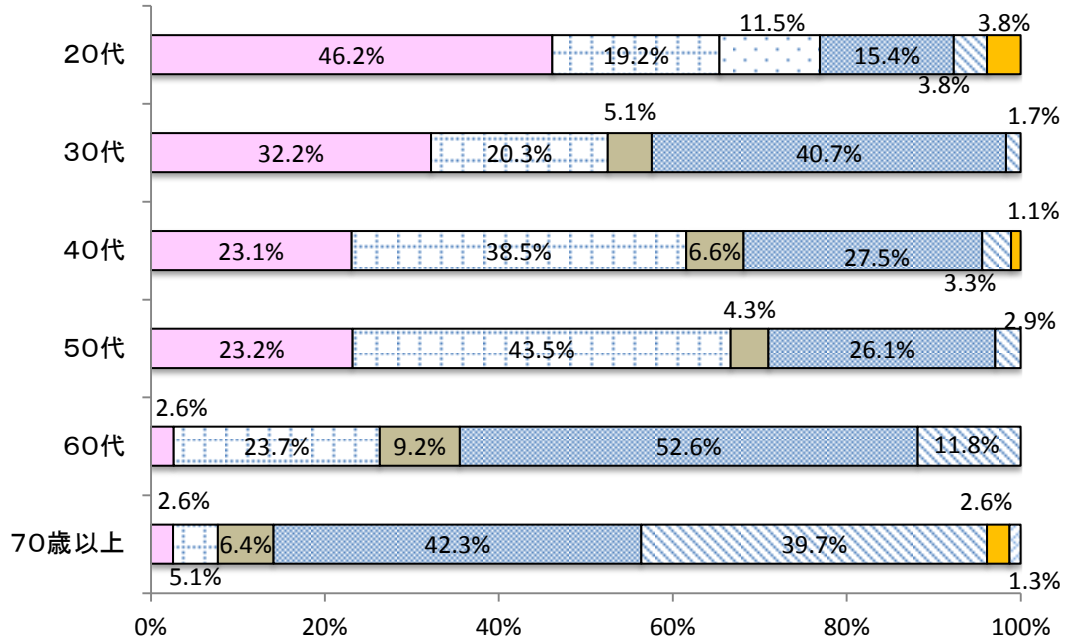




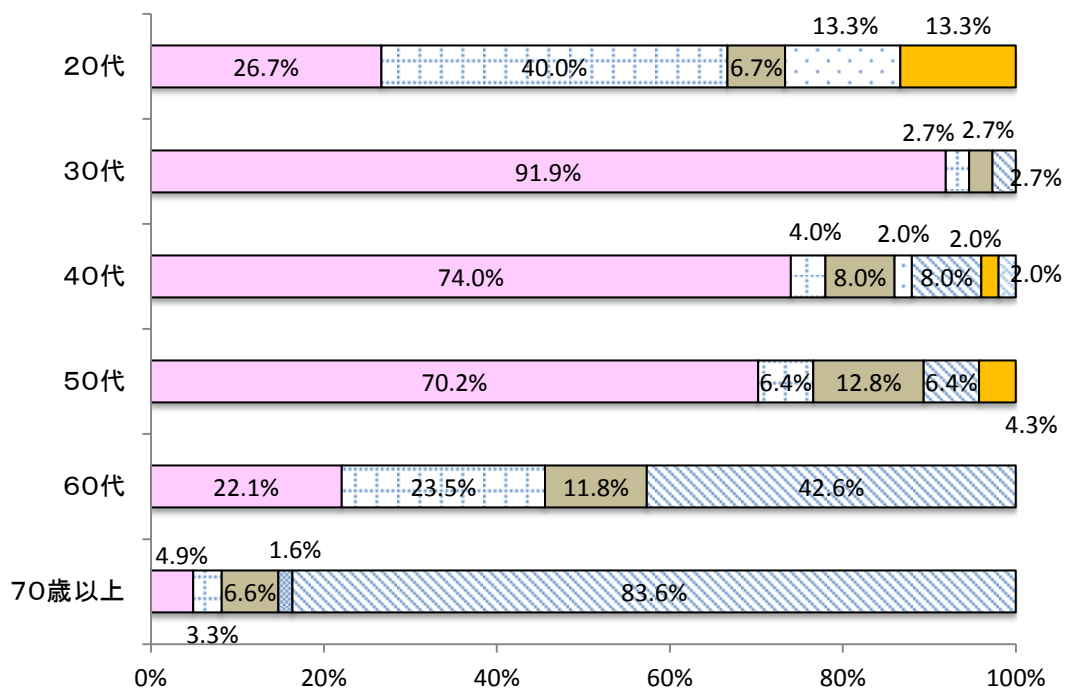
図5 職業（性・年齢別）



【女性】（n = 400）



【男性】（n = 278）



## 8 本報告書を読む際の注意

- (1) 図表中の n とは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数（707 人）または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第 2 位で四捨五入して、小数点第 1 位までを表示した。四捨五入したため、合計値が 100%を前後することがある。
- (3) 「(複数回答可)」と表示のある質問は、2 つ以上の複数回答を認めているため、回答計は 100%を超える。
- (4) 図表中“0.0%”は、回答者が皆無であるか 0.05 未満の数値であったことを示す。
- (5) 総数は、性・年齢についての無回答者も基数に含めているため、性・年齢別の基数の合計が総数と一致しない場合がある。（性別無回答者 29 人。女性回答者 400 人中年齢無回答者 1 人）
- (6) 複数回答の図については、選択肢を回答数の多い順に並べているため、調査票の選択肢の並びとは一致しない場合がある。

## Ⅱ 今回調査と前回調査の比較

前回調査から 4 年が経過し、その間、市は配偶者からの暴力に対する防止・支援対策として様々な事業に取り組んできた。今回の調査で実態を把握するとともに、今後の効果的な暴力対策の推進を図るため、5 つの調査項目ごとに前回調査と比較して現状と課題をまとめた。

### 1 夫婦間での行為における暴力としての認識

前回調査と共通する設問 10 項目を比較すると、今回調査で「暴力にあたる」と答え暴力として認識している人は、各項目ともほぼ同じか少し増えている。

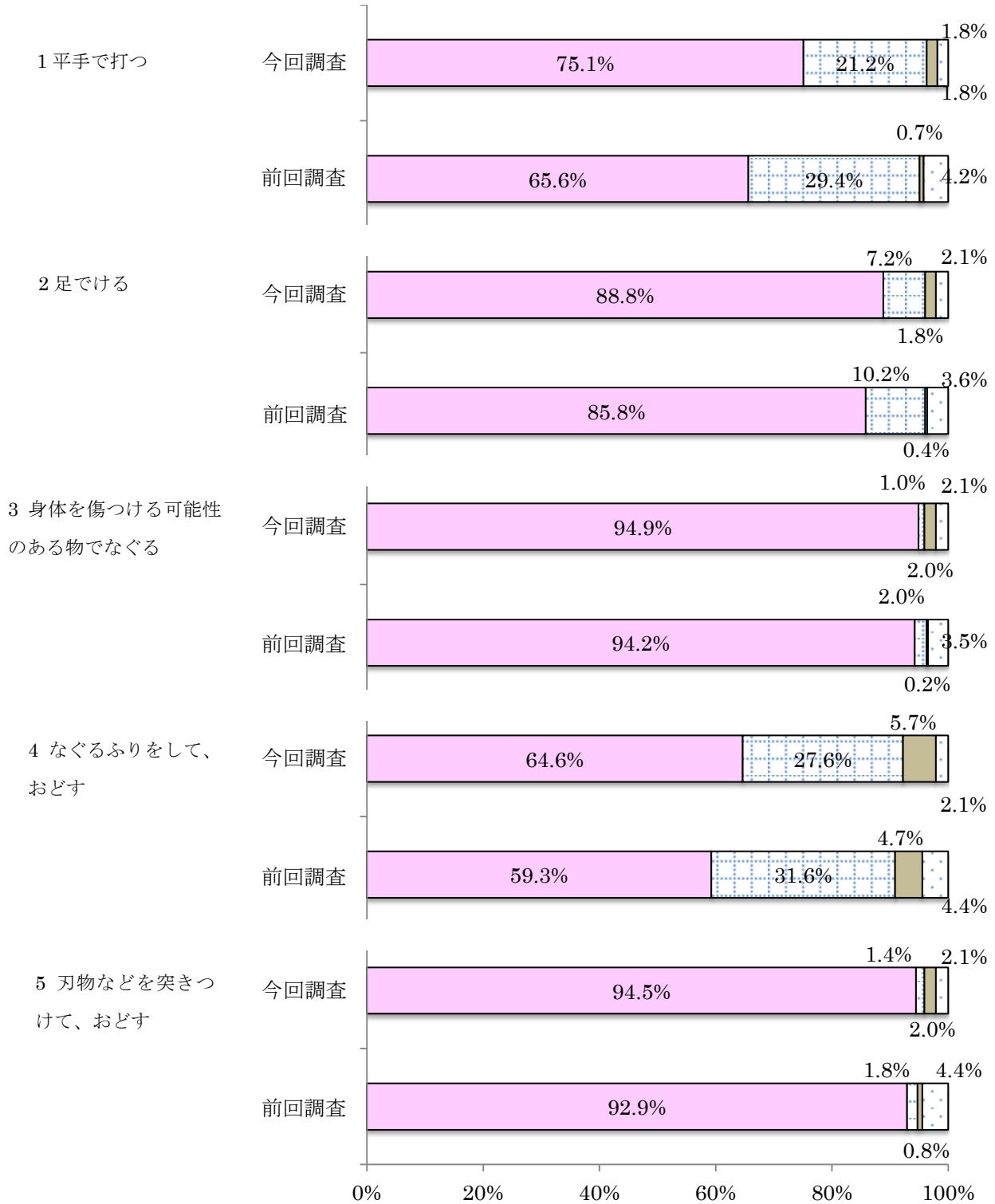
「…長時間無視し続ける」や「交友関係…などを細かく監視する」など「心理的攻撃」に分類される項目で「暴力にあたる」と答えた人は、約半数と前回調査より増えたが「暴力にあたるとは思わない」と「場合による」を合わせると、これとほぼ同率となる。「身体的暴行」に比較すると、まだ「暴力」であるとの認識度は低い。

また、今回調査で新たに設けた「家計に必要な生活費を渡さない」など「経済的圧迫」に分類される項目では、年齢別にみると女性では約 6 割から 8 割が「暴力にあたる」と答えている一方、男性では約 4 割から 6 割にとどまっており、「暴力」との認識について性別や年代によるばらつきが大きい。(49 ページ 図 1-14)

配偶者からの暴力には、身体に対する暴力だけでなく、心理的攻撃、性的強要、経済的圧迫も含まれることを継続して周知し、人権を侵害する暴力は許されるものではなく犯罪であるという認識が、男女問わずあらゆる年代に共有されるよう地道に啓発に取り組むことが必要である。

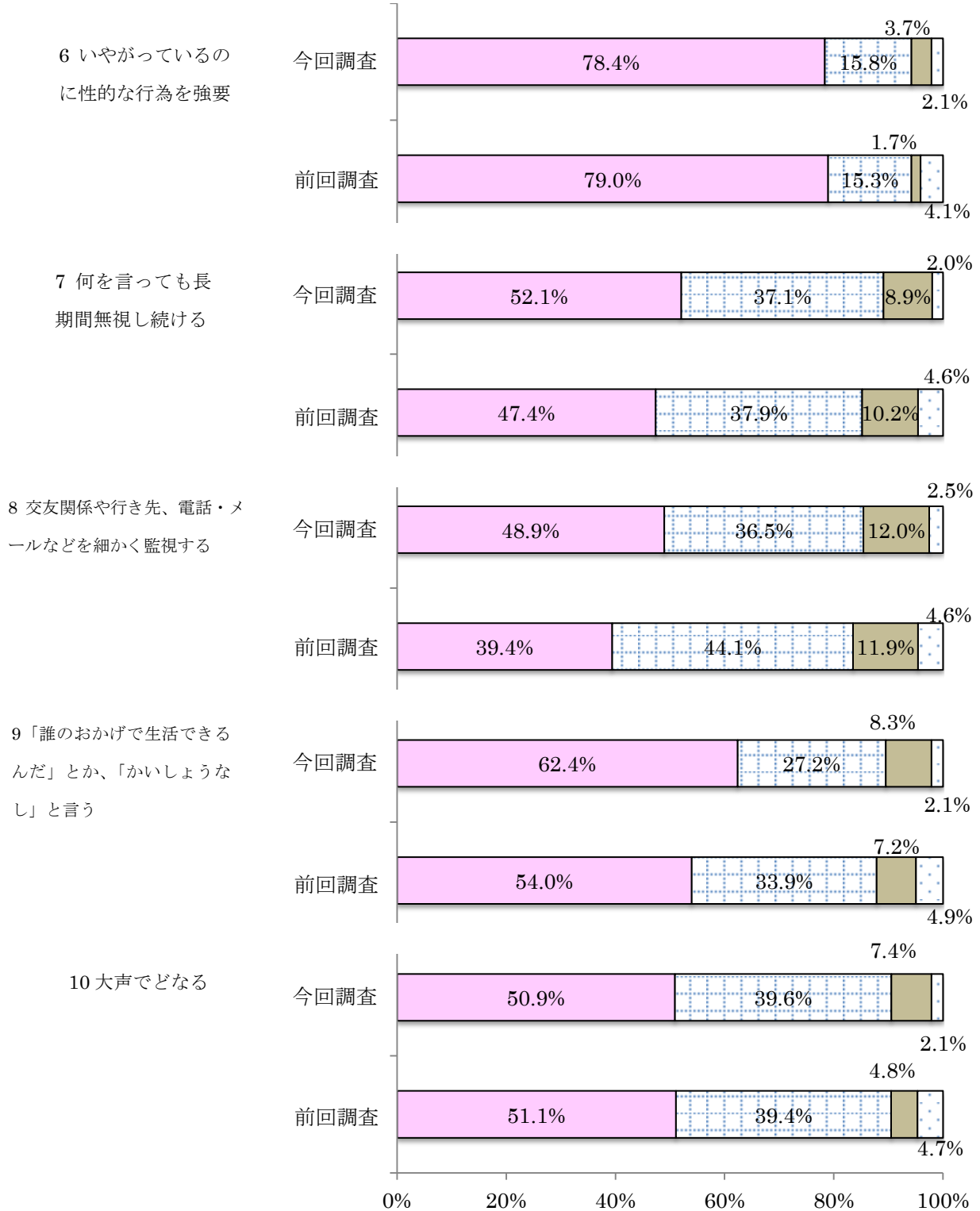
夫婦間での行為における暴力としての認識

■ 暴力にあたると思う ■ 場合による ■ 暴力にあたると思わない ■ 無回答



夫婦間での行為における暴力としての認識

■ 暴力にあたると思う ■ 場合による ■ 暴力にあたると思わない ■ 無回答



## 2 配偶者からの被害経験

前回調査では「これまでに配偶者から暴力の被害を受けたことがあるか」と期限を切らずに尋ねていたが、今回調査では今後の被害状況の変化を把握するために、「過去 2 年間に…受けたことがあるか」と期間を区切った設問に変更した。一方、前回調査にはなかった「経済的圧迫」を今回調査では対象に加えたなど設問の変化があるため、前回調査と一概に比較はできない。

今回調査の回答を見ると、暴力を受けたことが「まったくない」と答えた人が約 8 割であった一方、「何度もあった」人が 1 割未満であるものの依然として存在している。

配偶者から何らかの被害を受けた人のうち、「相手と別れた」は前回調査の 2 倍以上に増えた一方、「別れたい（別れよう）と思ったけれど別れなかった」も増加し、約 4 割となっている。

別れなかった理由はどちらの調査も「経済的な不安」が 2 割を占めている。今回調査では新たに「子どもがいるから、子どものことを考えたから」を選択肢に加えたところ、半数近くがこの選択肢を選択した。前回調査では「その他」が 3 割あったが、その多くがこの選択肢に該当するものと推察される。

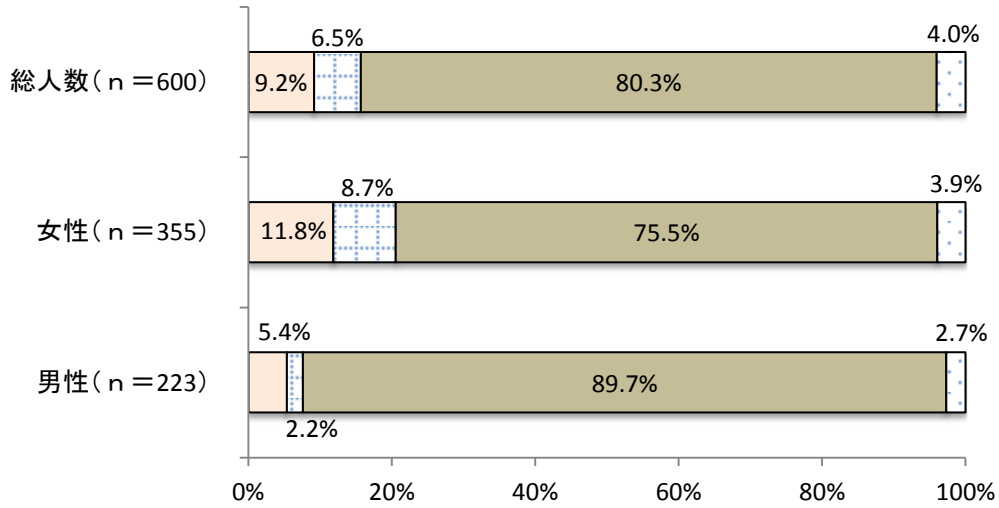
「経済的な不安」を選択したのは女性のみであった。女性が経済的に自立することが難しい状況が、加害者と別れられない理由の一つとなっていることは前回と同様である。

配偶者からの暴力の被害者は、多くは女性であることは依然として変わっていない。経済的自立が困難な女性に対して配偶者が暴力を振るうことは、人権の侵害と男女平等社会の実現の妨げになっており、今後も継続して暴力の未然防止の啓発と早期発見に取り組んでいく必要がある。

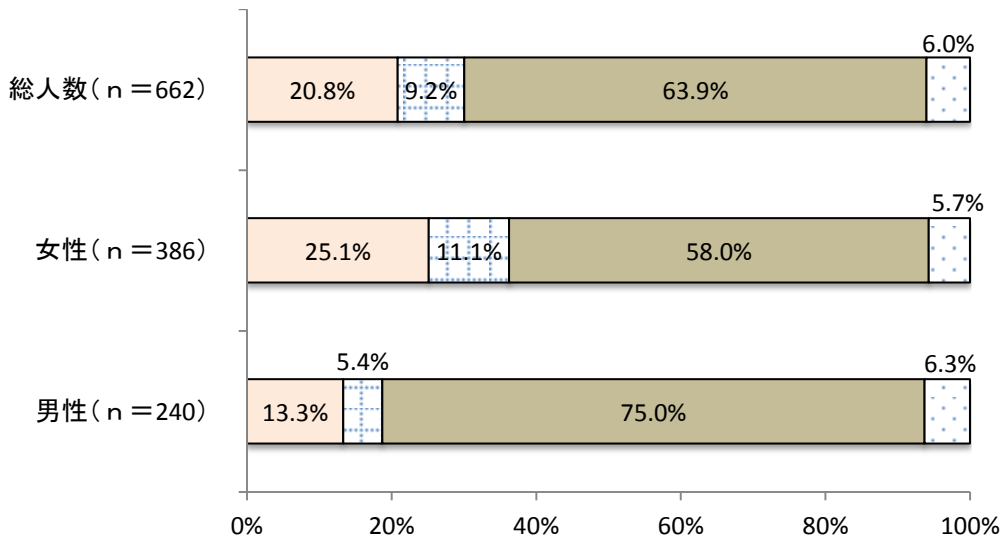
配偶者からの被害状況

1・2度あった 何度もあった まったくない 無回答

【今回調査】



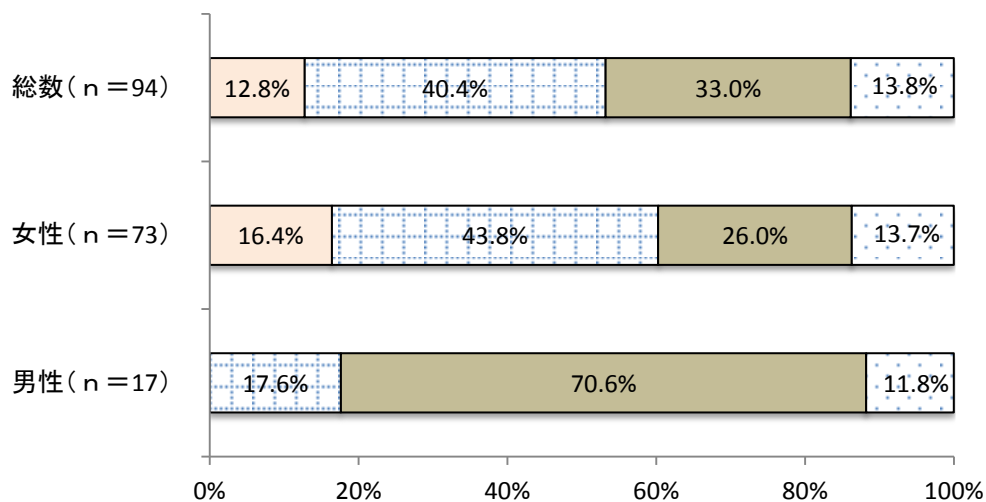
【前回調査】



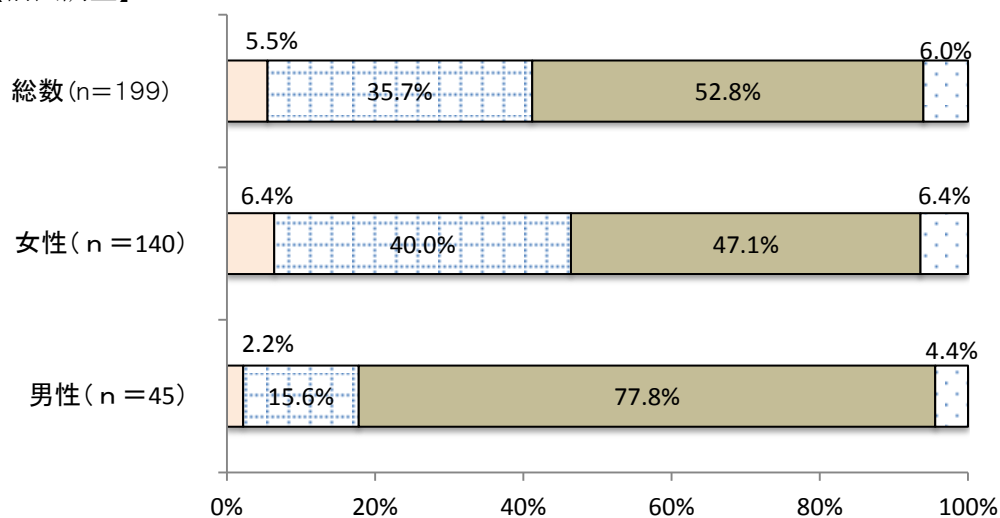
配偶者から被害を受けたときの行動

- 相手と別れた
- 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった
- 別れたい(別れよう)とは思わなかった
- 無回答

【今回調査】



【前回調査】

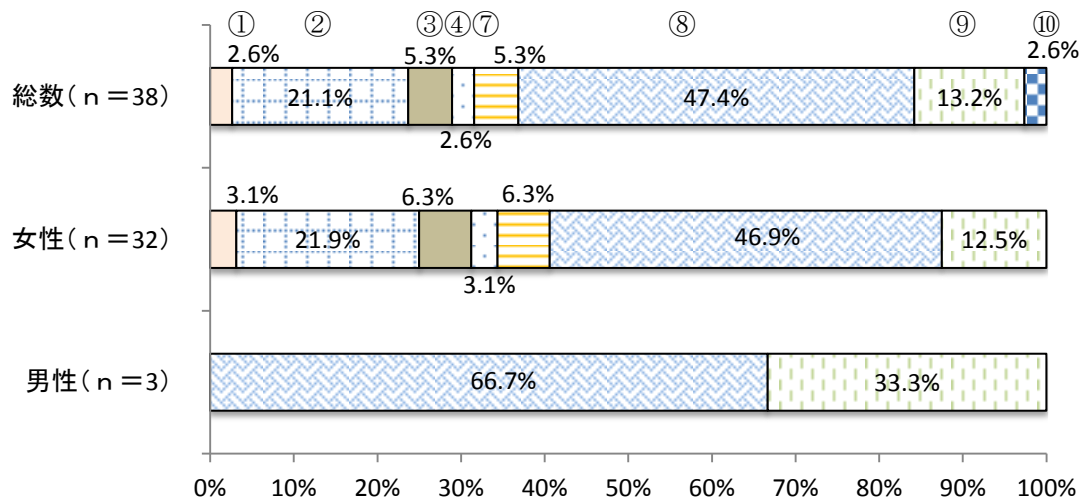




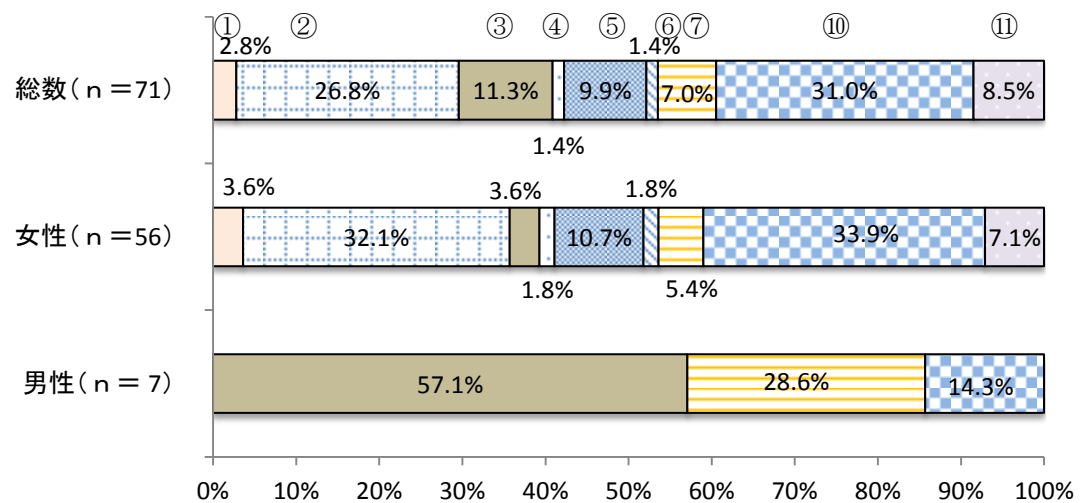
### 配偶者と別れなかった理由

- ① 相手の反応が怖かったから
- ② 経済的な不安があったから
- ③ 世間体を気にしたから
- ④ 相手には自分が必要だと思ったから
- ⑤ これ以上は繰り返されたいと思ったから
- ⑥ 周囲の人から、別れることに反対されたから
- ⑦ 相手が別れることに同意しなかったから
- ⑧ 子どもがいるから、子どものことを考えたから
- ⑨ 相手が変わってくれるかもしれないと思った
- ⑩ その他
- ⑪ 無回答

#### 【今回調査】



#### 【前回調査】



### 3 交際相手からの被害経験

前回調査は「経済的圧迫」について質問がなく、また、被害を受けた年齢層を 30 歳代以上と広げたため、一概に被害状況の比較はできないが、交際相手からの被害経験が「あった」と答えた人は、今回調査は 2 割、前回調査は 1 割で、交際相手からの暴力被害が増えている状況である。

どちらの調査も、交際相手から被害を受けて「相手と別れた」と答えた人は 5 割だが、2 割近くの人が「別れたい（別れよう）と思ったけれど別れなかった」と答えている。別れなかった理由は、どちらの調査も「相手の反応が怖かったから」と答えた人が多かった。

交際相手からの暴力が社会的に顕在化していることから、交際相手からの被害について、平成 25 年に「生活の本拠を共にする交際（婚姻関係における共同生活に類する共同生活を営んでいないものを除く。）をする関係にある相手からの暴力及び被害者」についても、配偶者からの暴力及び被害者に準じて「配偶者暴力防止法」の適用対象とすることを内容とする法改正が行われた。

交際相手からの暴力は、ストーカー行為や傷害事件等にエスカレートする場合や夫婦間の暴力に繋がる可能性が高いと言われている。暴力被害を早期に発見し、重大な被害の発生を未然に防止するために、幼少期からの暴力の予防教育と、若年層への交際相手からの暴力について正しい理解と知識を持つための取り組みが急務である。

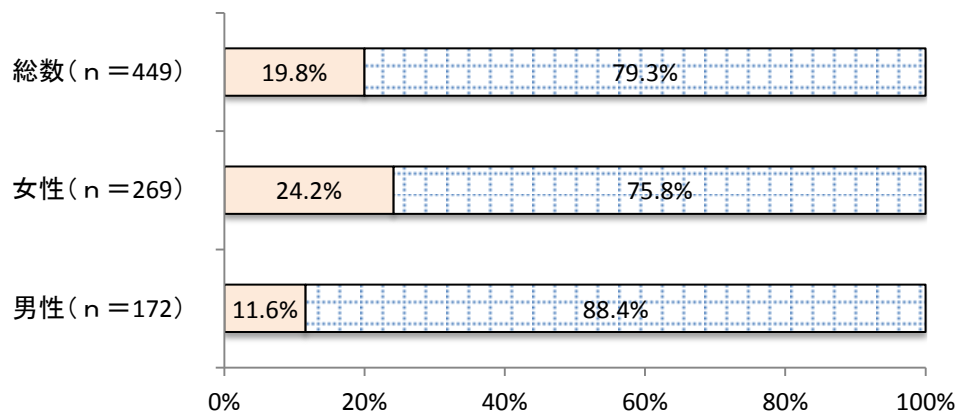
交際相手からの被害状況

あった

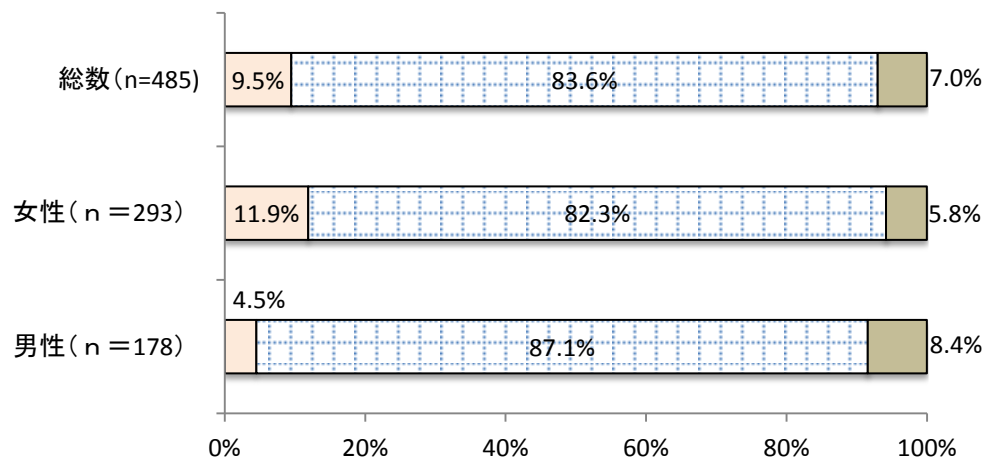
なかった

無回答

【今回調査】



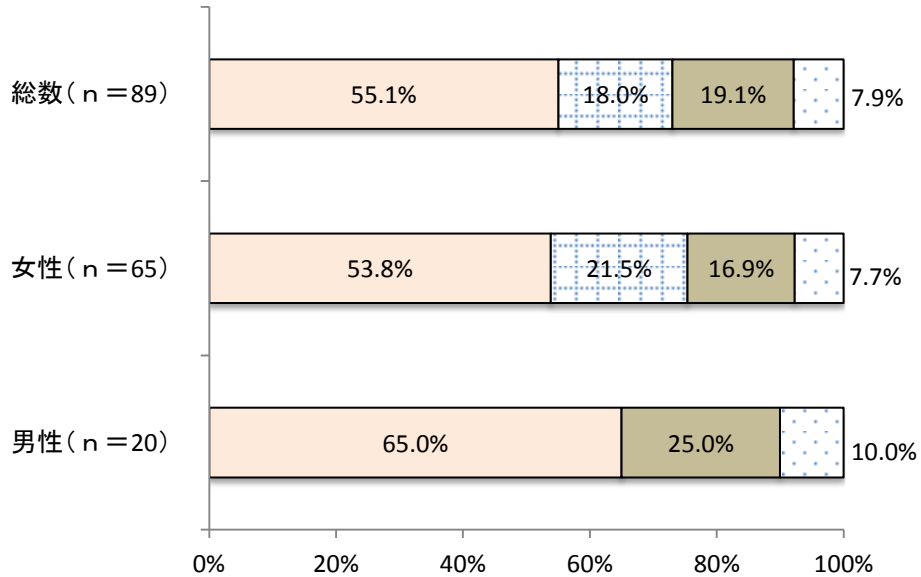
【前回調査】



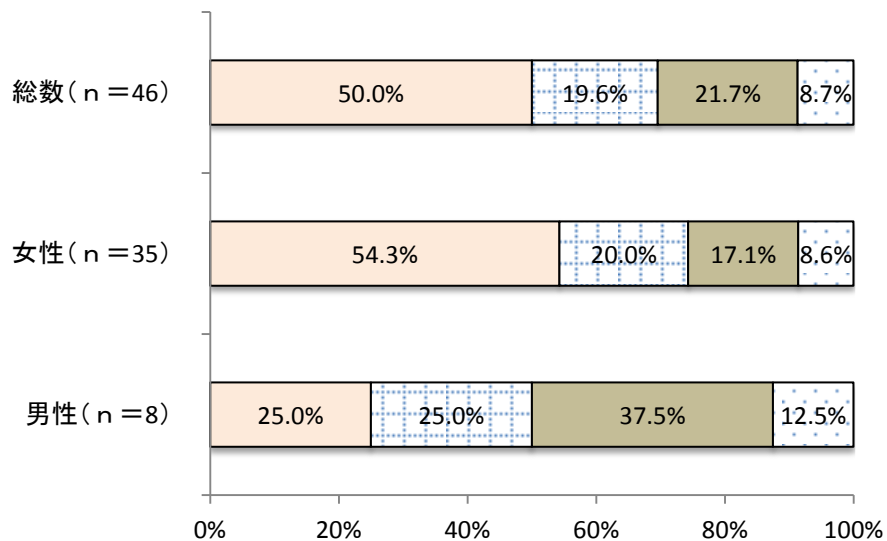
交際相手から被害を受けたときの行動

- 相手と別れた
- 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった
- 別れたい(別れよう)とは思わなかった
- 無回答

【今回調査】



【前回調査】



#### 4 相談窓口の認識

配偶者からの被害の相談先を比較すると、どちらの調査も「どこ(誰)にも相談しなかった」と答えた人が最も多かったが、今回調査では「どこ(誰)にも相談しなかった」と答えた人が減り、「友人・知人」、「家族や親戚」と答えた人が増えている。どちらの調査も公共機関へ相談した人は0から1割未満である。

相談しなかった理由は、どちらの調査も「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多かった。今回調査では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と答えた人が2倍近く、「相談してもむだだと思ったから」と答えた人が2倍以上増え、前回調査で回答率が高かった「自分にも悪いところがあると思ったから」と答えた人は減っている。

交際相手からの被害の相談先は、「友人・知人」が最も多いが1割程度であり、配偶者からの被害の相談先と比べると「友人・知人」や「家族・親戚」などの身近な人に相談している人が少ない。また、「どこ(誰)にも相談しなかった」理由は、どちらの調査も「相談してもむだだと思ったから」がいちばん多かった。

今回調査で、女性総合センター・アイムでカウンセリング相談を行っていることを知っているか聞いたところ、「知っている」と答えた人は2割にとどまった。

(92 ページ 図4 - 3 - 1)

配偶者からの暴力や交際相手からの暴力は、家庭内や親密な中で行われるため潜在化し、そのうえ加害者に罪の意識が薄く被害が深刻化しやすいと言われている。

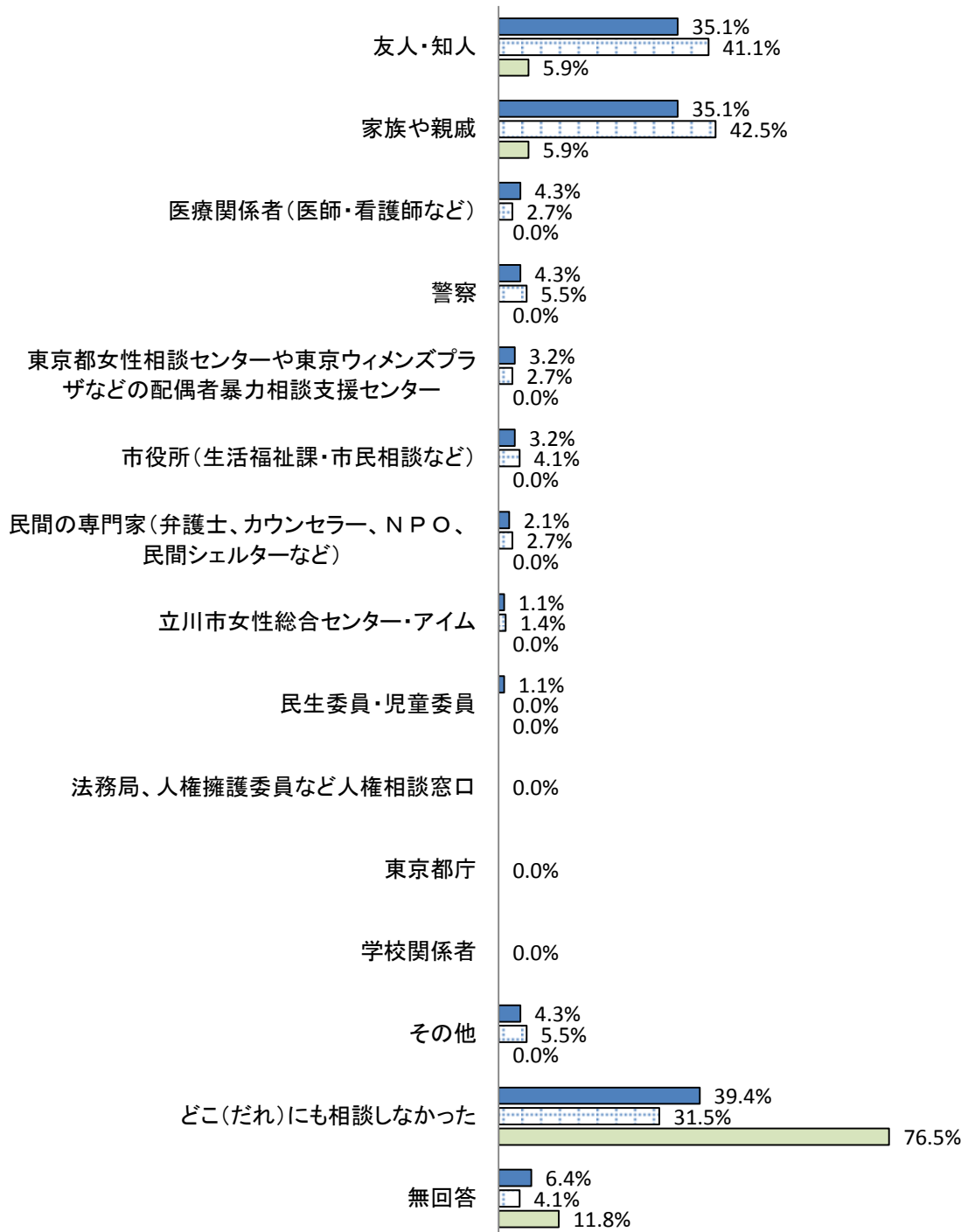
被害者が、「相談するほどのことではない」「自分さえがまんすれば」「相談してもむだ」と相談することを躊躇し適切な支援を受けず深刻な状況に陥らないよう、女性総合センター・アイムのカウンセリング相談をはじめとした身近な相談窓口を広く周知していくことが必要である。

配偶者からの被害の相談先(複数回答)

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【今回調査】

総数 (n = 94、M.T. = 139.6%) 女性 (n = 73、M.T. = 143.8%) 男性 (n = 17、M.T. = 100.1%)

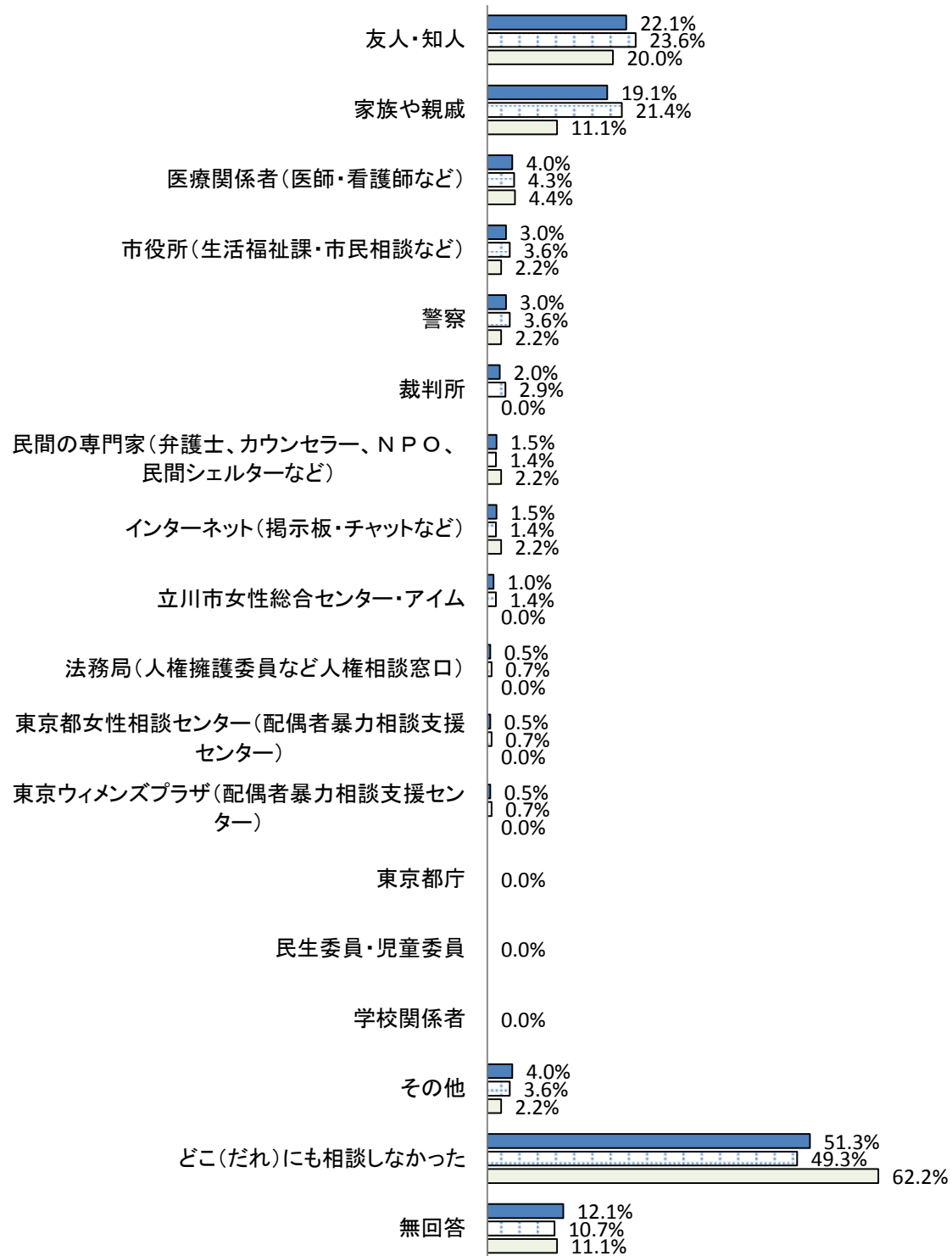


配偶者からの被害の相談先(複数回答)

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【前回調査】

総数 (n = 199、M.T. = 126.1%) 女性 (n = 140、M.T. = 129.3%) 男性 (n = 17、M.T. = 120.0%)



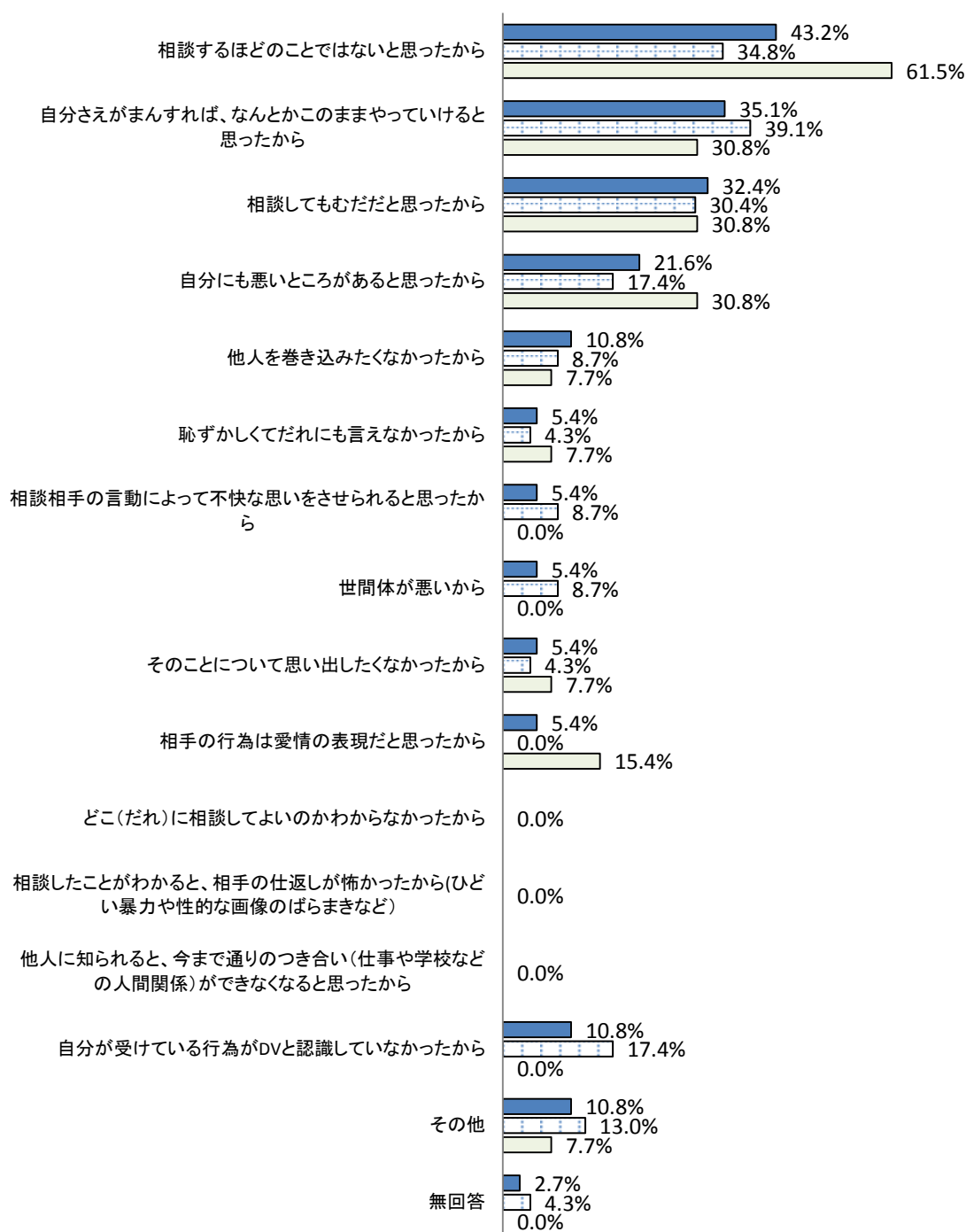
(配偶者からの被害)

相談しなかった理由 (複数回答)

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【今回調査】

総数 (n = 37、M.T. = 194.6%) 女性 (n = 23、M.T. = 191.3%) 男性 (n = 13、M.T. = 200.0%)



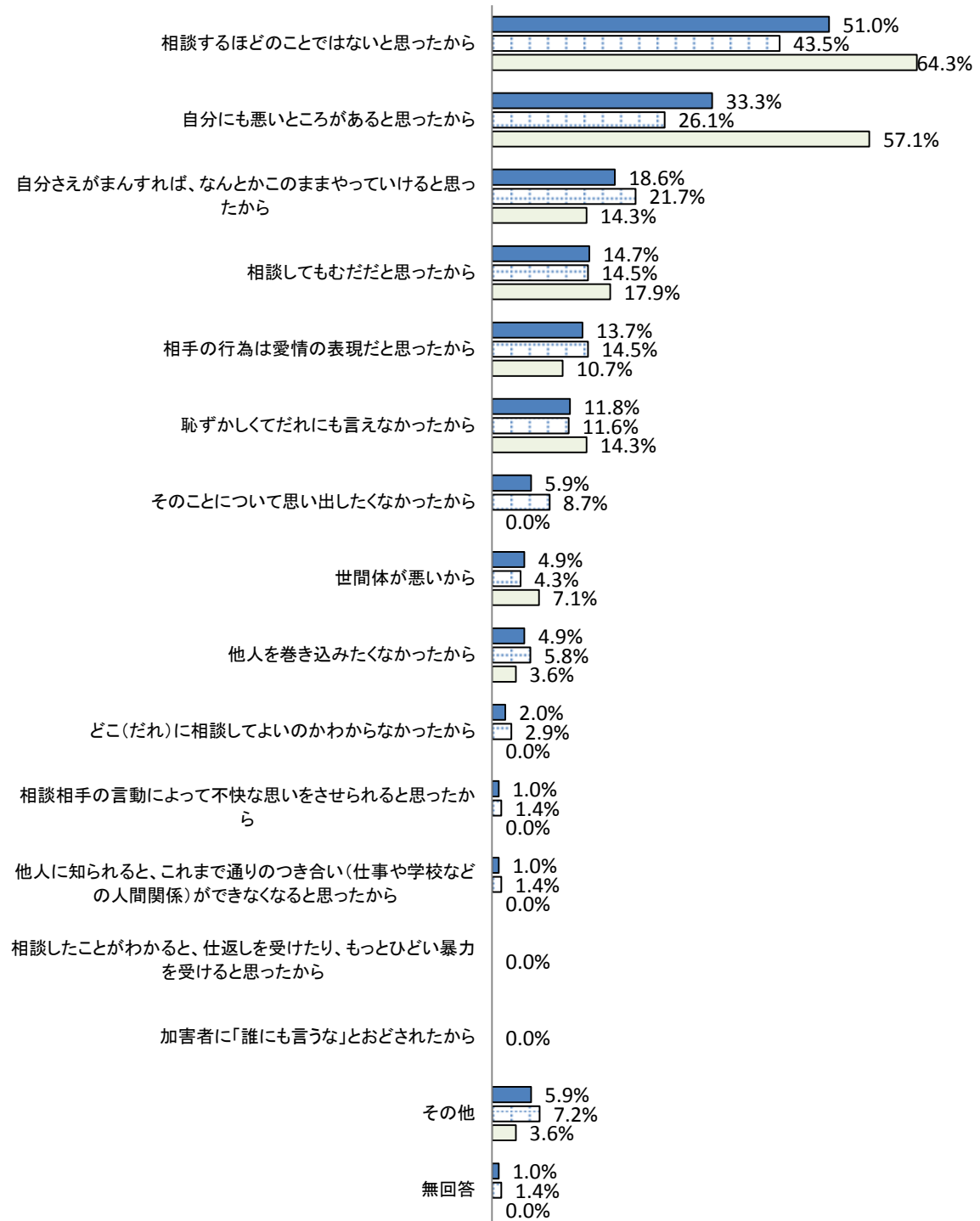


相談しなかった理由（複数回答）

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【前回調査】

総数（n = 102 M.T. = 169.6%） 女性（n = 69 M.T. = 165.2%） 男性（n = 28 M.T. = 192.9%）



交際相手からの被害の相談先(複数回答)

| 【今回調査】                                     | 回答数 | 構成比   |
|--------------------------------------------|-----|-------|
| (1) 友人・知人                                  | 13  | 14.6% |
| (2) 家族や親戚                                  | 4   | 4.5%  |
| (3) 医療関係者(医師・看護師など)                        | 1   | 1.1%  |
| (4) 法務局、人権擁護委員など人権相談窓口                     | 0   | 0.0%  |
| (5) 警察                                     | 1   | 1.1%  |
| (6) 東京都庁                                   | 0   | 0.0%  |
| (7) 東京都女性相談センターや東京ウィメンズプラザなどの配偶者暴力相談支援センター | 0   | 0.0%  |
| (8) 市役所(生活福祉課・市民相談など)                      | 1   | 1.1%  |
| (9) 立川市女性総合センター・アイム                        | 0   | 0.0%  |
| (10) 民生委員・児童委員                             | 0   | 0.0%  |
| (11) 民間の専門家(弁護士、カウンセラー、NPO、民間シェルターなど)      | 1   | 1.1%  |
| (12) 学校関係者                                 | 0   | 0.0%  |
| (13) どこ(だれ)にも相談しなかった                       | 9   | 10.1% |
| (14) その他                                   | 1   | 1.1%  |
| 無回答                                        | 66  | 74.2% |

| 【前回調査】                                     | 回答数 | 構成比   |
|--------------------------------------------|-----|-------|
| (1) 友人・知人                                  | 6   | 13.0% |
| (2) 家族や親戚                                  | 3   | 6.5%  |
| (3) 医療関係者(医師・看護師など)                        | 3   | 4.3%  |
| (4) 法務局、人権擁護委員など人権相談窓口                     | 0   | 0.0%  |
| (5) 警察                                     | 1   | 2.2%  |
| (6) 裁判所                                    | 1   | 2.2%  |
| (7) 東京都庁                                   | 0   | 0.0%  |
| (8) 東京都女性相談センターや東京ウィメンズプラザなどの配偶者暴力相談支援センター | 0   | 0.0%  |
| (9) 市役所(生活福祉課・市民相談など)                      | 0   | 0.0%  |
| (10) 立川市女性総合センター・アイム                       | 0   | 0.0%  |
| (11) 民生委員・児童委員                             | 0   | 0.0%  |
| (12) 民間の専門家(弁護士、カウンセラー、NPO、民間シェルターなど)      | 0   | 0.0%  |
| (13) 学校関係者                                 | 0   | 0.0%  |
| (14) どこ(だれ)にも相談しなかった                       | 9   | 19.6% |
| その他                                        | 0   | 0.0%  |
| 無回答                                        | 28  | 60.9% |

## (交際相手からの被害)

## 相談しなかった理由(複数回答)

## 【今回調査】

|      |                                                | 回答数 | 構成比   |
|------|------------------------------------------------|-----|-------|
| (1)  | どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから                       | 1   | 11.1% |
| (2)  | 恥ずかしくてだれにも言えなかったから                             | 3   | 33.3% |
| (3)  | 相談してもむだだと思ったから                                 | 3   | 33.3% |
| (4)  | 相談したことがわかったと、相手の仕返しが怖かったから(ひどい暴力や性的な画像のばらまきなど) | 0   | 0.0%  |
| (5)  | 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから                   | 0   | 0.0%  |
| (6)  | 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから                | 1   | 11.1% |
| (7)  | 世間体が悪いから                                       | 2   | 22.2% |
| (8)  | 他人を巻き込みたくなかったから                                | 1   | 11.1% |
| (9)  | 他人に知られると、今まで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから | 1   | 11.1% |
| (10) | そのことについて思い出したくなかったから                           | 0   | 0.0%  |
| (11) | 自分にも悪いところがあると思ったから                             | 2   | 22.2% |
| (12) | 相手の行為は愛情の表現だと思ったから                             | 2   | 22.2% |
| (13) | 相談するほどのことではないと思ったから                            | 1   | 11.1% |
| (14) | 自分が受けている行為が暴力と認識していなかったから                      | 1   | 11.1% |
| (15) | その他                                            | 0   | 0.0%  |
|      | 無回答                                            | 0   | 0.0%  |

## 【前回調査】

|      |                                                | 回答数 | 構成比   |
|------|------------------------------------------------|-----|-------|
| (1)  | どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから                       | 3   | 33.3% |
| (2)  | 恥ずかしくてだれにも言えなかったから                             | 2   | 22.2% |
| (3)  | 相談してもむだだと思ったから                                 | 4   | 44.4% |
| (4)  | 相談したことがわかったと、相手の仕返しが怖かったから(ひどい暴力や性的な画像のばらまきなど) | 1   | 11.1% |
| (5)  | 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから                   | 0   | 0.0%  |
| (6)  | 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから                | 1   | 11.1% |
| (7)  | 世間体が悪いから                                       | 1   | 11.1% |
| (8)  | 他人を巻き込みたくなかったから                                | 0   | 11.1% |
| (9)  | 他人に知られると、今まで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから | 1   | 11.1% |
| (10) | そのことについて思い出したくなかったから                           | 0   | 0.0%  |
| (11) | 自分にも悪いところがあると思ったから                             | 1   | 11.1% |
| (12) | 相手の行為は愛情の表現だと思ったから                             | 2   | 22.2% |
| (13) | 相談するほどのことではないと思ったから                            | 0   | 0.0%  |
| (14) | 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから                           | 0   | 0.0%  |
| (15) | その他                                            | 1   | 1.1%  |
|      | 無回答                                            | 0   | 0.0%  |

## 5 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制

男女間の暴力を防止するために必要なこととして、どちらの調査も「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」「学校・大学で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う」が多くなっており、「身近な相談窓口」と「暴力防止教育」の必要性が認識されている。

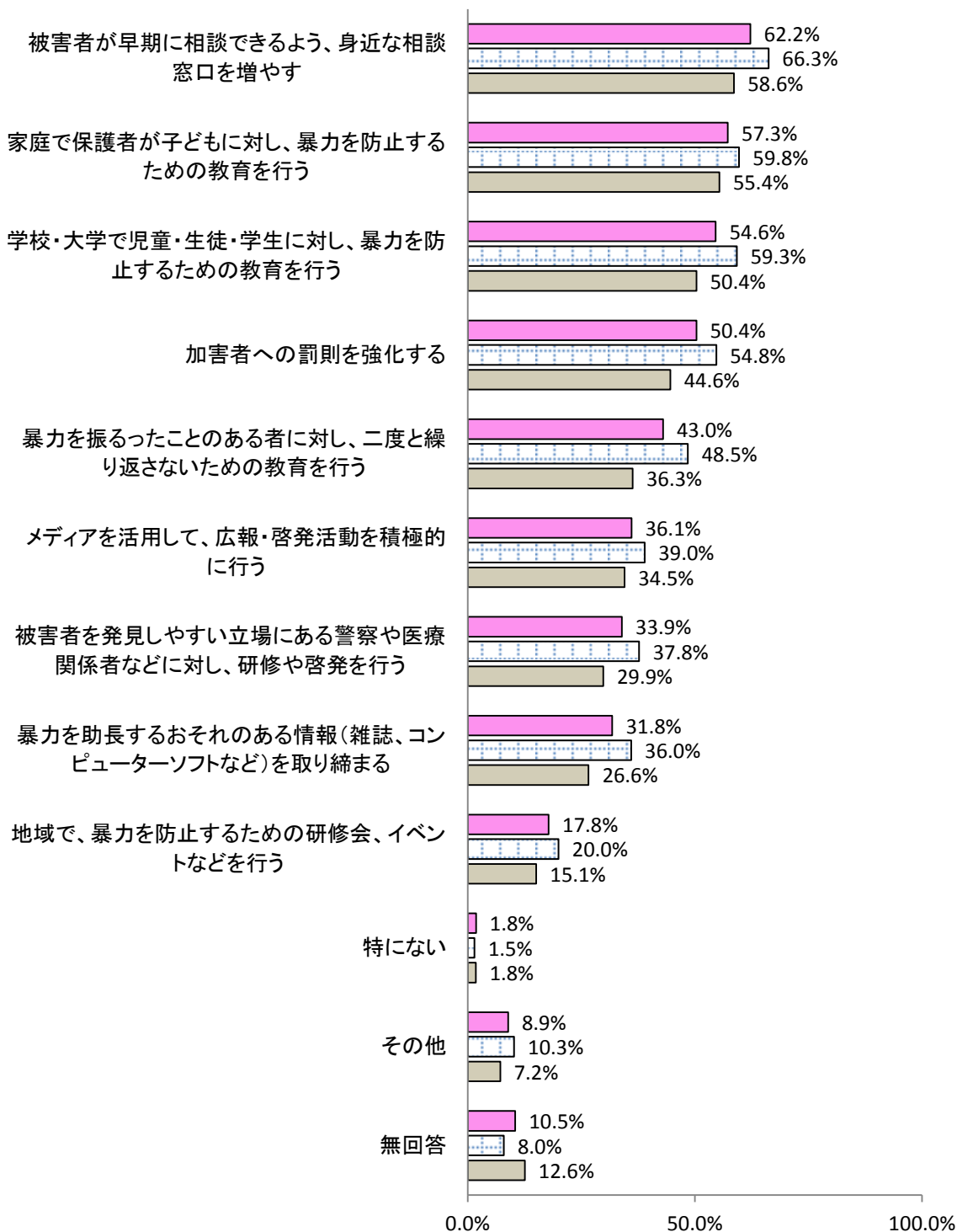
また、被害者が相談しやすい体制を作るために必要なことは、どちらの調査も「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」が最も多く、次いで「相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする」が多くなっている。被害者の安全の確保と相談窓口の周知をさらに充実させ、被害者の自立支援につなげていくことが重要である。

男女間の暴力を防止するために必要なこと（複数回答）

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【今回調査】

総数（n = 707、M.T = 408.3%）女性（n = 400、M.T = 441.0%）男性（n = 278、M.T = 373.0%）

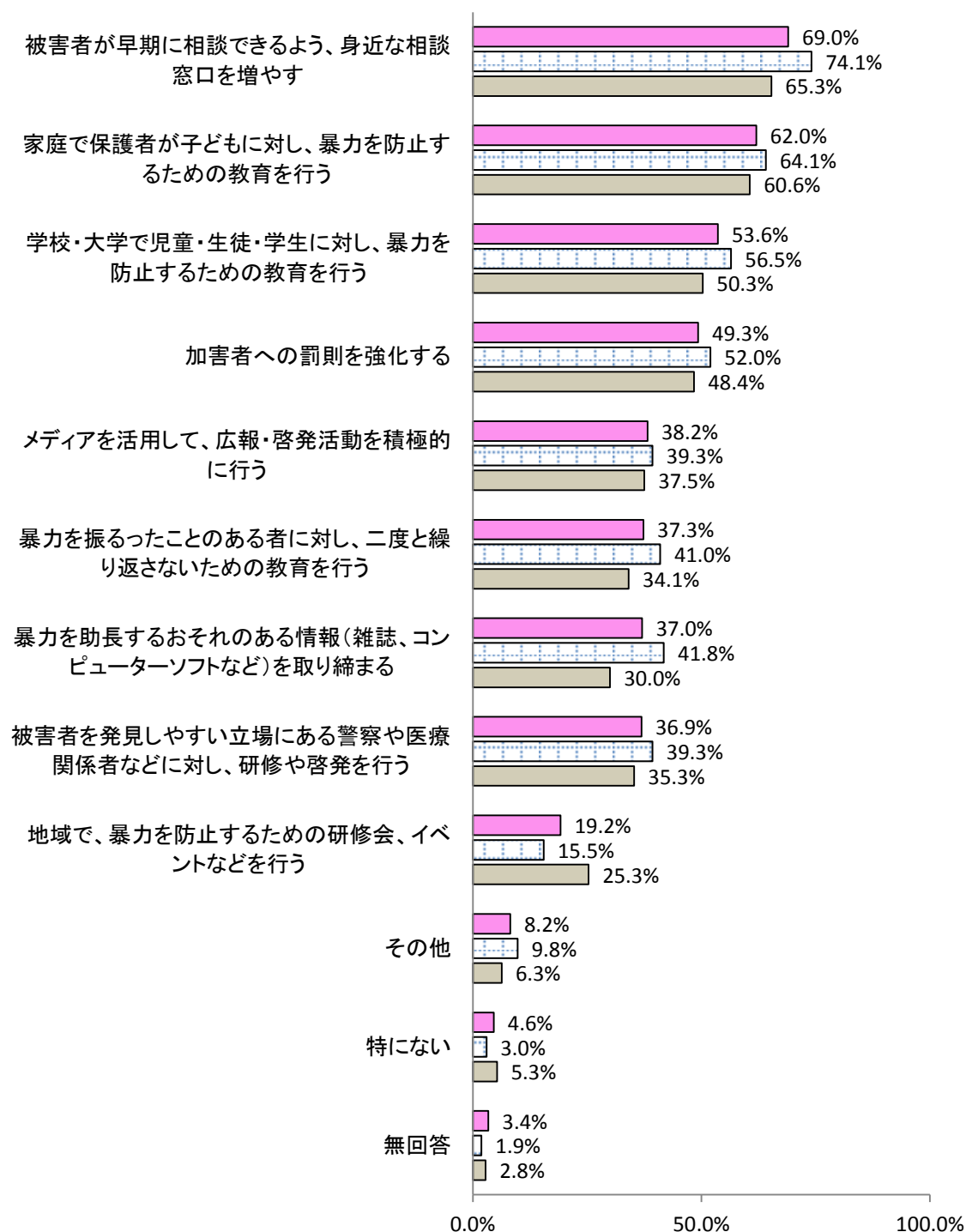


男女間の暴力を防止するために必要なこと（複数回答）

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【前回調査】

総数（n=832、M.T=418.6%） 女性（n=471、M.T=438.2%） 男性（n=320、M.T=401.3%）

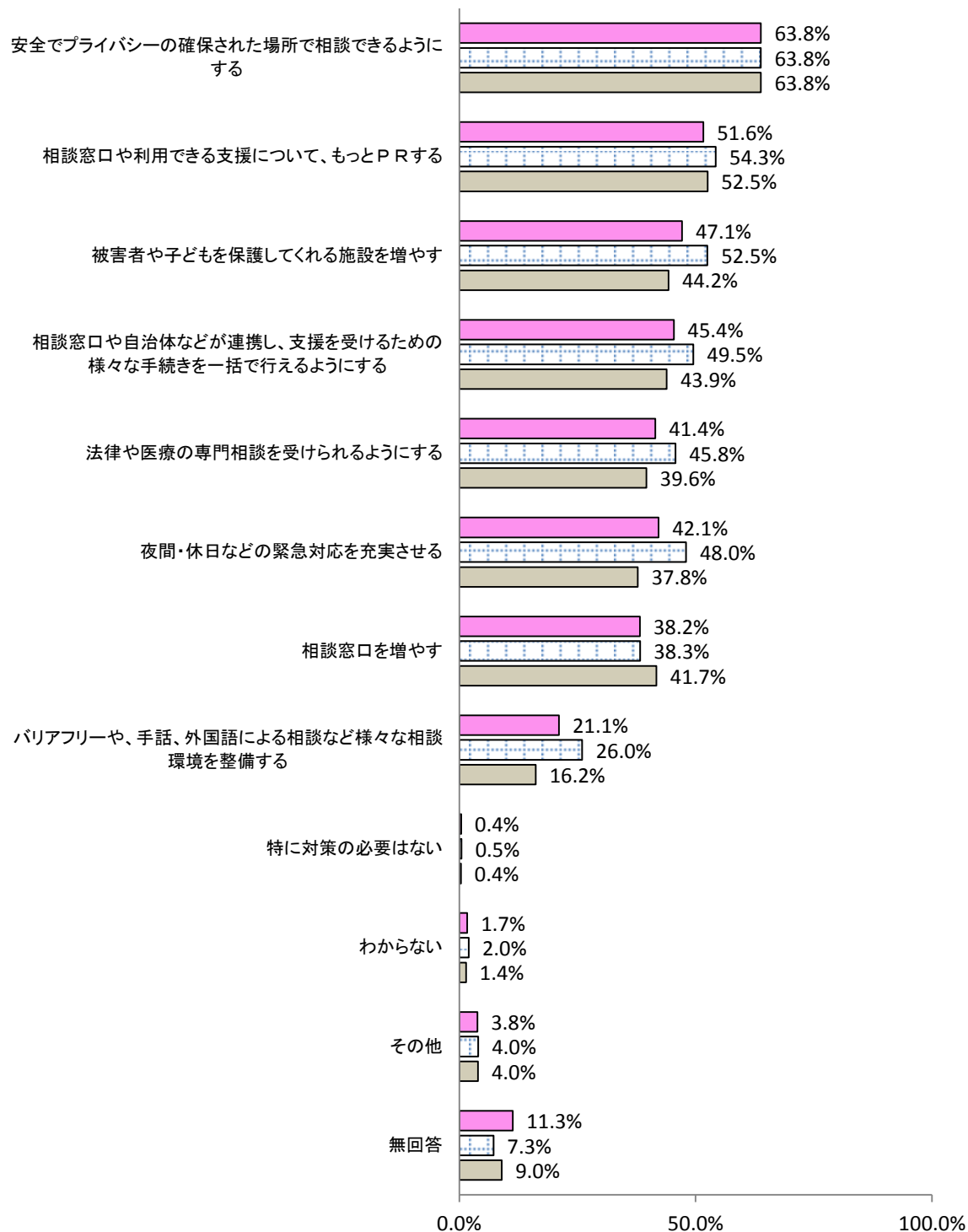


被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと（複数回答）

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【今回調査】

総数（n = 707、M.T=368.0%）女性（n = 400、M.T=391.8%）男性（n = 278、M.T=354.4%）

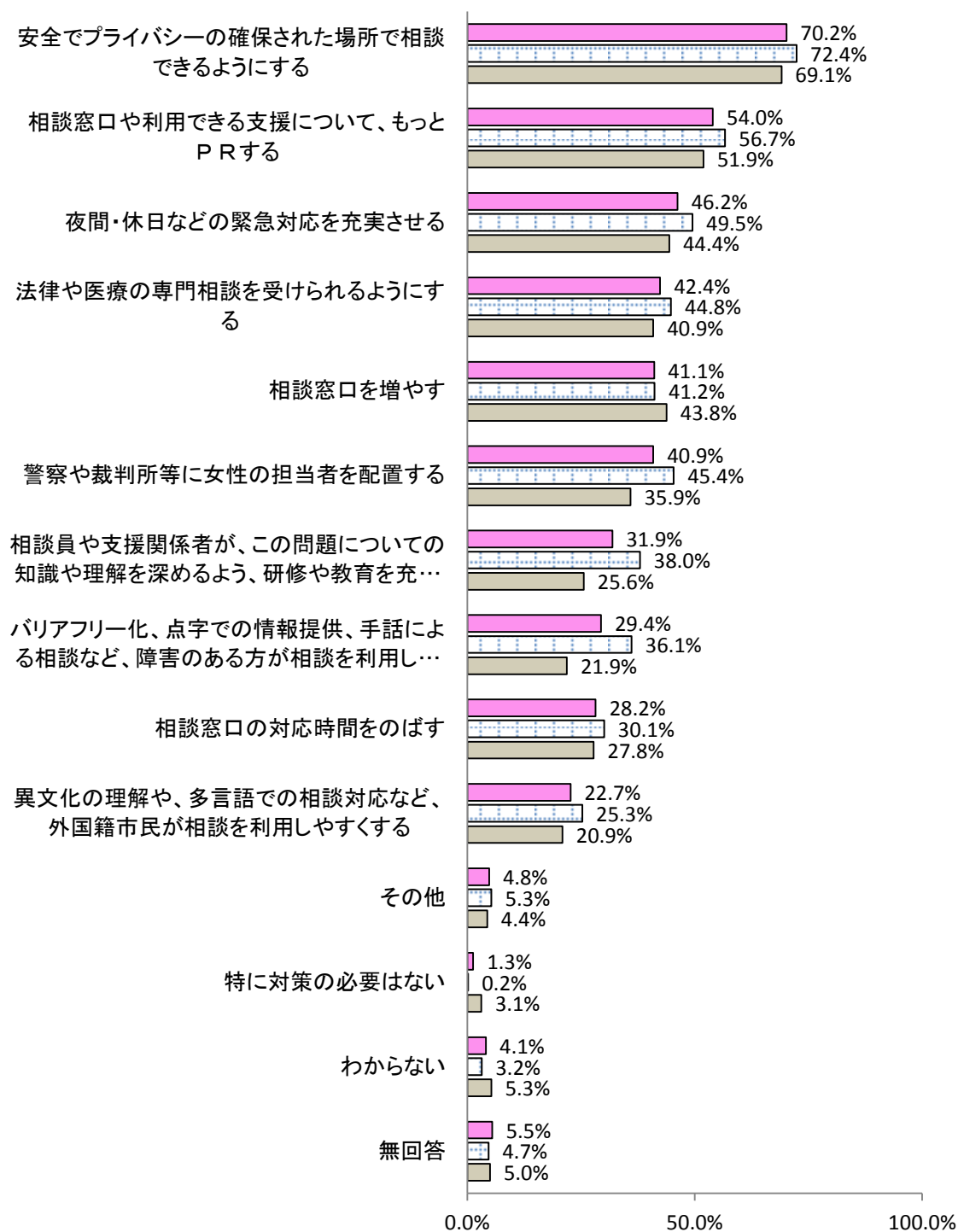


被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと（複数回答）

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

【前回調査】

総数（n = 832、M.T=422.7%） 女性（n = 471、M.T=452.9%） 男性（n = 320、M.T=400.0%）





### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1 夫婦間での行為における暴力としての認識

14 項目の行為について夫婦間で行われた場合に「暴力」にあたると思うかの意識を聞いた（図 1-1）。今回の調査では、「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれている。

「暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”と“刃物などを突きつけて、おどす”で 9 割以上の人々が「暴力にあたる」と認識している。

また、“足でける”は約 9 割、“いやがっているのに性的な行為を強要する”は約 8 割の人が、それぞれ「暴力にあたる」と認識している。

これに対し、「暴力にあたると思わない」と考える人が比較的多かったのは、“交友関係や電話・メールを細かく監視する”と“家計に必要な生活費を渡さない”で、1 割以上の人々が「暴力にあたらない」という認識を持っている。

（1）あなたは、1～14 のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。※「夫婦」には、事実婚(婚姻届を出していない婚姻関係)や別居中の夫婦も含みます。以下、同様。（各項目、1 つを選択）

図 1 - 1 夫婦間での行為における暴力としての認識

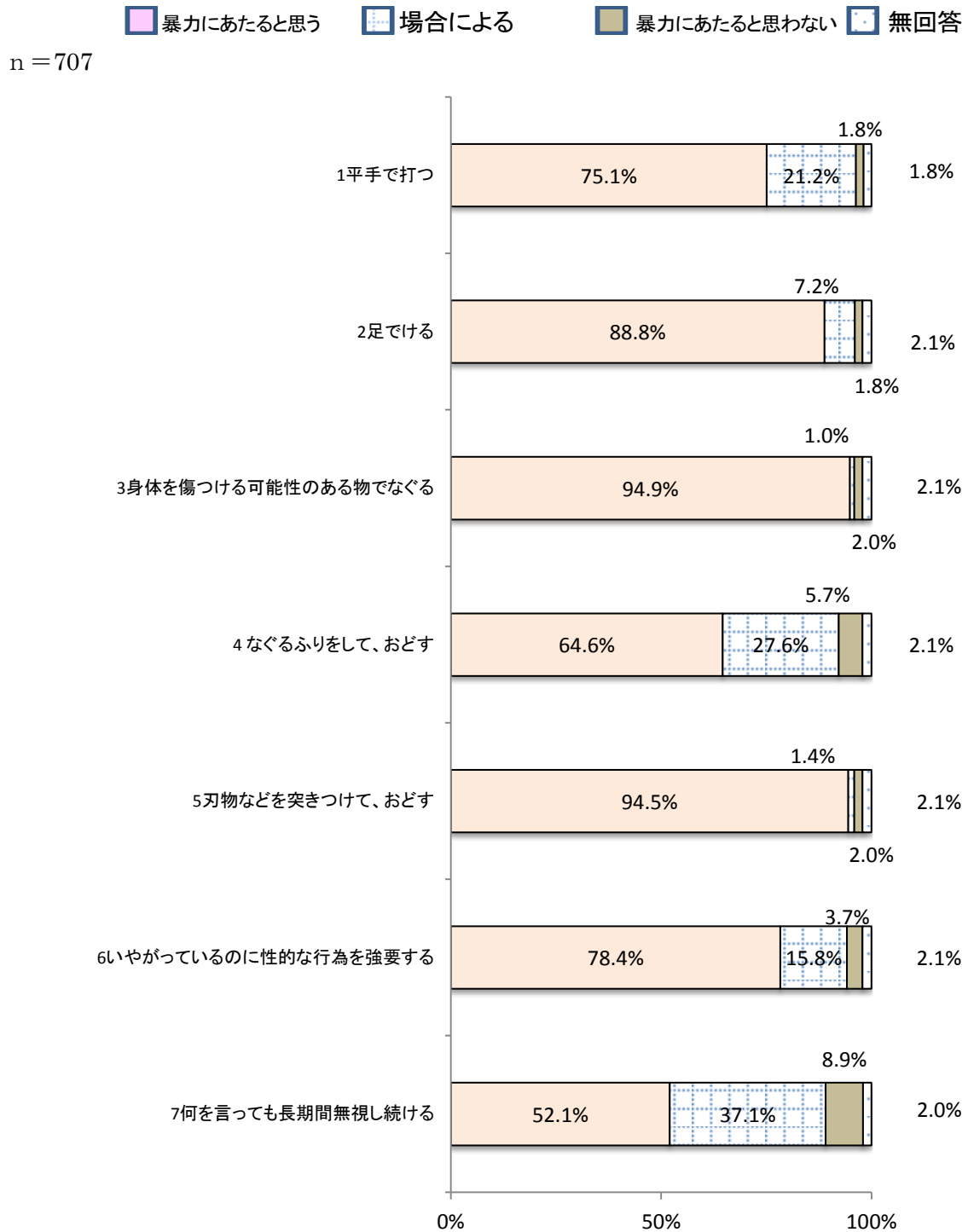
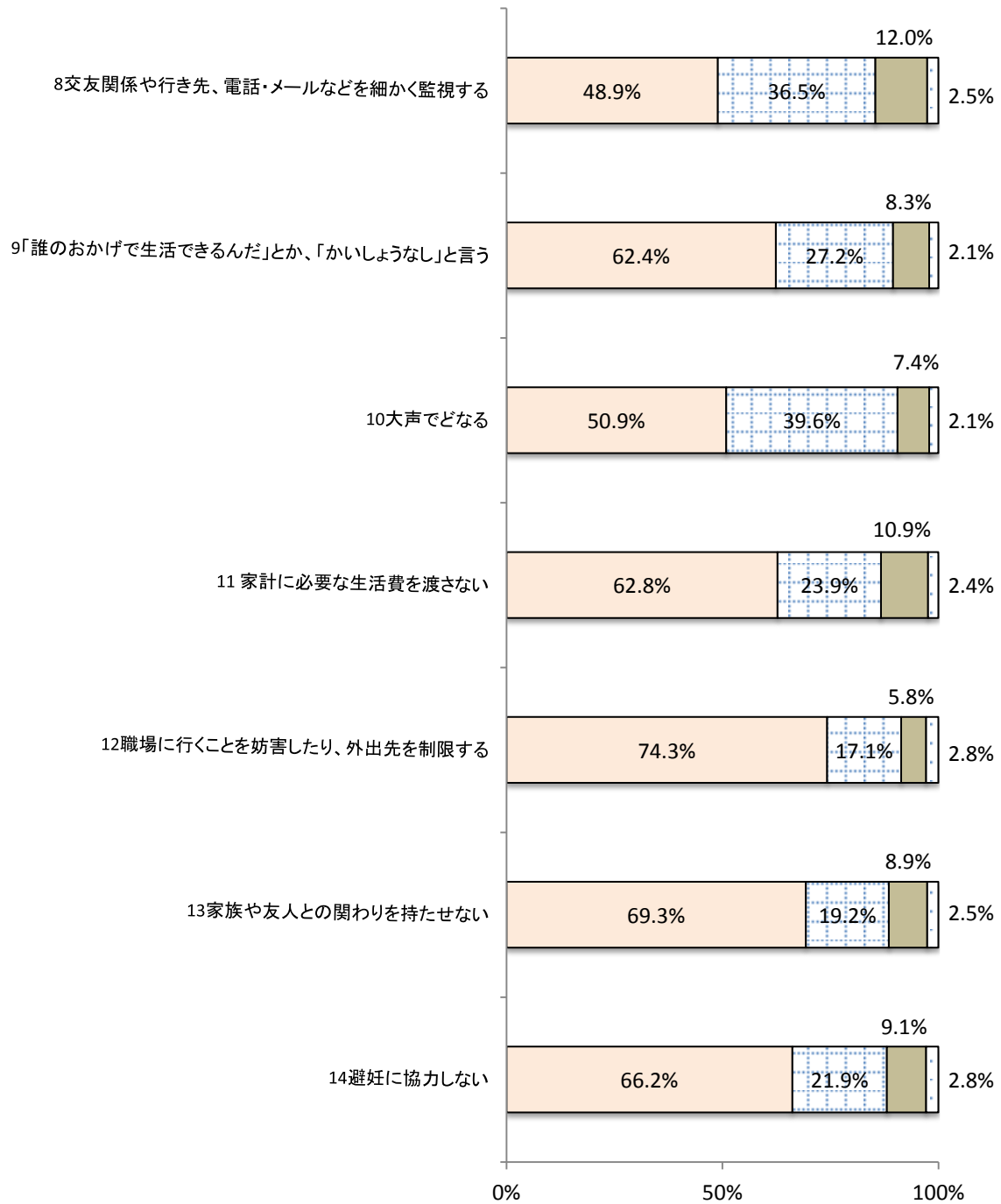


図 1 - 1 のつづき

暴力にあたると思う
  場合による
  暴力にあたると思わない
  無回答

n = 707



男女別でみると（図1・2）、「暴力にあたる思う」と答え、暴力としての認識を持っている人は、“平手で打つ”、“足でける”、“身体を傷つける可能性のあるものでなぐる”、“なぐるふりをして、おどす”“刃物などを突きつけて、おどす”という行為について女性より男性に多かった。認識の差が大きかったのは、“足でける”で女性より男性が8ポイント高かった。

一方、“何を言っても長時間無視し続ける”“交友関係や電話を細かく監視する”と“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”、“大声でどなる”“家計に必要な生活費を渡さない”、“職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”、“家族や友人との関わりを持たせない”など、心理的、経済的な行為については男性より女性に多くなっている。認識の差が大きかったのは、“家計に必要な生活費を渡さない”で男性より女性が13ポイント高かった。

図1 - 2 夫婦間での行為における暴力としての認識（男女別）

(n=707)

■ 暴力にあたると思う ■ 場合による ■ 暴力にあたると思わない ■ 無回答

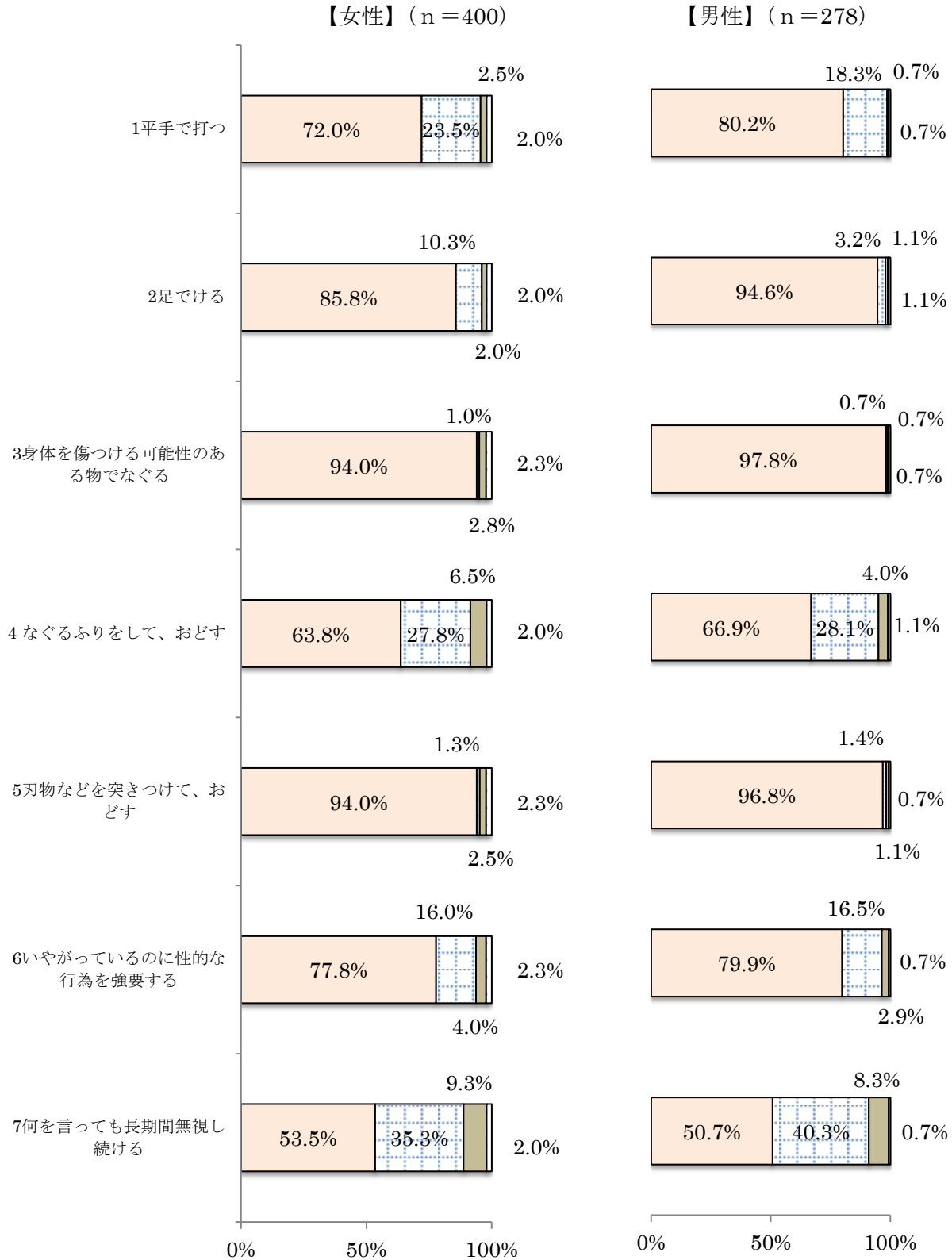


図 1 - 2 のつづき

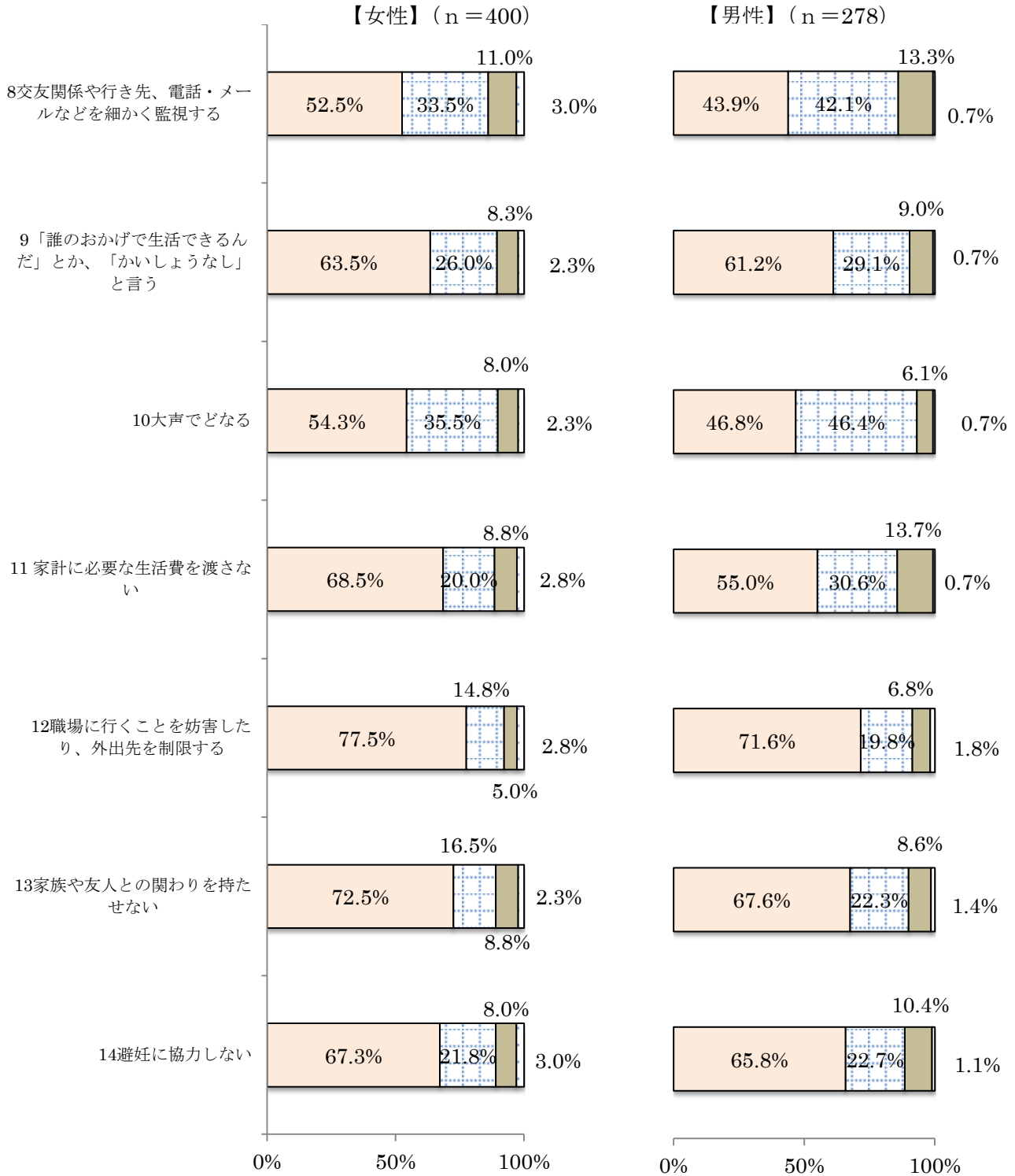
■ 暴力にあたると思う

■ 場合による

■ 暴力にあたると思わない

■ 無回答

(n=707)



今回調査で、第6次男女平等参画推進計画の「テーマⅣ配偶者等からの暴力の防止」施策の指標である【夫婦間における「1 平手で打つ」「4 なぐるふりをしておどす」「8 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」】の暴力としての認識度を把握し、前回調査の結果を最新値として設定して、比較しながら施策の進捗状況を確認していく。

前回調査と共通する項目について認識を比較すると（図1-3）、すべての項目において暴力として認識する人の割合がほぼ同じか、少し多くなっている。

（注）“家計に必要な生活費を渡さない”、“職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”、“家族や友人との関わりを持たせない”、“避妊に協力しない”の4項目については前回調査の質問にないため、比較の対象としていない。

図1 - 3 夫婦間での行為における暴力としての認識

今回調査と前回調査の比較

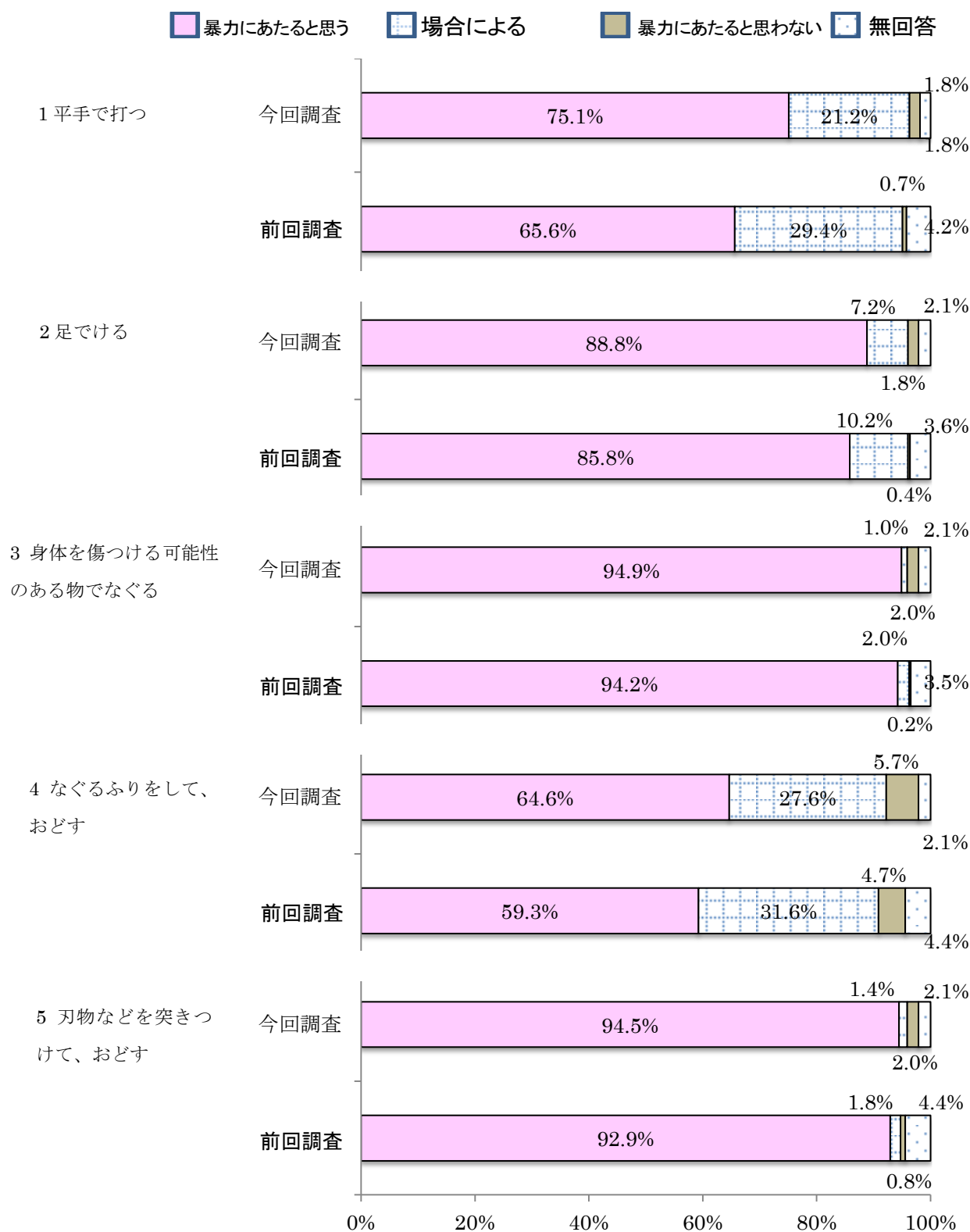
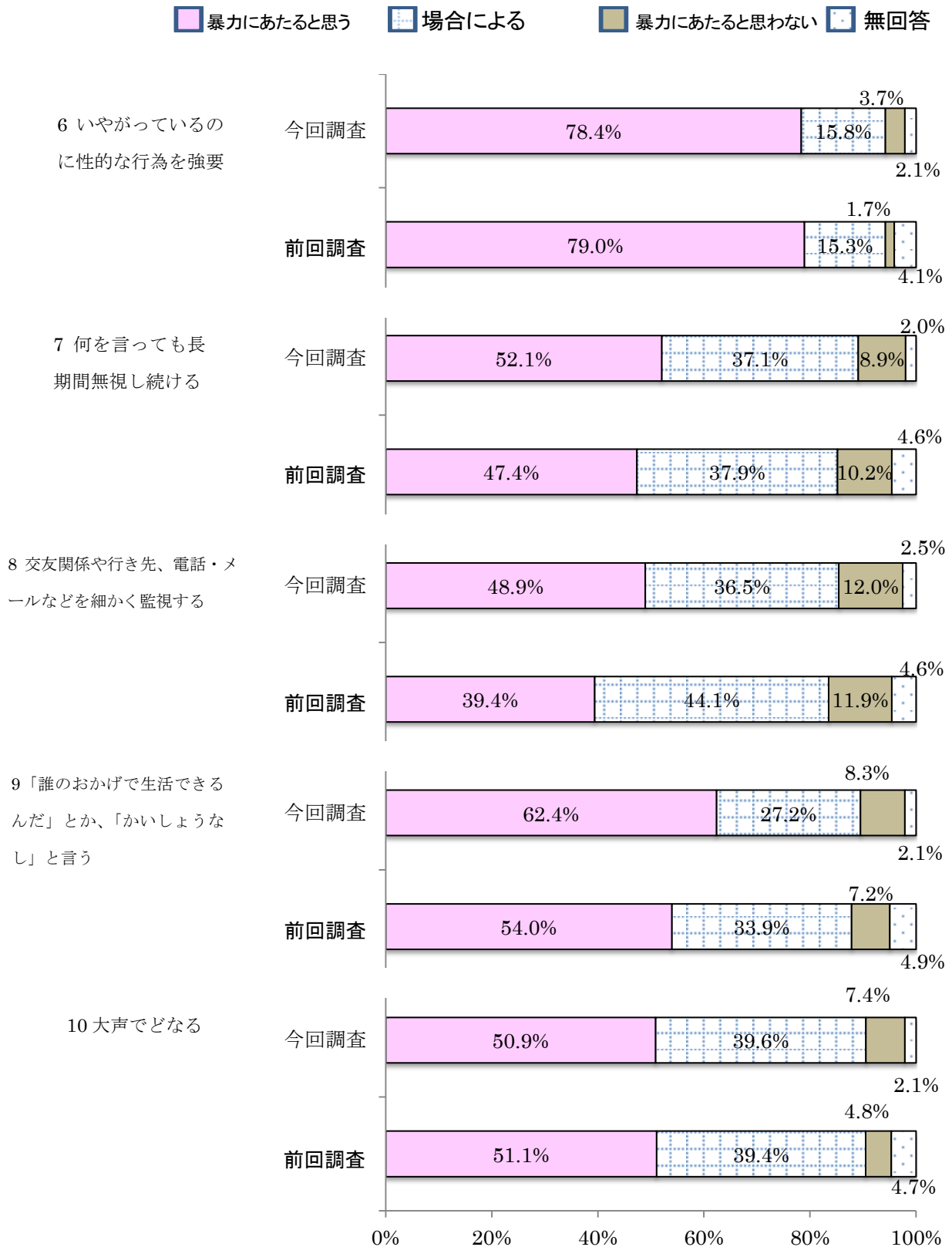




図 1 - 3 夫婦間での行為における暴力としての認識

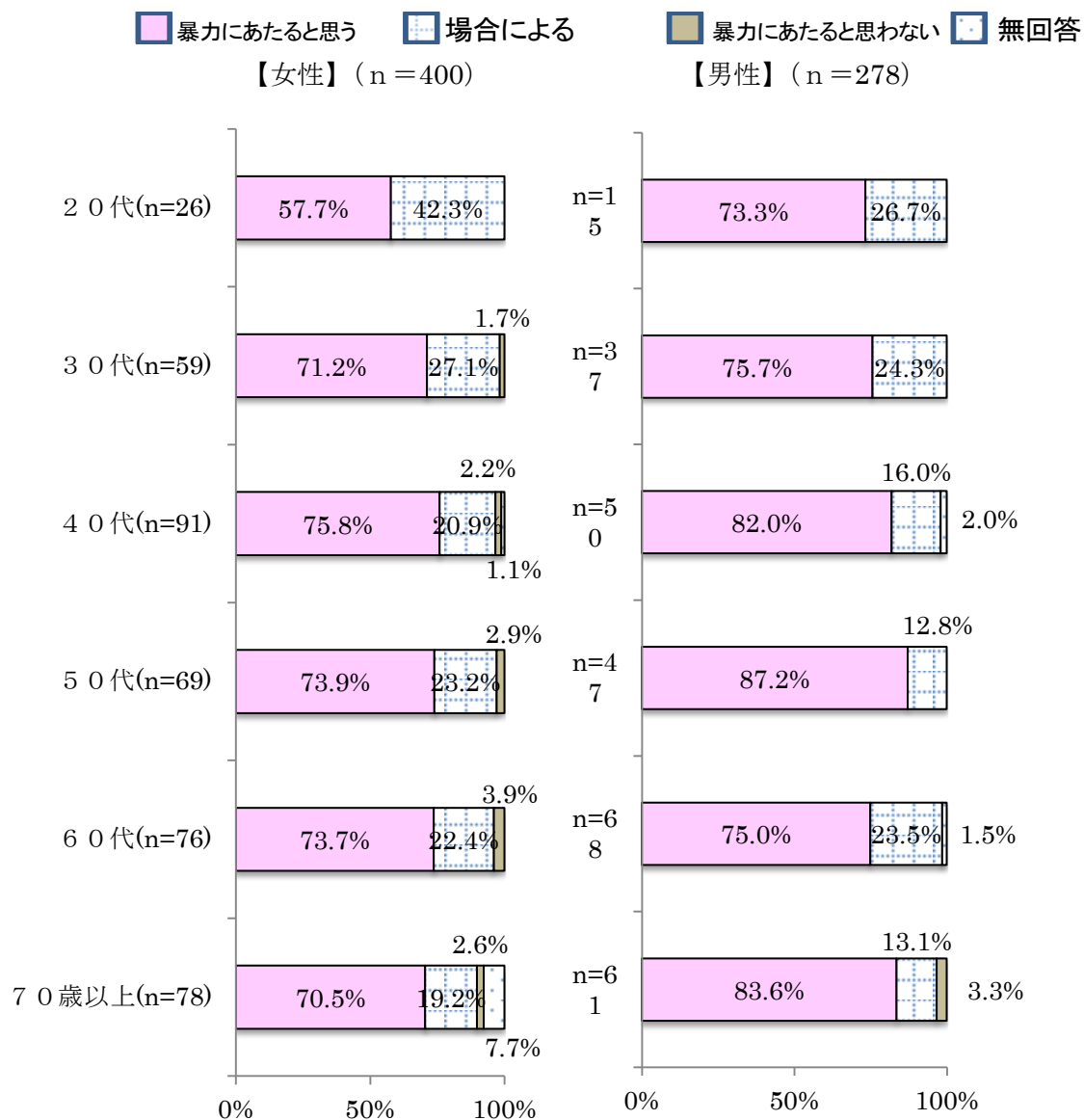


各項目についての回答を、性・年齢別に分析すると次のような傾向が見られる。

“平手で打つ” ことについては（図1-4）、男女とも「暴力にあたると思う」という人が多いが、女性の20代は6割以下と他の性・年齢層より少なくなっている。

図1 - 4 夫婦間での行為における暴力としての認識

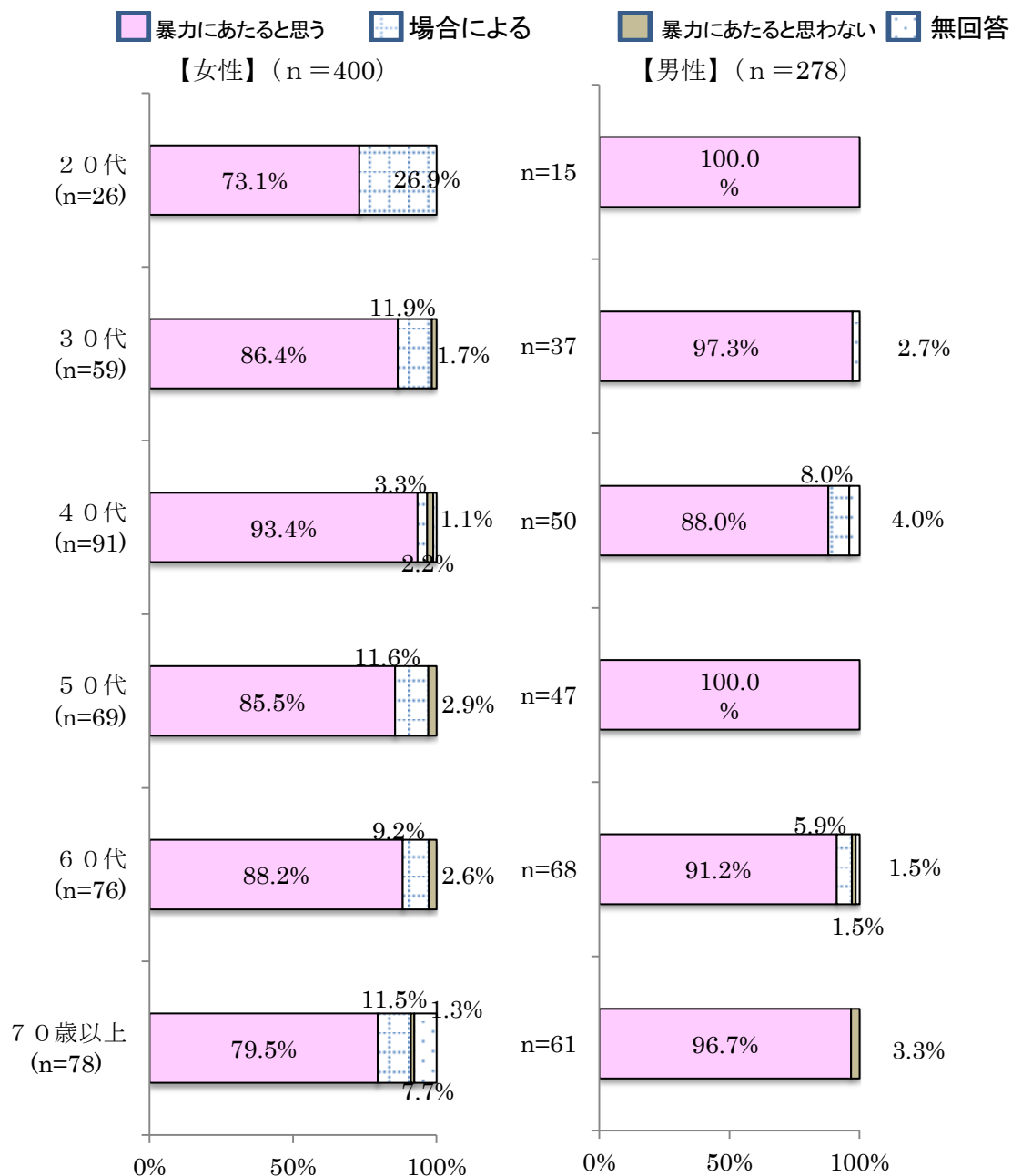
“平手で打つ”（性・年齢別）



“足でける” ことについては (図 1-5)、男女ともすべての年齢層で、ほとんどが「暴力にあたると思う」と認識しているが、女性の 20 代は 7 割ほどで、他の性・年齢層より少なくなっている。

図 1 - 5 夫婦間での行為における暴力としての認識

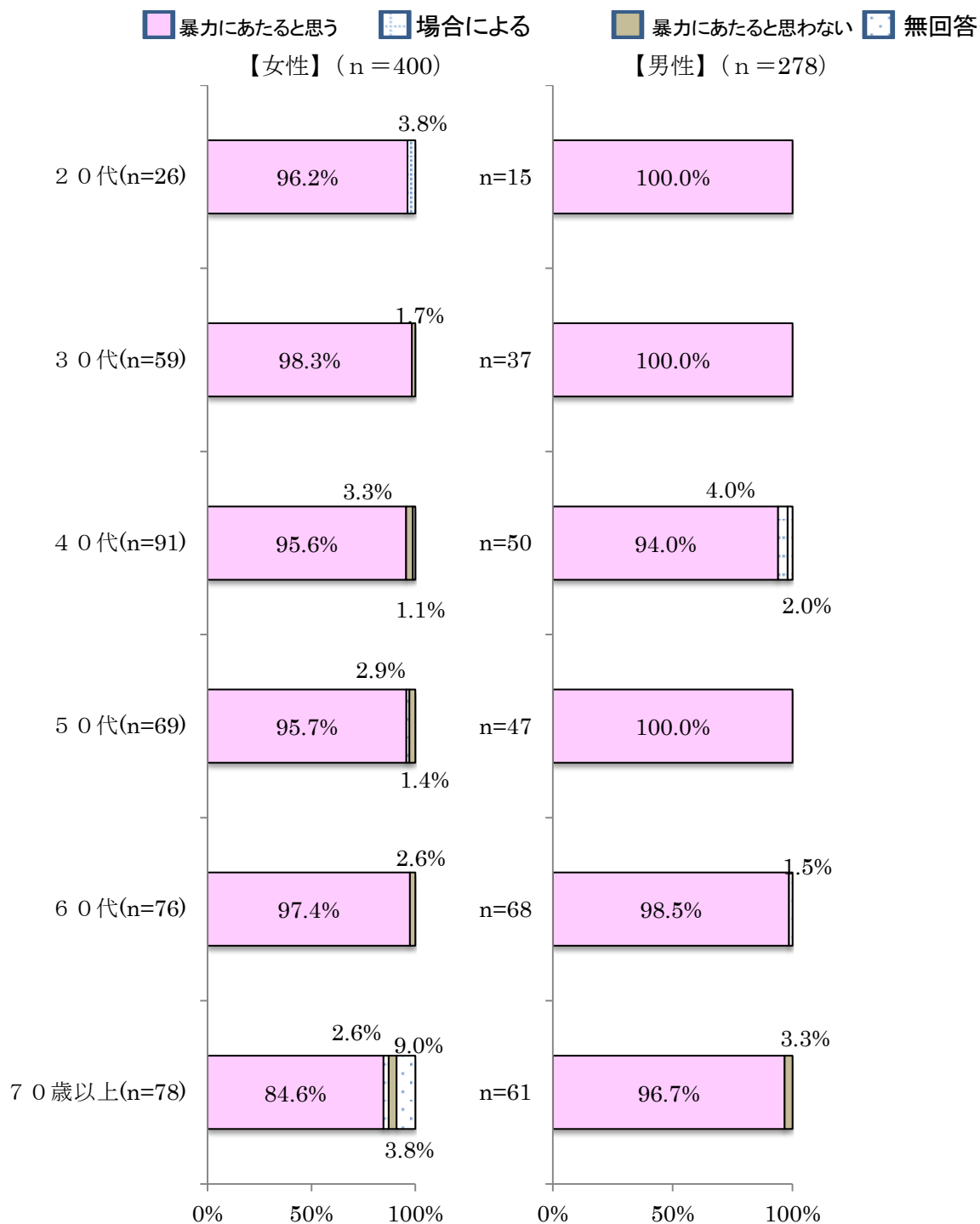
“足でける” (性・年齢別)



“身体を傷つける可能性のある物でなぐる” ことについては（図1-6）、男女ともすべての年齢層で、ほとんどが「暴力にあたると思う」と認識しているが、女性の70歳以上は8割で、他の年齢層よりやや少なくなっている。

図1-6 夫婦間での行為における暴力としての認識

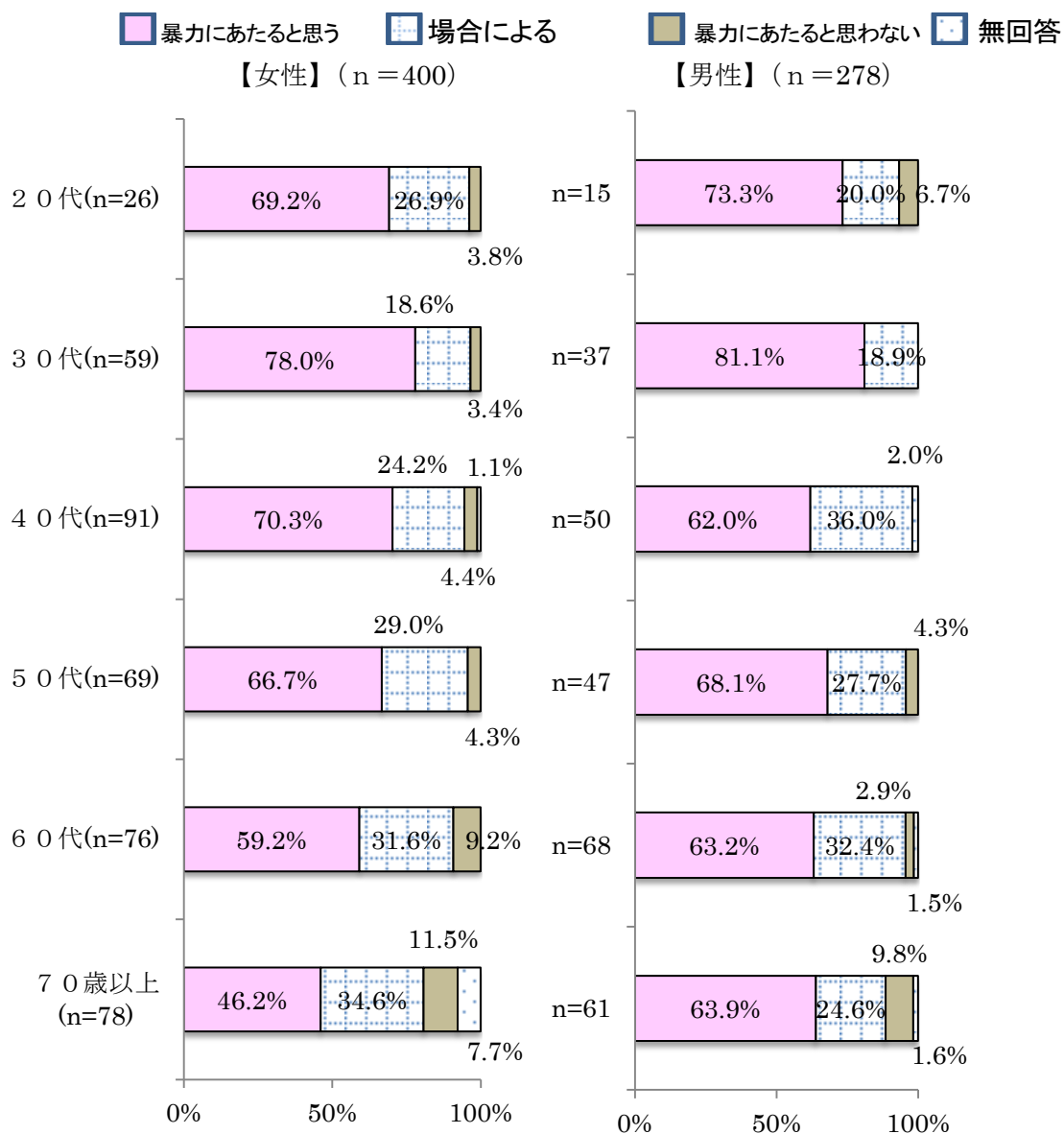
“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”（性・年齢別）



“なぐるふりをして、おどす” ことについては（図1-7）、「暴力にあたると思う」という人は、女性の20代から50代は7割前後だが、女性の60代は約6割、70歳以上では4割と年齢が高くなるにつれて少なくなっている。また、女性の70歳以上では1割の人が「暴力にあたると思わない」と答えている。

図1-7 夫婦間での行為における暴力としての認識

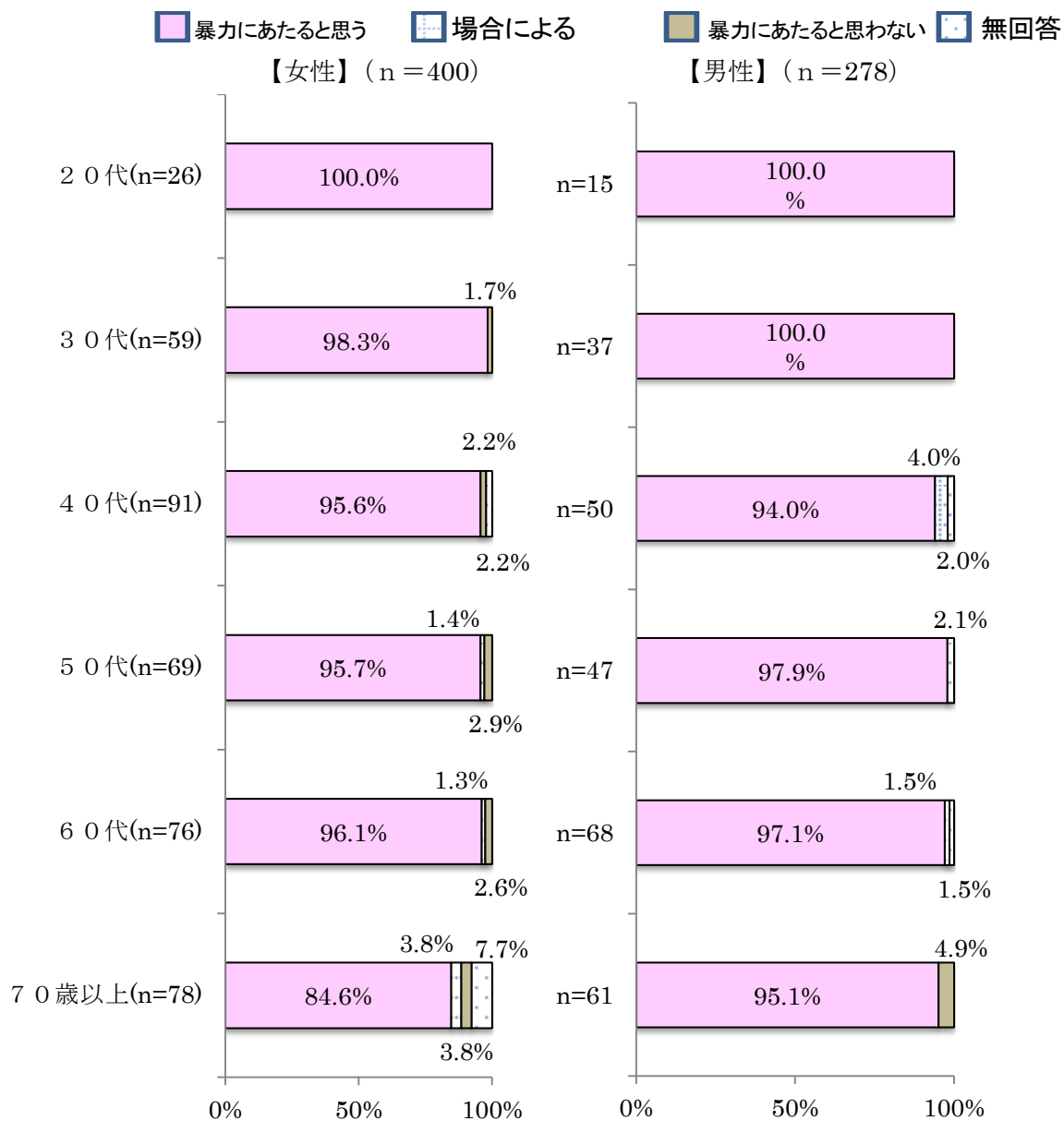
“なぐるふりをして、おどす”（性・年齢別）



“刃物などを突きつけて、おどす”ということについては（図1-8）、男女とも「暴力にあたると思う」という人が多いが、女性の70歳以上は8割で、他の性・年齢層より少なくなっている。

図1-8 夫婦間での行為における暴力としての認識

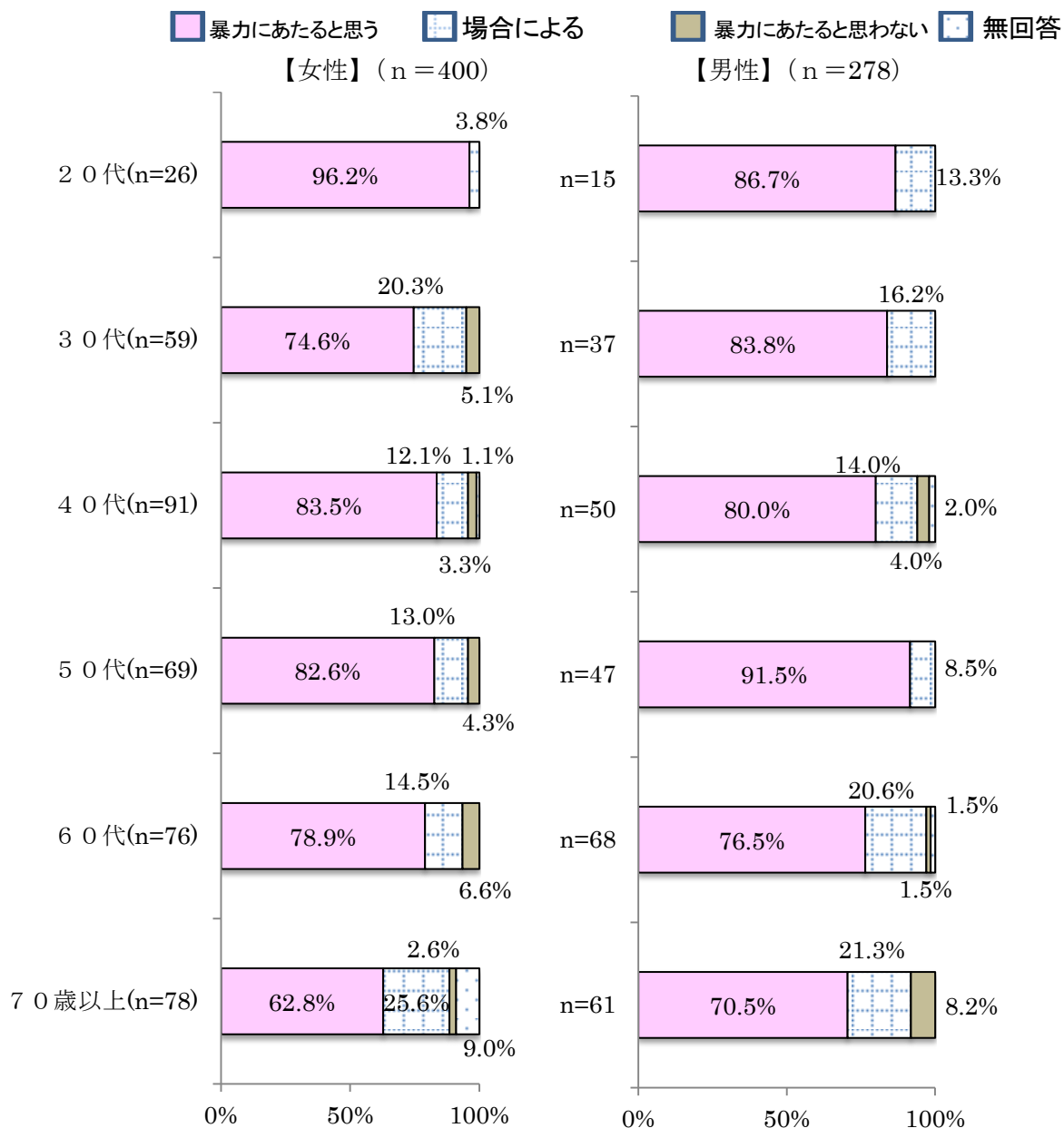
“刃物などを突きつけて、おどす”（性・年齢別）



“いやがっているのに性的な行為を強要する” ことについては（図1-9）、男女とも「暴力にあたると思う」という人が多いが、男女の70歳以上は他の性・年齢層より少なくなっている。

図1-9 夫婦間での行為における暴力としての認識

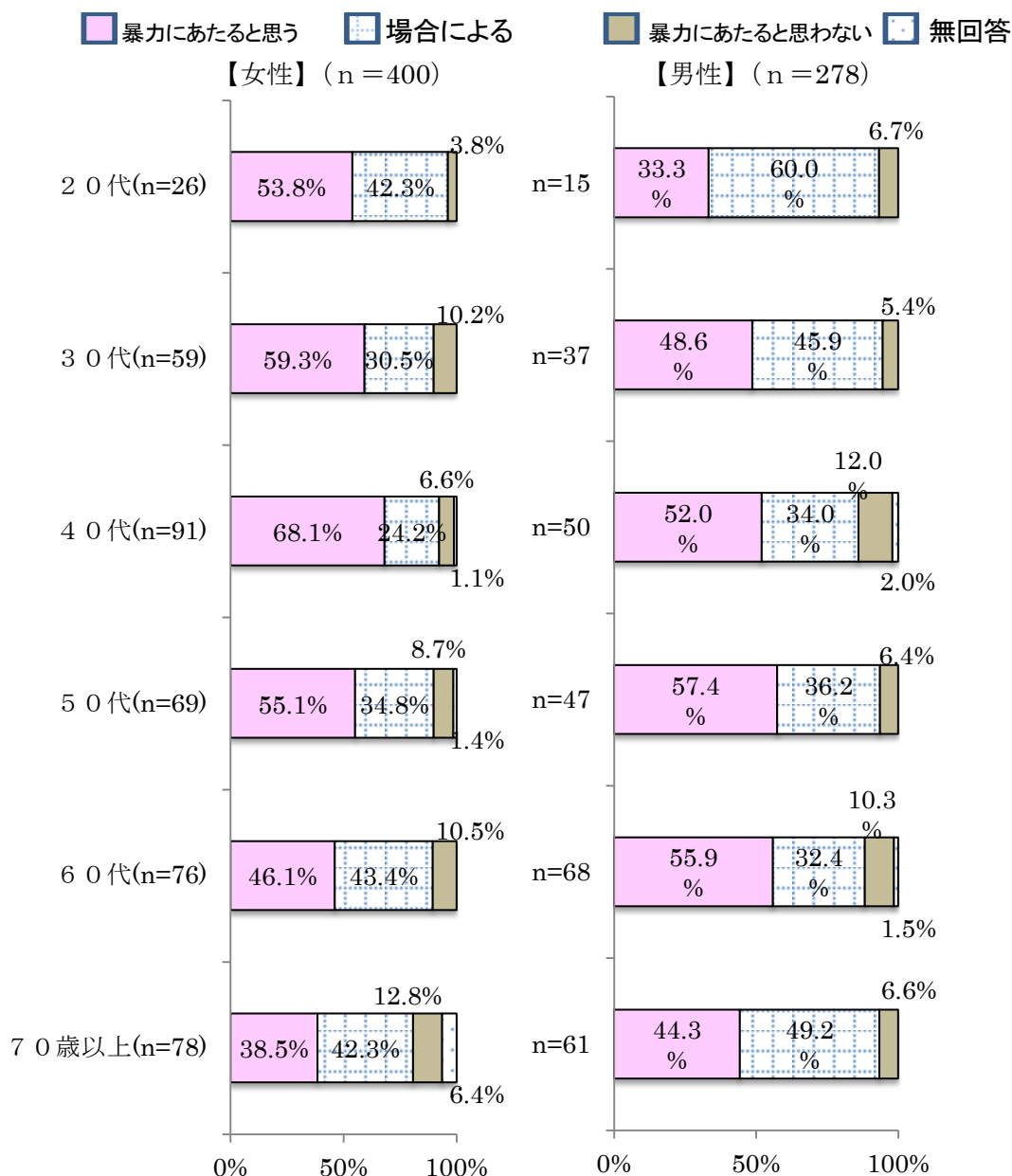
“いやがっているのに性的な行為を強要する”（性・年齢別）



“何を言っても長期間無視し続ける” ことについては (図 1 - 1 0)、「暴力にあたると思う」という人は男女とも多くの年齢層で約半数となっているが、女性の 70 歳以上と男性の 20 代は 3 割である。男女とも「暴力にあたると思わない」と「場合による」を合わせると、「暴力にあたると思う」とほぼ同率が多くなっている。

図 1 - 1 0 夫婦間での行為における暴力としての認識

“何を言っても長期間無視し続ける” (性・年齢別)

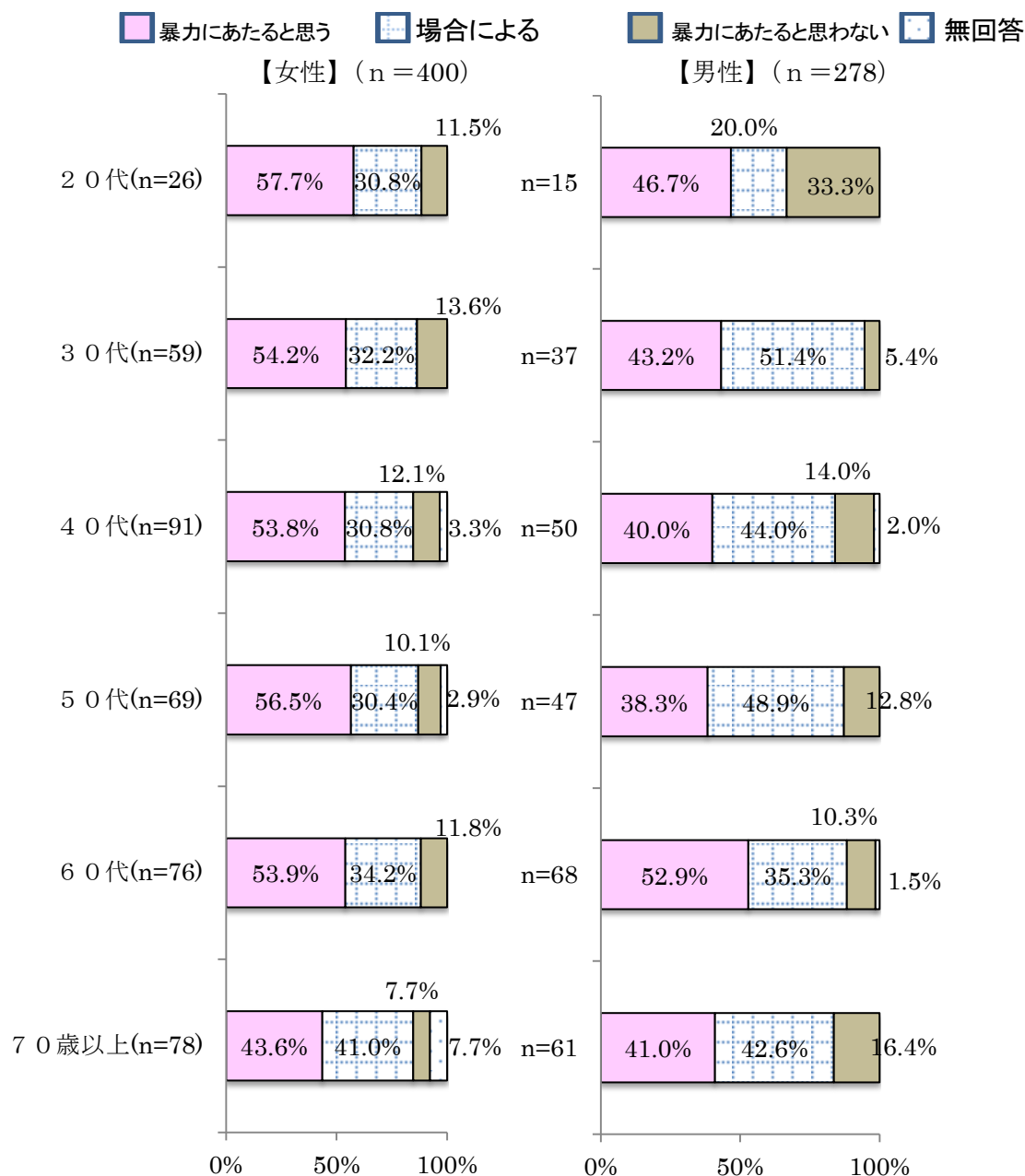




“交友関係や電話・メールを細かく監視する” ことについては（図 1-11）、「暴力にあたると思う」という人は、女性はあらゆる年齢層で約半数であるが、男性は多くは半数以下である。「暴力にあたると思わない」という人は、男性の 20 代が他の性・年齢層より多くなっている。

図 1 - 1 1 夫婦間での行為における暴力としての認識

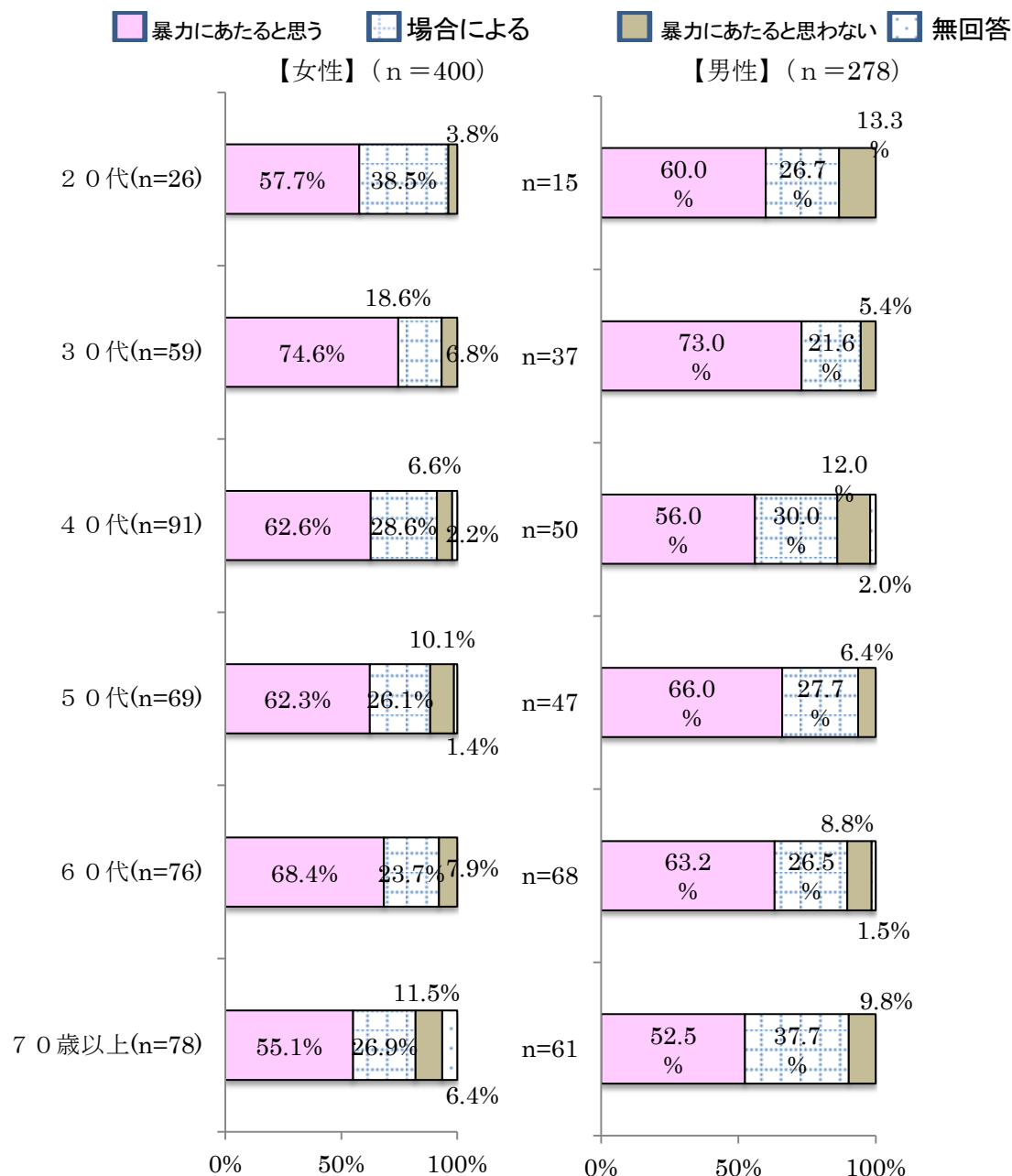
“交友関係や電話を細かく監視する”（性・年齢別）



“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う” ことについては（図1-12）、「暴力にあたると思う」という人は、男女ともすべての年齢層で半数以上である。「場合による」という人は、男女とも多くの年齢層で2~3割前後で、「暴力にあたると思わない」と考える人は、女性の50代と70歳以上、男性の20代と40代で1割ほどとなっている。

図1-12 夫婦間での行為における暴力としての認識

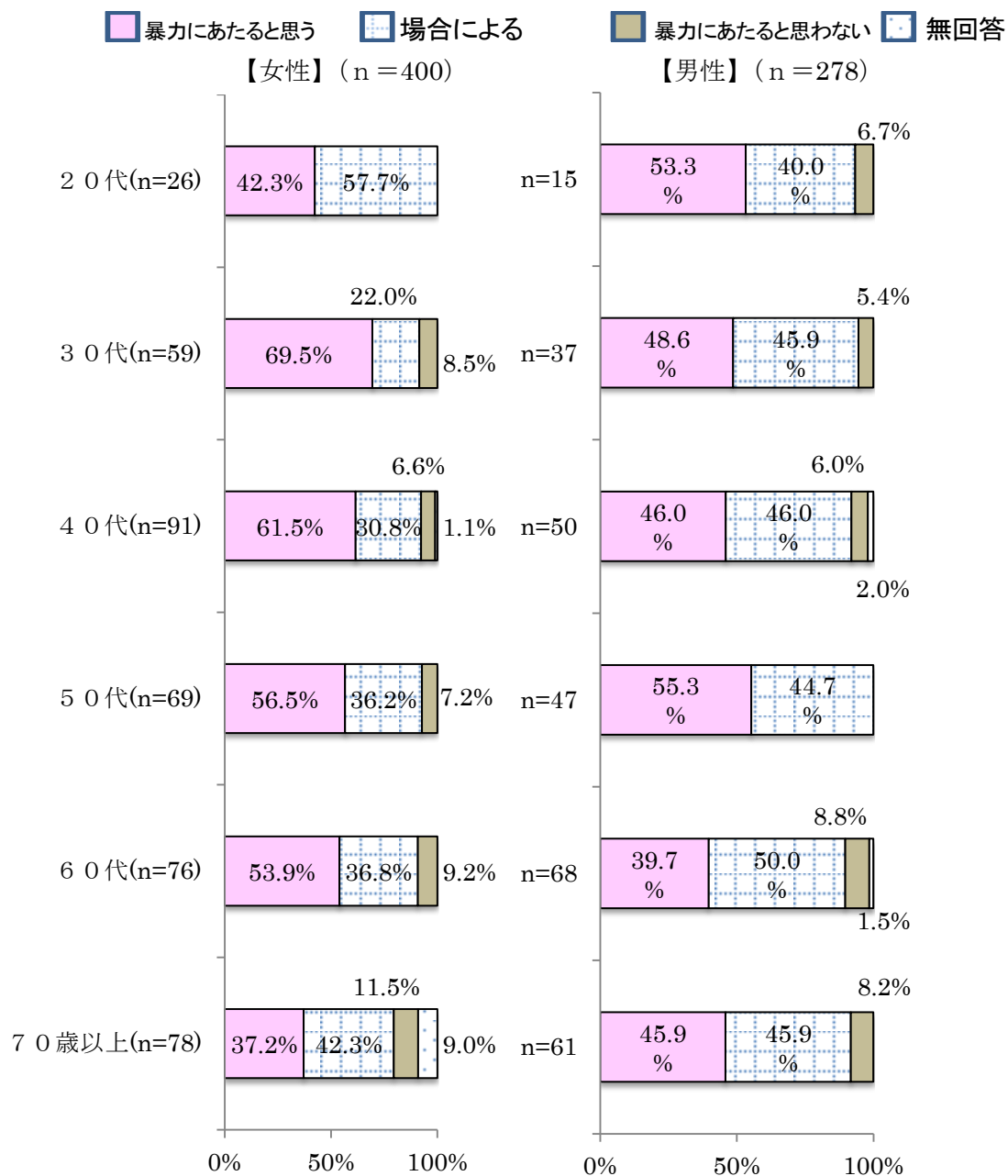
“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”（性・年齢別）



“大声でどなる” ことについては（図1-13）、女性の30代から60代までの年齢層で「暴力にあたると思う」という人が、過半数を占める。一方、女性の20代と70歳以上、男性は60代の年齢層で「場合による」という人が「暴力にあたると思う」という人より多くなっている。特に女性の20代と男性の60代では、「場合による」と考える人が5割と他の性・年齢層より多くなっている。

図1-13 夫婦間での行為における暴力としての認識

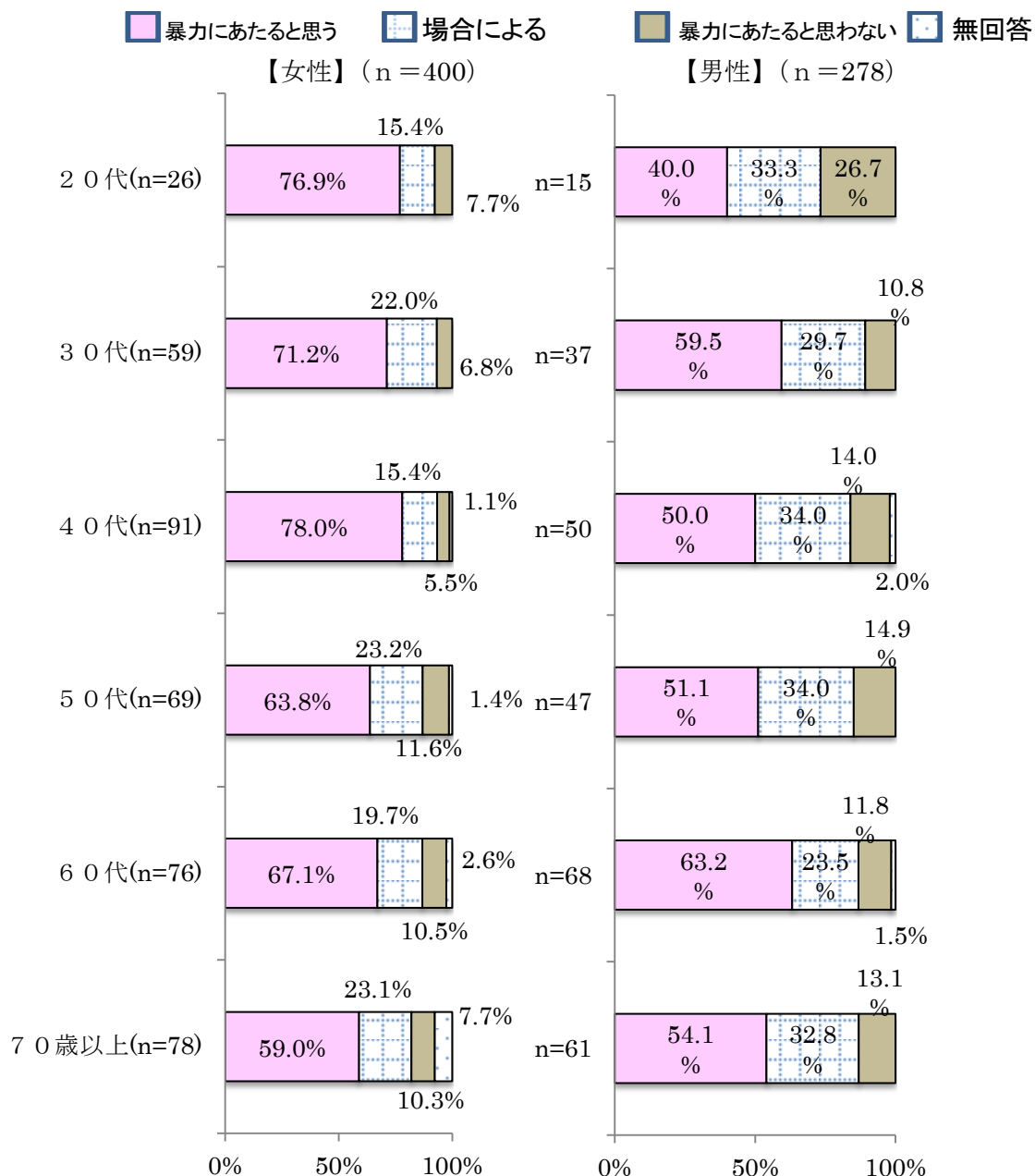
“大声でどなる”（性・年齢別）



“家計に必要な生活費を渡さない” ことについては（図 1 - 1 4）、女性の多くの年齢層と男性の 60 代の 6 割以上が「暴力にあたると思う」と答えている。一方、男性は、「暴力にあたると思う」と答えている人は約半数で、1 割以上が「暴力にあたらない」と答えている。男性の 20 代は、「暴力にあたらない」と答えている人が 2 割以上で他の性・年齢層より多くなっている。

図 1 - 1 4 夫婦間での行為における暴力としての認識

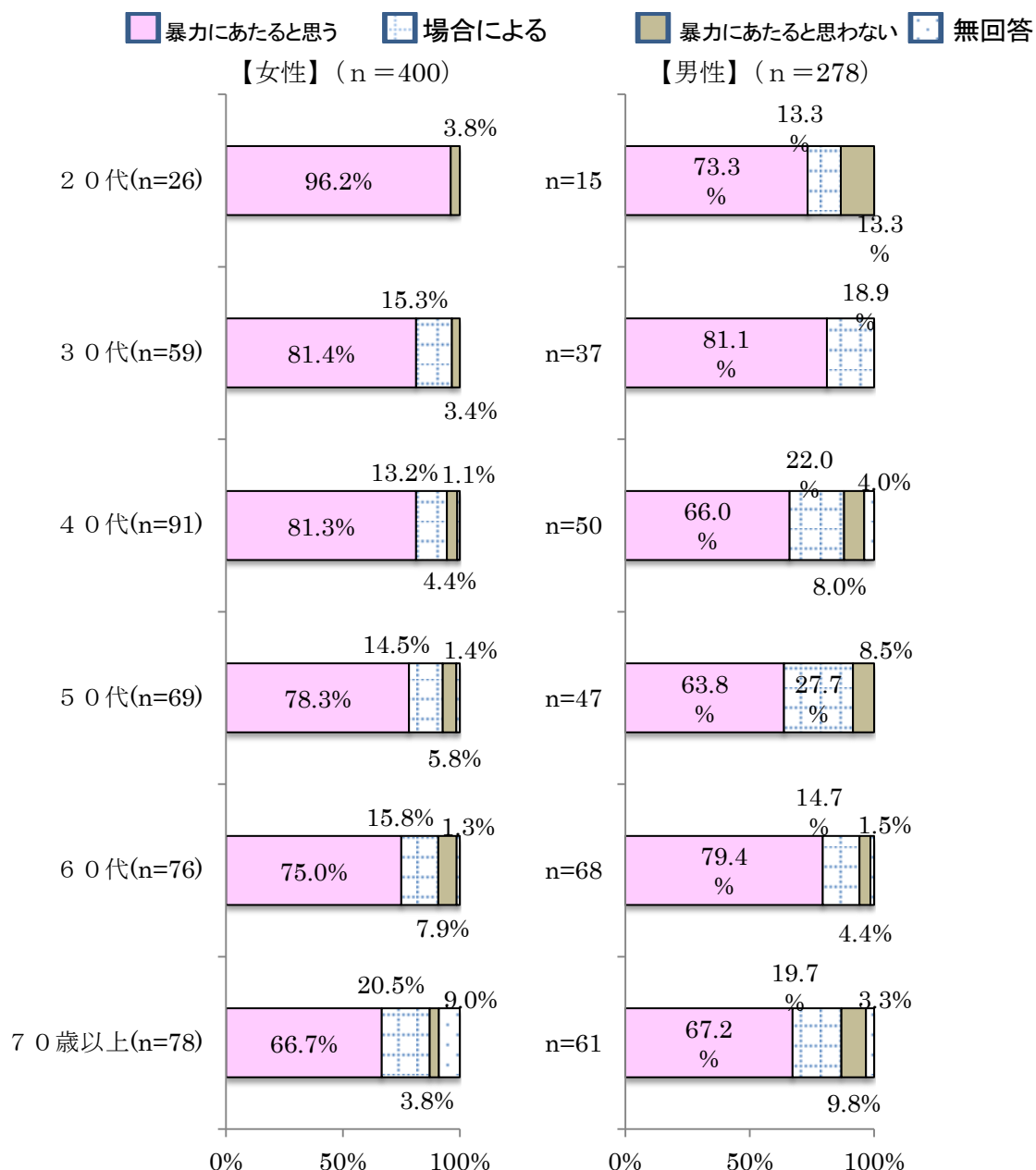
“家計に必要な生活費を渡さない”（性・年齢別）



“職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”（図1 - 15）は、男女とも「暴力にあたる」と考えている人は多いが、女性の70歳以上と男性の40代、50代の人の2割以上が「場合による」と考えている。また、男性の20代の1割以上が「暴力にあたらない」と他の性・年齢層より多くなっている。

図1 - 15 夫婦間での行為における暴力としての認識

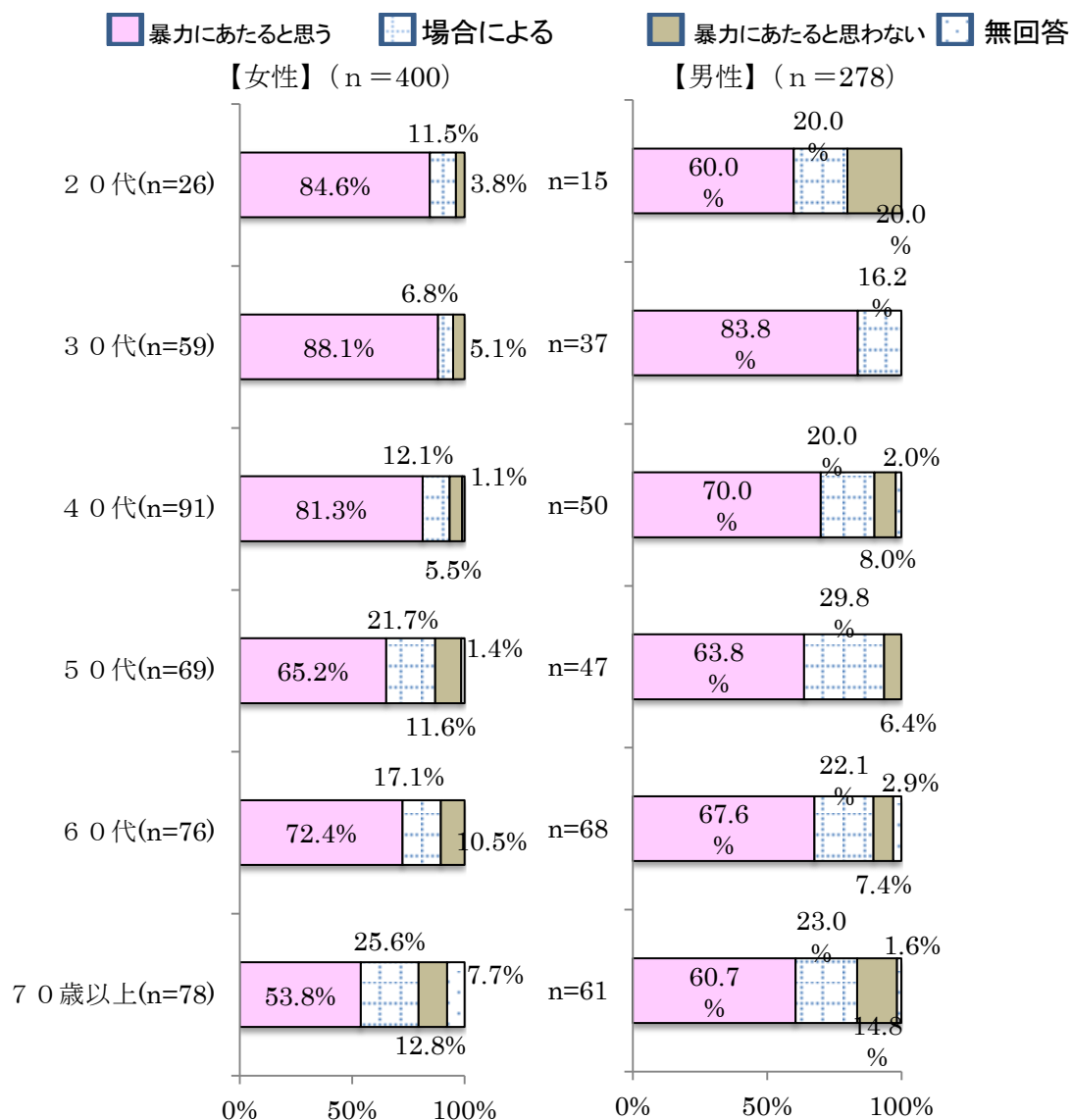
“職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”（性・年齢別）



“家族や友人と関わりを持たせない”（図1 - 16）は、男女とも「暴力にあたる」と考えている人が多いが、女性の70歳以上の人が5割と他の性・年齢層より多少低くなっている。男性の20代の2割が「暴力にあたらない」と考えており他の性・年齢層より多くなっている。

図1 - 16 夫婦間での行為における暴力としての認識

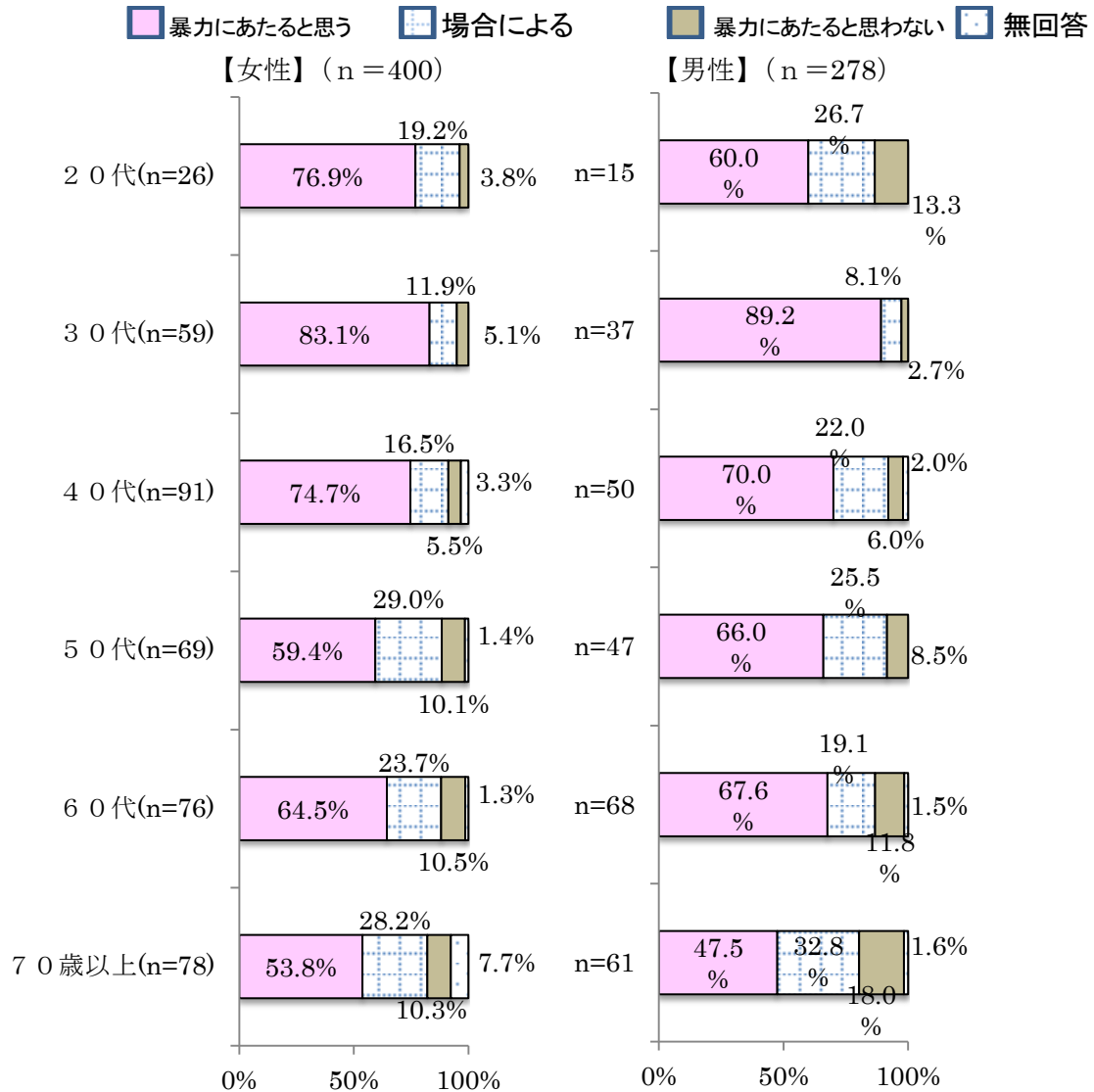
“家族や友人と関わりを持たせない”（性・年齢別）



“避妊に協力しない”（図1 - 17）は、「暴力にあたる」と考えている人は、男女とも多くの年齢層で半数を超えているが、男女の70歳以上が他の年齢層より少ない。「暴力にあたらない」と考えている人は、男性の70歳以上が約2割と他の性・年齢より多くなっている。

図1 - 17 夫婦間での行為における暴力としての認識

“避妊に協力しない”（性・年齢別）



以上の各項目について、性・年齢別にみると、「暴力にあたると思う」と答え暴力としての認識を持っている人は、“平手で打つ”、“足でける”、“身体を傷つける可能性のあるものでなぐる”などの「身体的暴力」については、あらゆる年代が暴力として認識を持っている。

“なぐるふりをして、おどす”“何を言っても長時間無視し続ける”、“交友関係や電話を細かく監視する”、“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”、“大声でどなる”“ 家族や友人との関わりを持たせない”などの「心理的攻撃」について、暴力としての認識を持っている人は、それぞれの年代で約 5 割前後であり、その中でも女性 70 歳以上が、他の性・年齢層より少なくなっている。

“家計に必要な生活費を渡さない”、“職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”などの「経済的圧迫」については、男性 20 代が他の性・年代より「暴力にあたらないと思う」と答えた人が多かった。

“いやがっているのに性的な行為を強要する”“避妊に協力しない”などの「性的強要」については、男女とも 70 歳以上が「暴力にあたると思う」と答えた人が他の性・年齢層より少なかった。



## 2 配偶者からの被害経験

### (1) これまでの被害経験の有無

これまでに結婚したことのある人（600人）に、3つの行為をあげて、過去2年間に、配偶者から被害を受けたことがあるかを尋ねた（図2-1-1）。

これまでに“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせると、1割近い人が「身体的暴行」の被害を受けている。

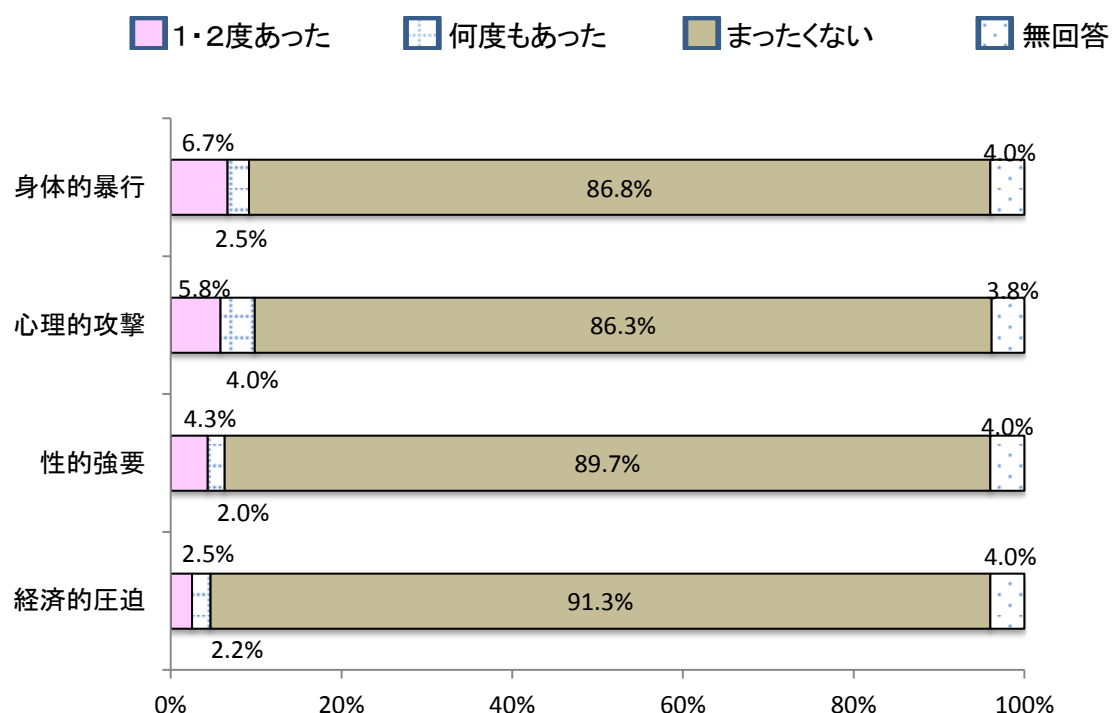
“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせると、約1割の人が「心理的攻撃」の被害を受けている。

“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせると、1割未満であるが「性的強要」の被害を受けた人がいる。

“生活費を渡さない、貯金を勝手に使われたり、外で働くことを妨害された”ことが「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせると、1割未満ではあるが「経済的圧迫」の被害を受けた人がいる。

(3) あなたはこの2年の間に、あなたの配偶者から1～4のようなことをされたことがありますか。（項目ごとに1つを選択） ※ここでの「配偶者」には、事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

図2-1-1 配偶者からの被害経験



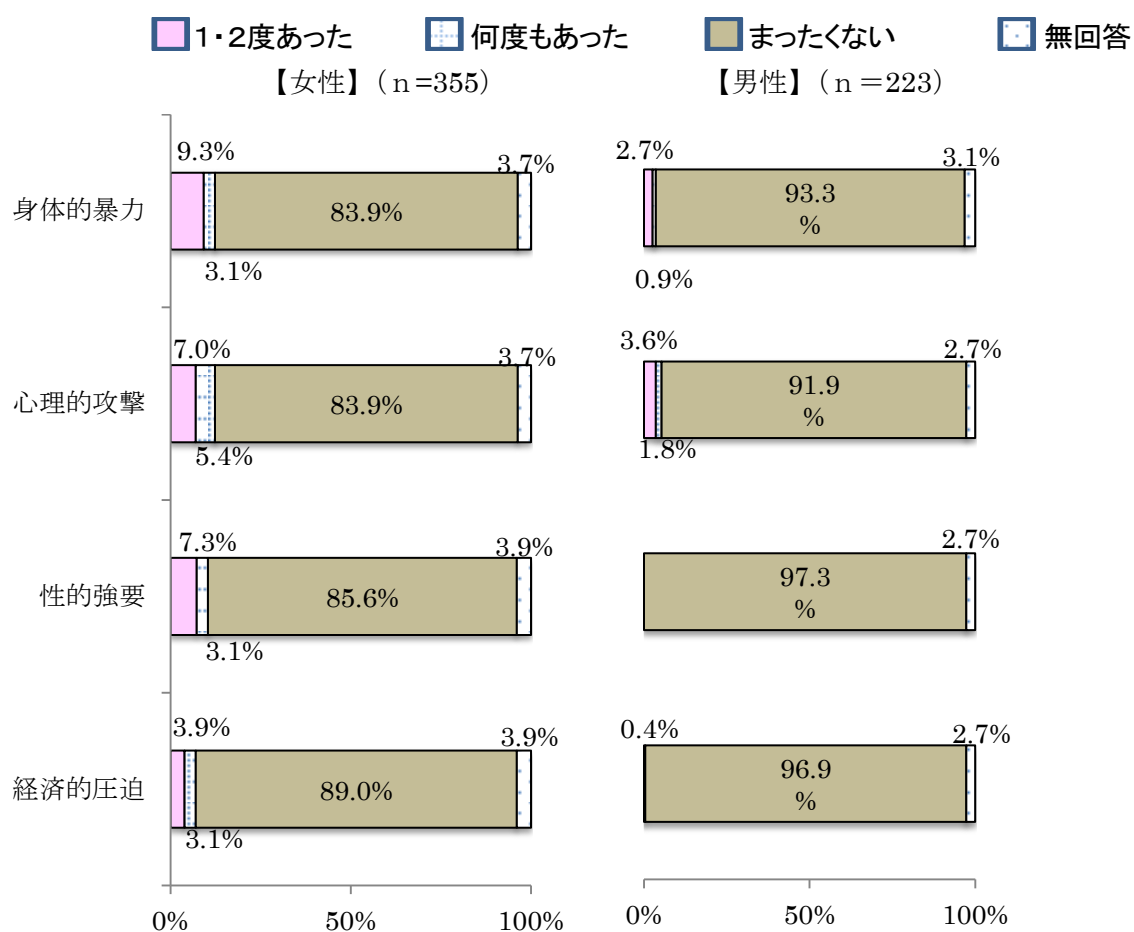
配偶者からの被害経験を男女別にみると（図2-1-2），“身体的暴力”を受けたことが『あった』（「1，2度あった」＋「何度もあった」）という人は、女性のほうが男性より被害率が8ポイントほど高くなっている。

“心理的攻撃”を受けたことが『あった』という人は、女性のほうが男性より被害率が7ポイントほど高くなっている。

“性的強要”を受けたことが『あった』という人は、女性は1割で、男性はいなかった。

“経済的圧迫”を受けたことが『あった』という人は、女性のほうが男性より被害率が6ポイントほど高くなっている。

図2-1-2 配偶者からの被害経験（男女別）



配偶者からの被害経験を性・年齢別にみると（図2-1-3），“身体的暴行”を受けたことが『あった』という人は、女性では30代、男性では50代が最も多くなっている。

“心理的攻撃”を受けたことが『あった』という人は、女性の50代、男性は30代が最も多くなっている。

“性的強要”を受けたことが『あった』という人は、女性の50代から70歳以上が1割以上となっている。

“経済的圧迫”を受けたことが『あった』という人は女性では30代が1割と最も多くなっている。

図2-1-3 配偶者からの被害経験（性・年齢別）

1 身体に対する暴行を受けた（身体的暴力）

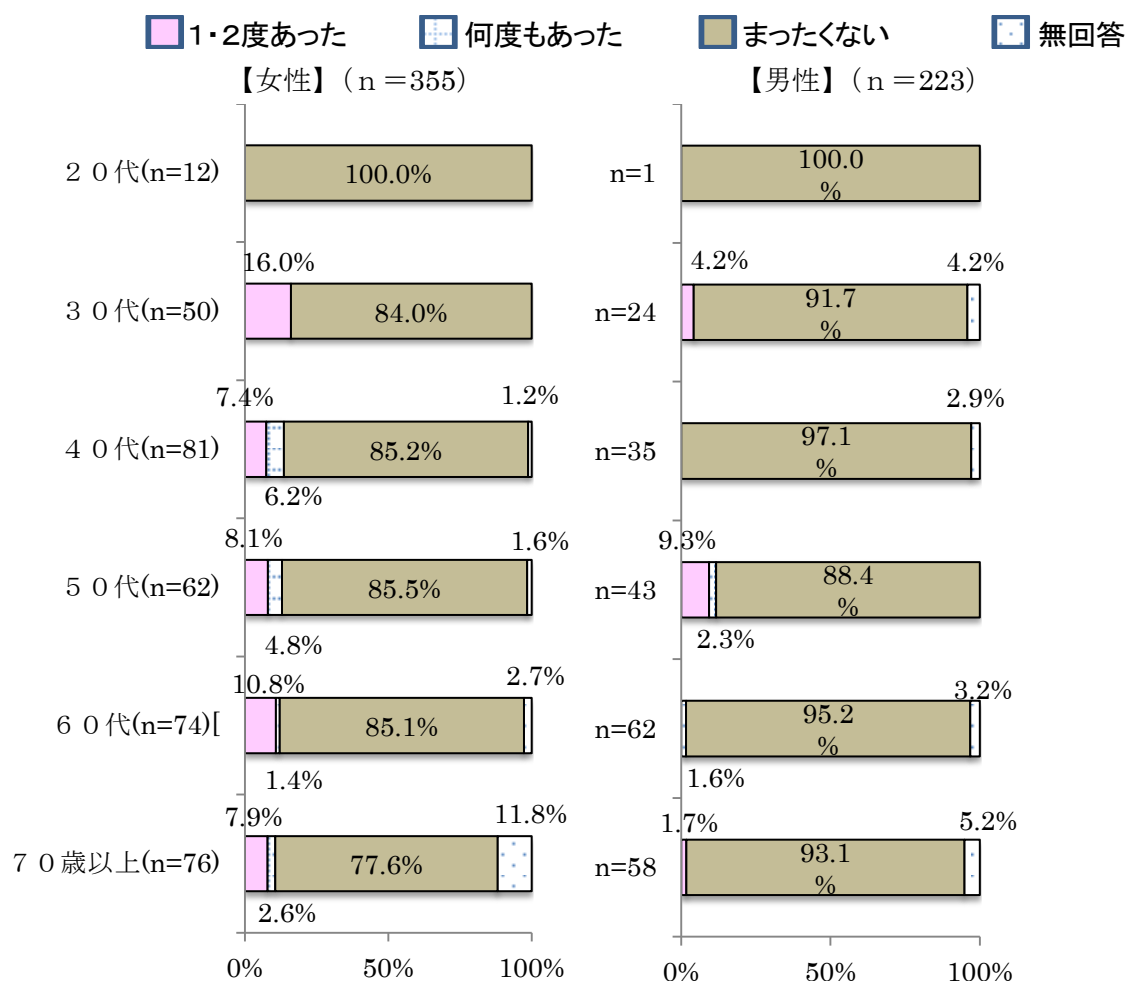


図 2 - 1 - 3 つづき

2 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた（心理的攻撃）

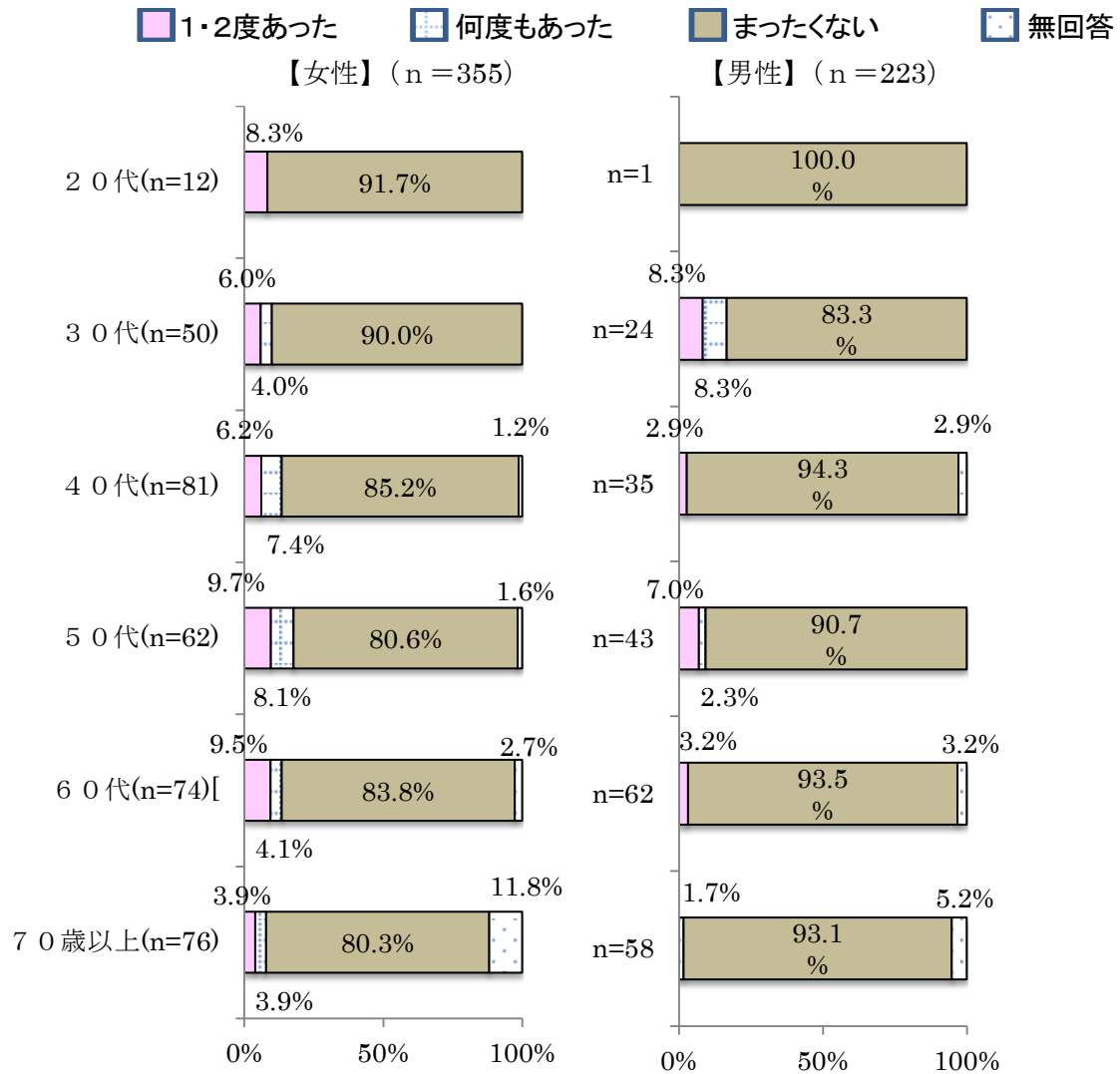


図 2 - 1 - 3 つづき

3 いやがっているのに性的な行為を強要された (性的強要)

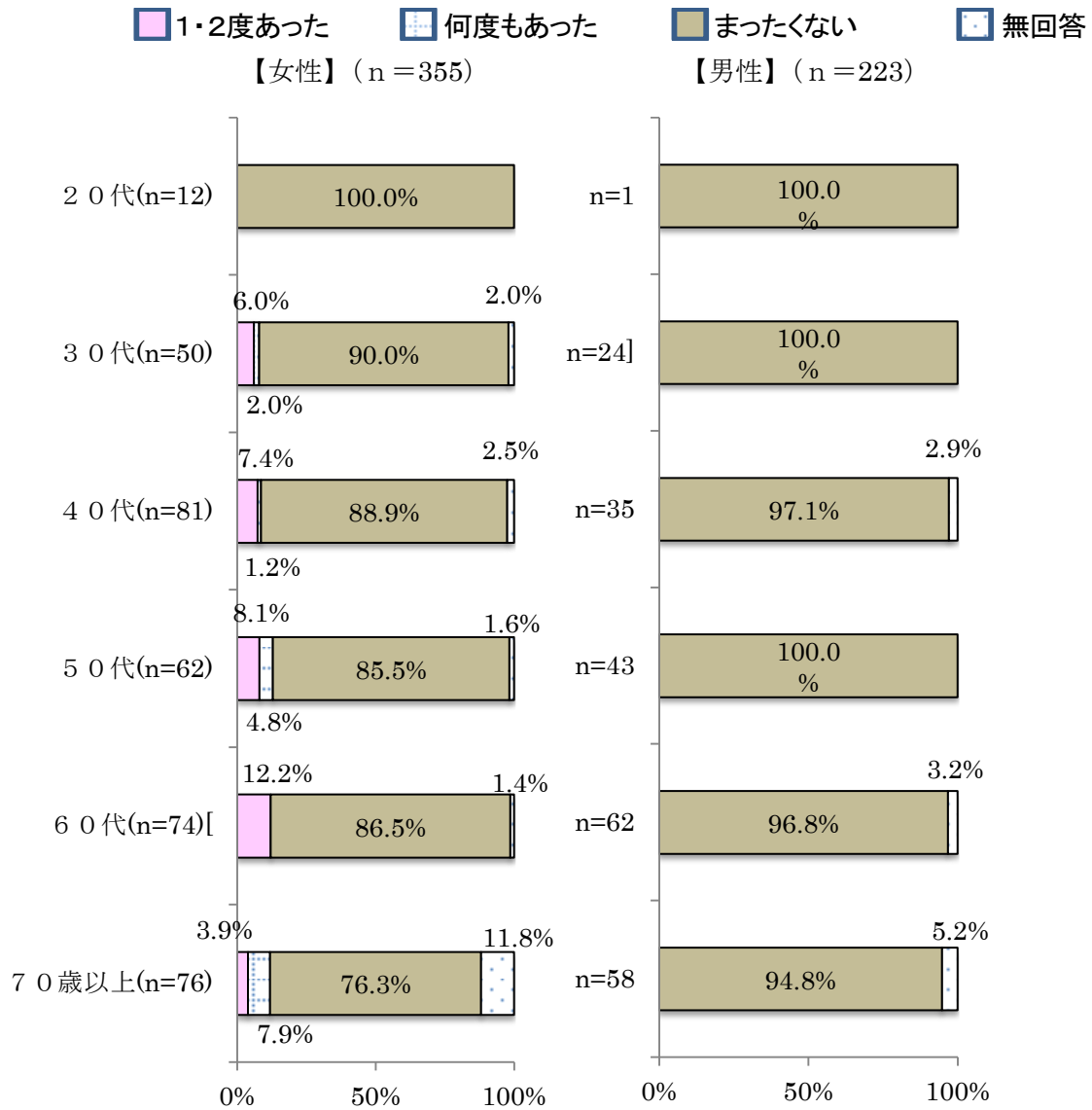
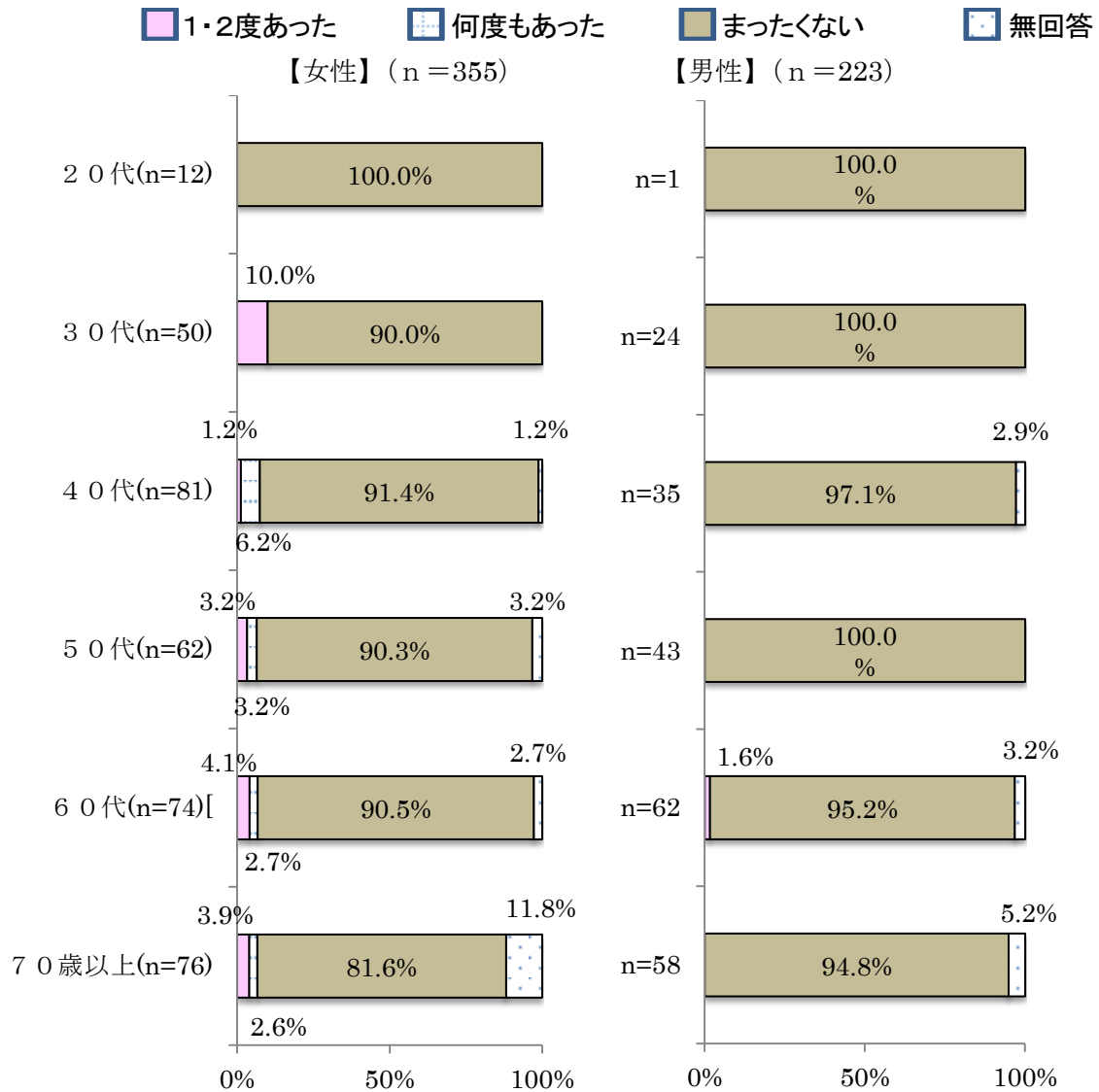
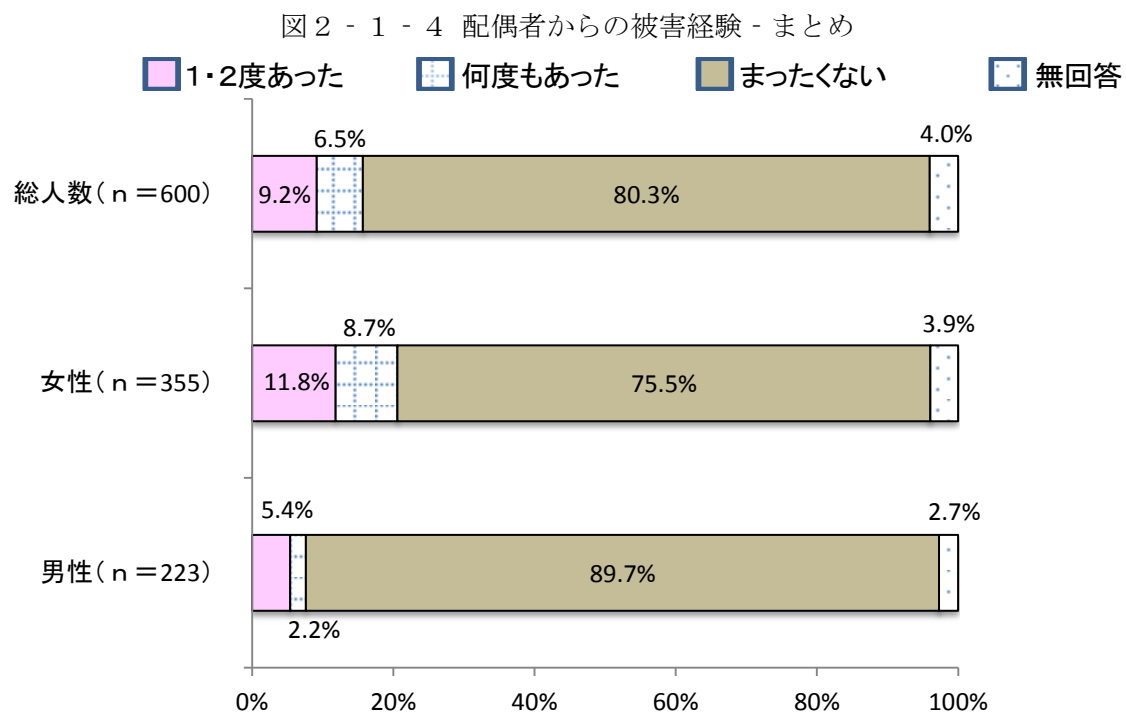


図 2 - 1 - 3 つづき

4 生活費を渡さない、外で働くことを妨害された（経済的圧迫）

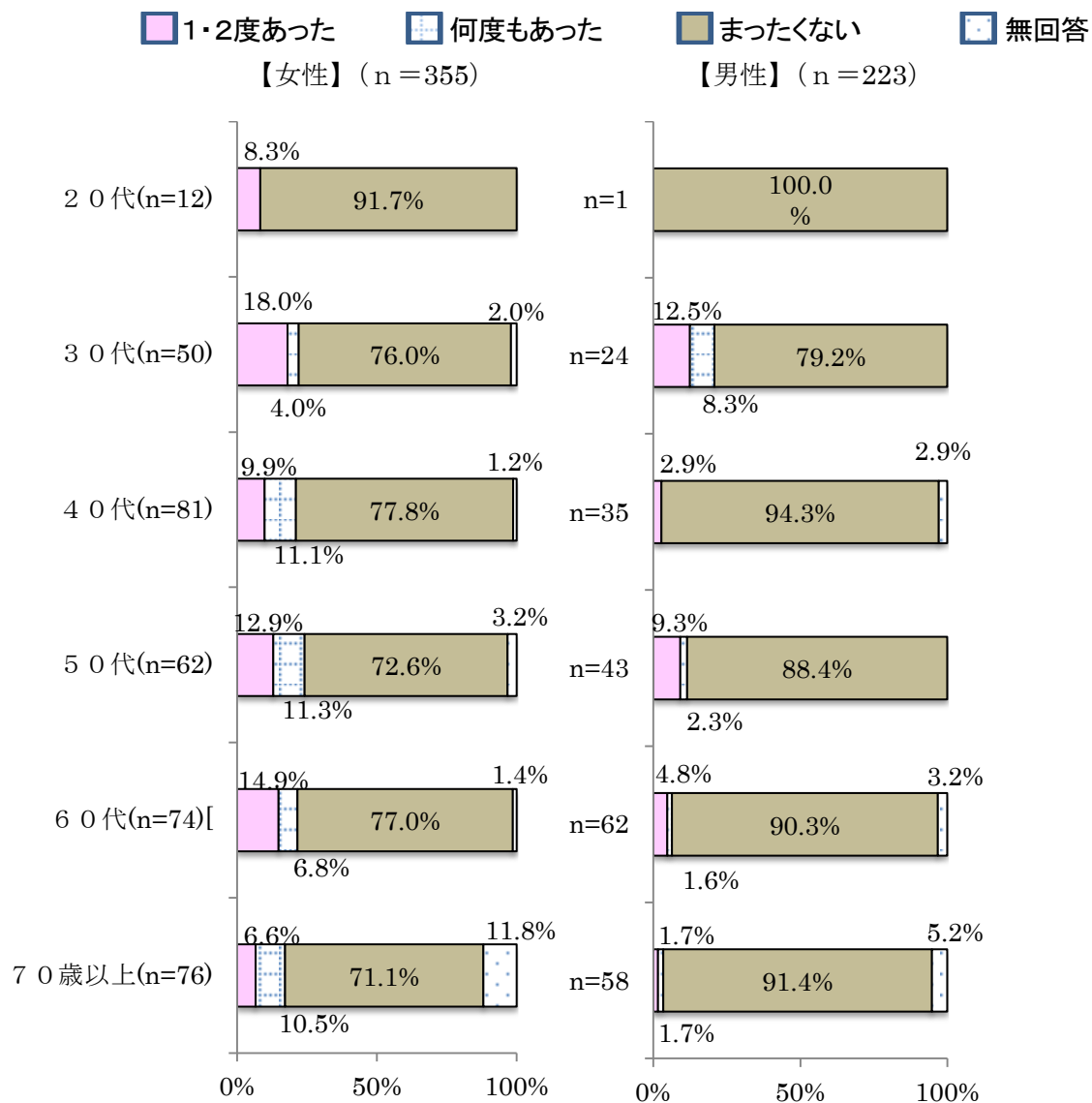


配偶者からの被害経験をまとめてみると（図2-1-4），“身体的暴行” “心理的攻撃” “性的強要” のいずれかについて、「1， 2度あった」と「何度もあった」を合わせて一度でも『あった』という人は1割となっている。



配偶者からの被害経験の有無を性・年齢別にみると（図2-1-5）、いずれかの被害を受けた経験がある人は、女性の30代から60代と男性の30代で2割を超えている。

図2-1-5 配偶者からの被害経験 - まとめ





## （２） 配偶者からの被害の相談先

この２年以内に配偶者から何かしらの被害を受けたことがあった人（94人）に、受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞いたところ（図2-2-1）、全体では、「友人・知人」と「家族や親戚」が３割となっている。それ以外の項目はいずれも０～４％程度となっている。「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人は約４割となっている。

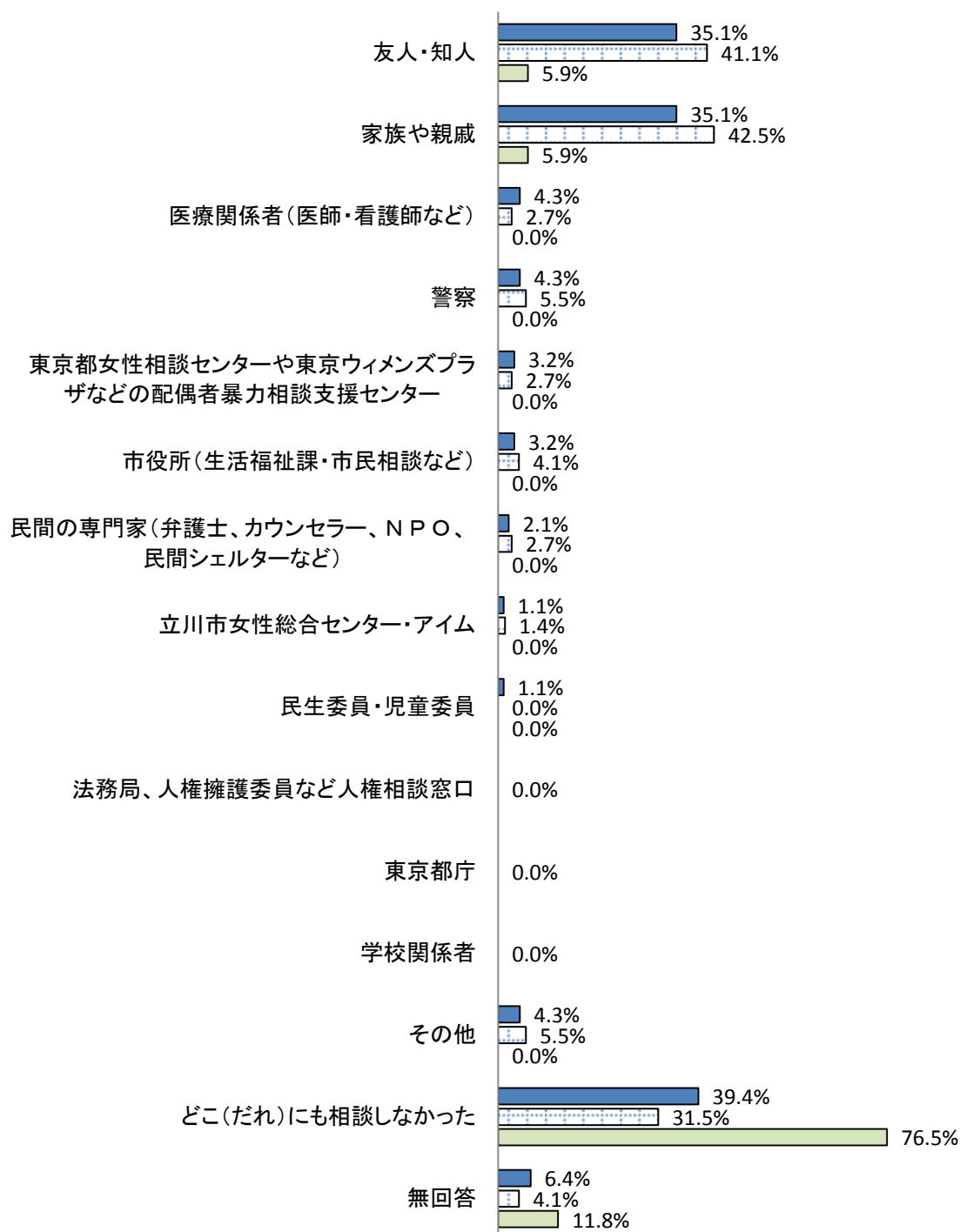
男女別にみると（図2-2-1）、女性は「友人・知人」、「家族や親戚」が４割となっている。一方、男性は「友人・知人」、「家族や親戚」は１割未満とそれ以外の項目は０となっており、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人は８割近くとなっている。

その他については[IV その他、ご意見欄への自由意見]の94ページに記載。

(4)～(8)は(3)で1～4のうち1つでも「1、2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。1～4のすべてが「まったくない」という方は(9)にお進みください。  
(4) あなたは、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)

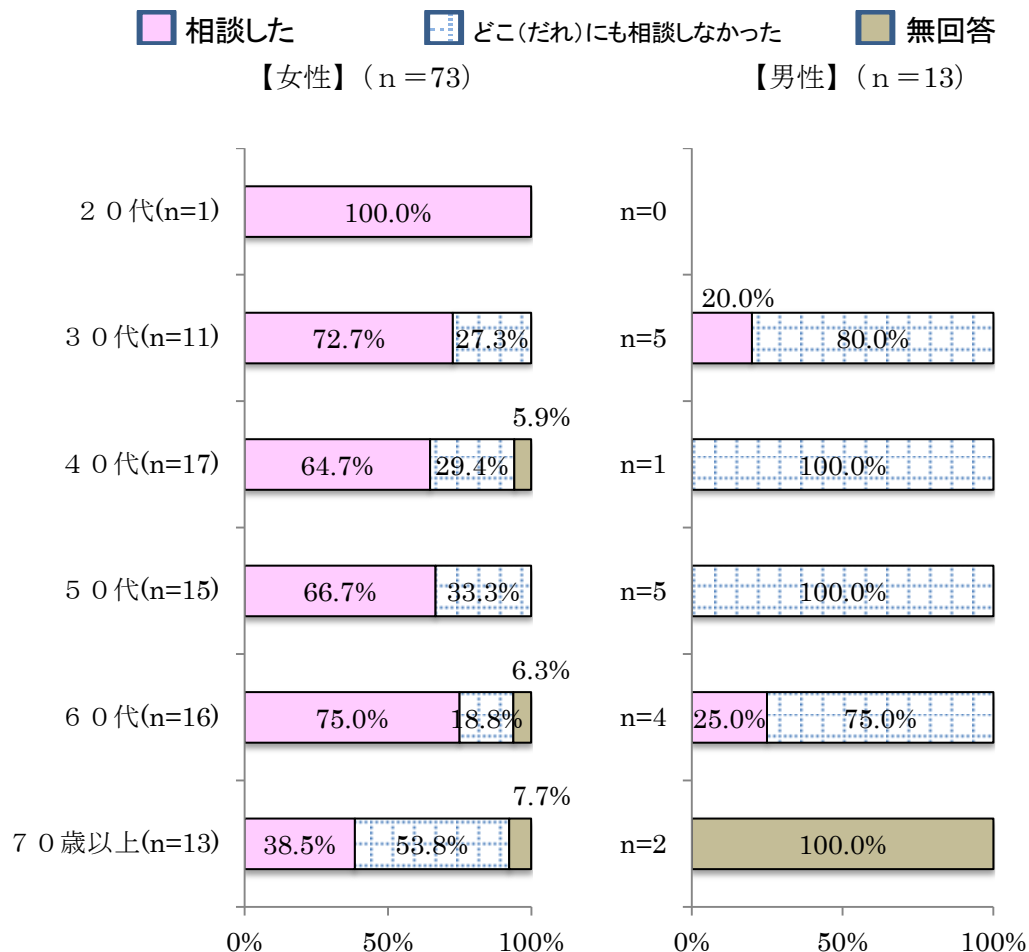
図 2 - 2 - 1 配偶者からの被害の相談先 (複数回答)

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性  
 総数 (n=94、M.T.=139.6%) 女性 (n=73、M.T.=143.8%) 男性 (n=17、M.T.=100.1%)



性・年齢別では(図2-2-2)、女性の70歳以上で「相談した」人は3割で、他の同性と比べると少なくなっている。

図2-2-2 配偶者からの被害の相談先(複数回答)



### (3) 相談しなかった理由

配偶者から受けた被害についてどこ（だれ）にも相談しなかった人（37 人）に、相談しなかった理由を聞いたところ（図 2-3）、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」となっている。

男女別にみると（図 2-3）、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性が 6 割となっており、女性より 20 ポイント多くなっている。「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」も男性が女性を上回っている。

「自分が受けている行為が DV と認識していなかったから」は女性が男性より 17 ポイント多くなっている。「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから」、「世間体が悪いから」についても女性が男性より上回っている。

その他の理由について、記載はなかった。

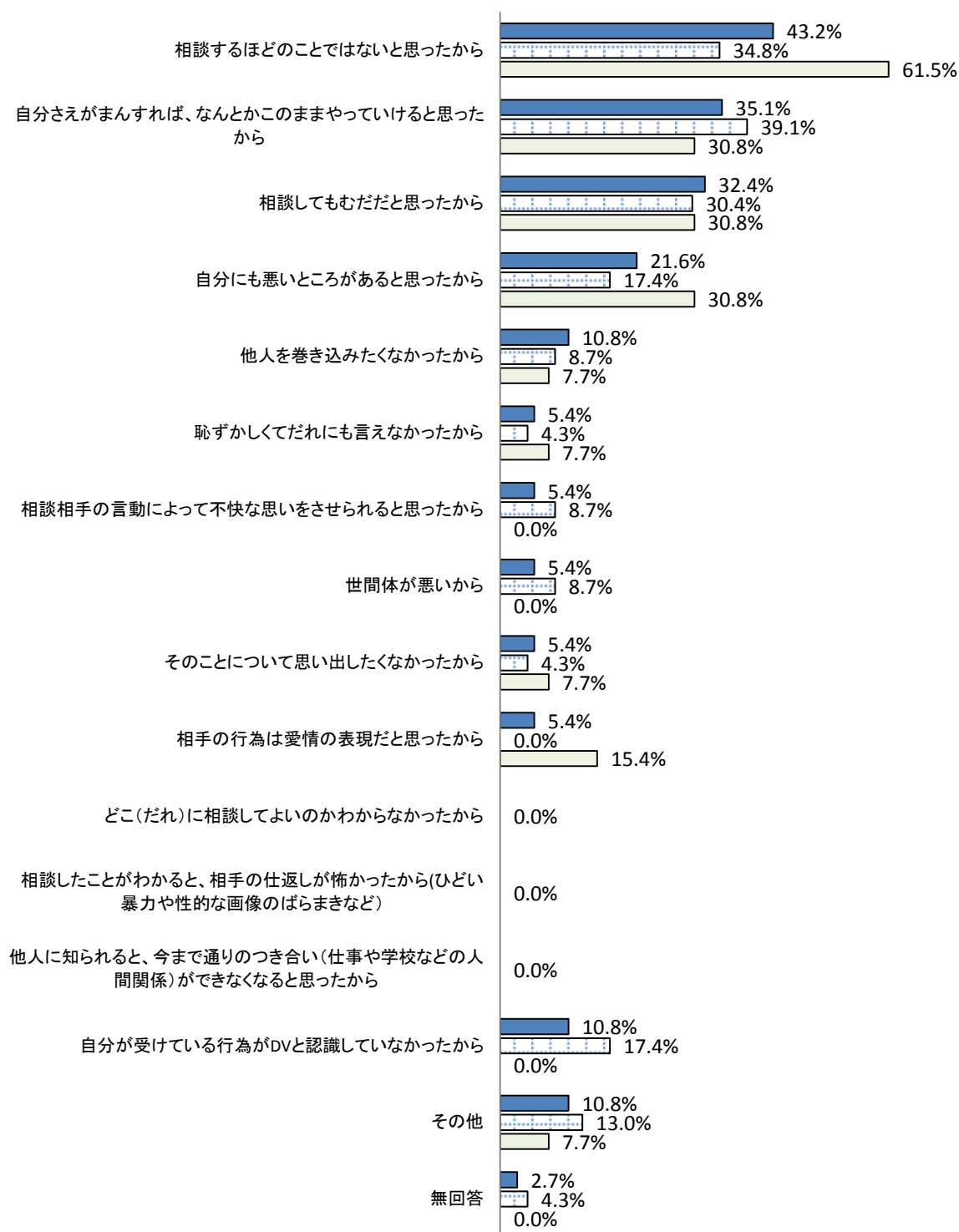
(4)で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

(5) どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（複数回答可）

図 2 - 3 相談しなかった理由（複数回答）

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

総数（n = 37、M.T. = 194.4%） 女性（n = 23、M.T. = 191.3%） 男性（n = 13、M.T. = 200.0%）



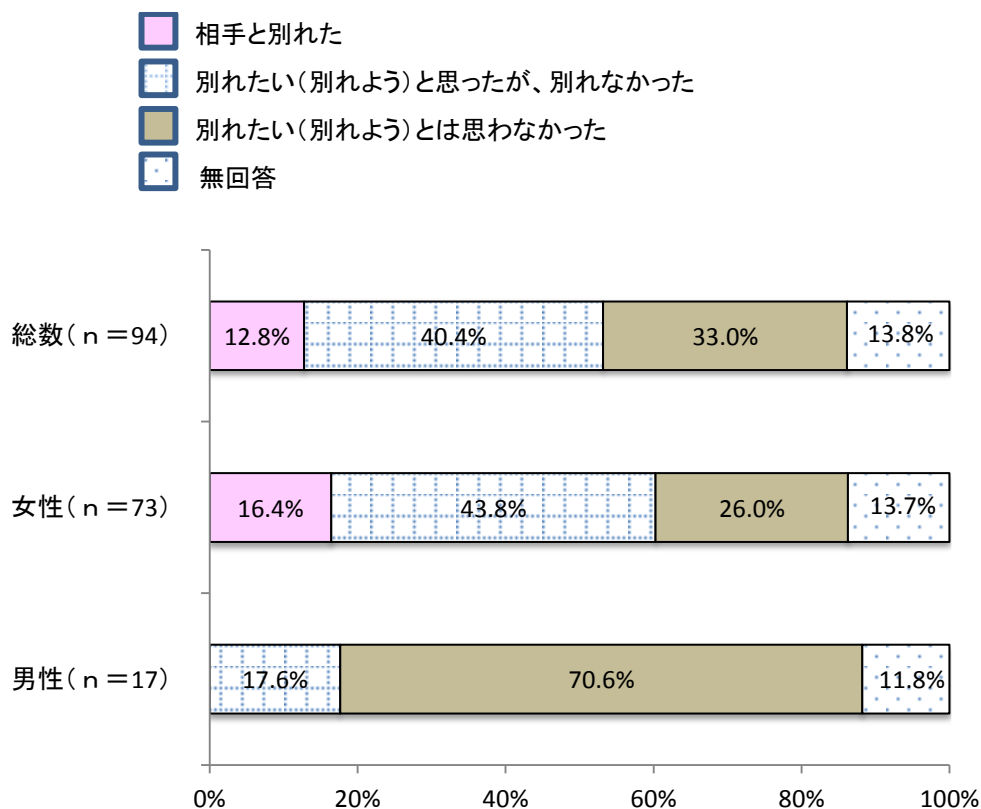
#### (4) 配偶者から被害を受けたときの行動

これまでに配偶者から何らかの被害を受けた経験がある人（94 人）に、その行為を初めて受けたとき、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ（図 2-4-1）、「別れたい（別れよう）とは思ったが、別れなかった」という人が 4 割と最も多く、次いで「別れたい（別れよう）とは思わなかった」という人が 3 割、「相手と別れた」という人は 1 割となっている。

男女別にみると、女性は「別れたい（別れよう）とは思ったが、別れなかった」と回答した人が 4 割で最も多く、男性は「別れたい（別れよう）とは思わなかった」と回答した人が 7 割で最も多かった。

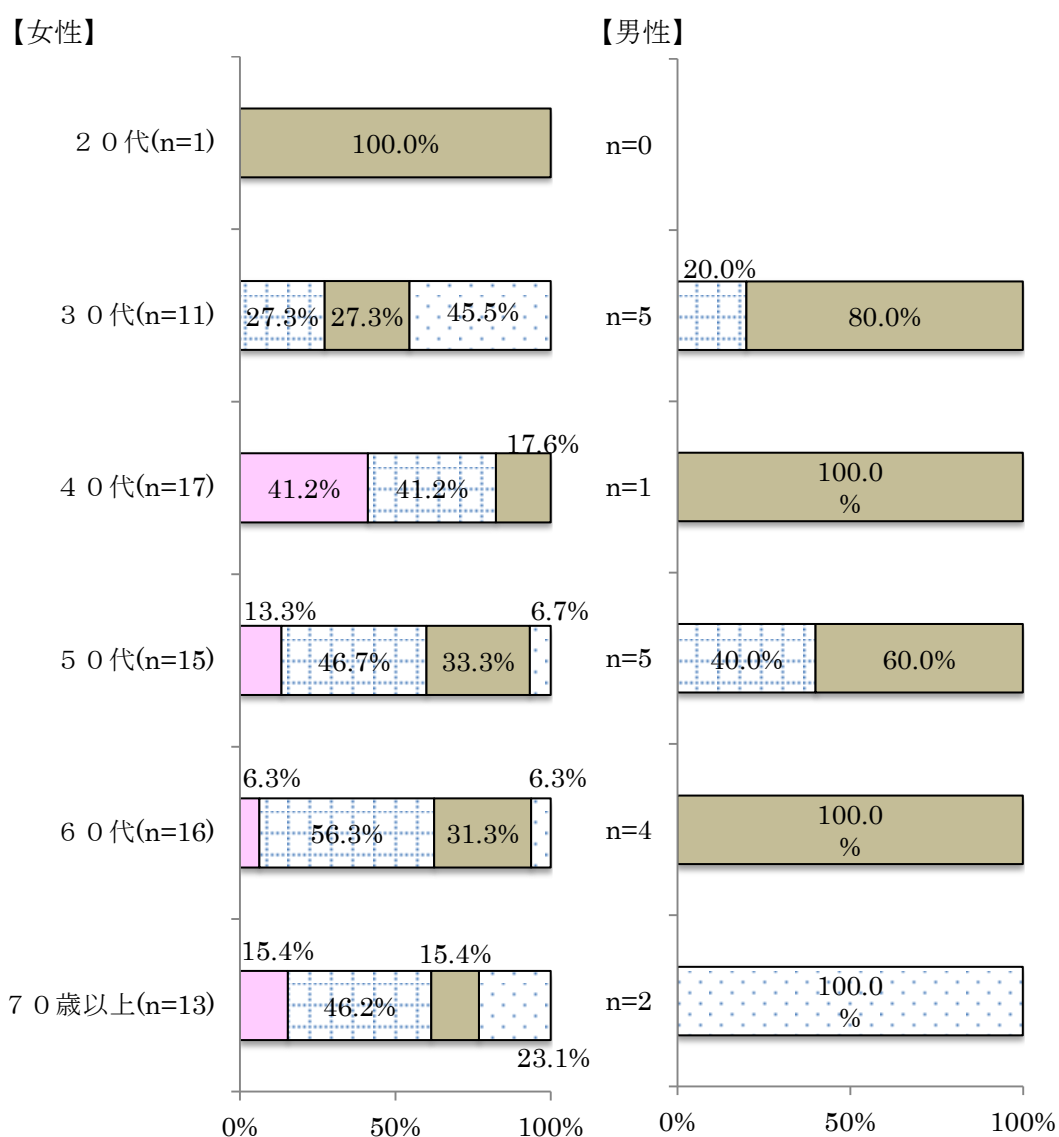
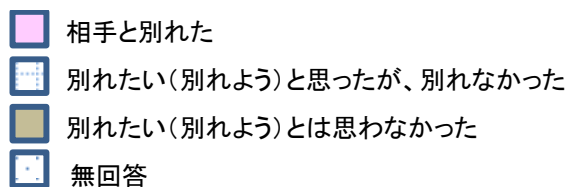
(6) あなたは、あなたの配偶者からそのような行為を最初に受けたころ、どうしましたか。  
(1 つを選択)

図 2 - 4 - 1 配偶者から被害を受けたときの行動



配偶者から被害を初めて受けた時の行動を性・年齢別にみると（図2-4-2）、女性は、年齢が高くなるほど「別れたい（別れよう）とは思ったが、別れなかった」という人が多くなっている。男性では30代から60代までが「別れたい（別れよう）とは思わなかった」という人が多数を占めている。

図2-4-2 配偶者から被害を受けたときの行動（性・年齢別）



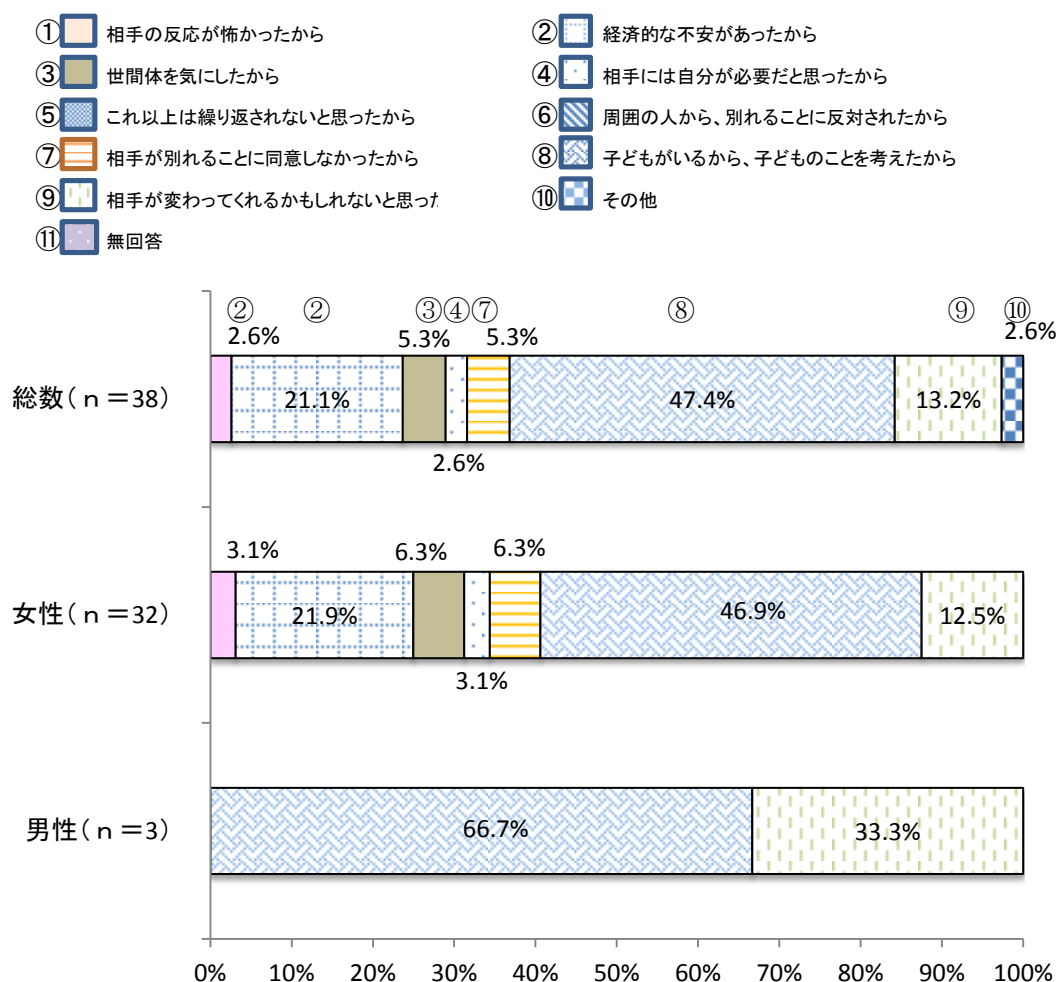
## （５）配偶者と別れなかった理由

配偶者から何らかの被害を初めて受けたころ、相手と「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」という人（38人）に別れなかった理由を聞いたところ（図2-5-1）、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」という人が最も多く、以下「経済的な不安があったから」「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」「世間体を気にしたから」、「相手が別れることに同意しなかったから」の順となっている。男女別にみると、どちらも「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が最も多くなっており、「これ以上は繰り返さないとと思ったから」「周囲の人から、別れることを反対されたから」を回答する人はいなかった。

その他の理由については、[IV その他、ご意見欄への自由意見]の94ページに記載。

(6)で「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。  
 (7) あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。（1つを選択）

図2-5-1 配偶者と別れなかった理由





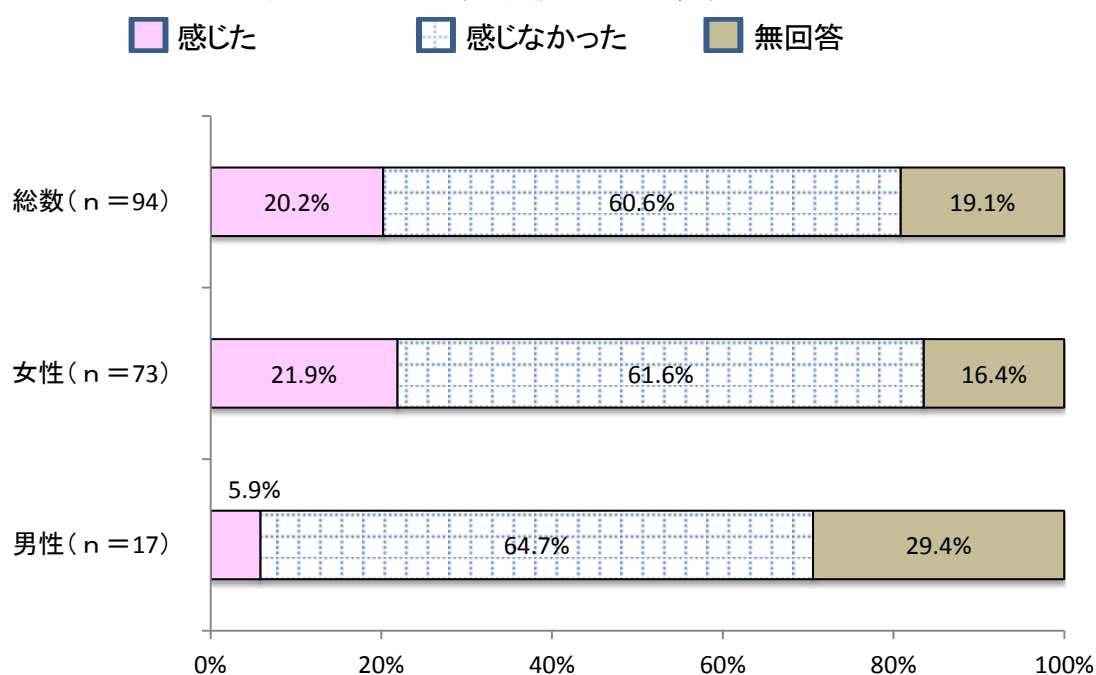
## (6) 命の危険を感じた経験

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人（94 人）に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるか聞いたところ（図 2-6-1）、「感じた」という人が 2 割となっている。

男女別にみると（図 2-6-1）、「感じた」という人は、女性は 2 割で、男性は 1 割未満であった。

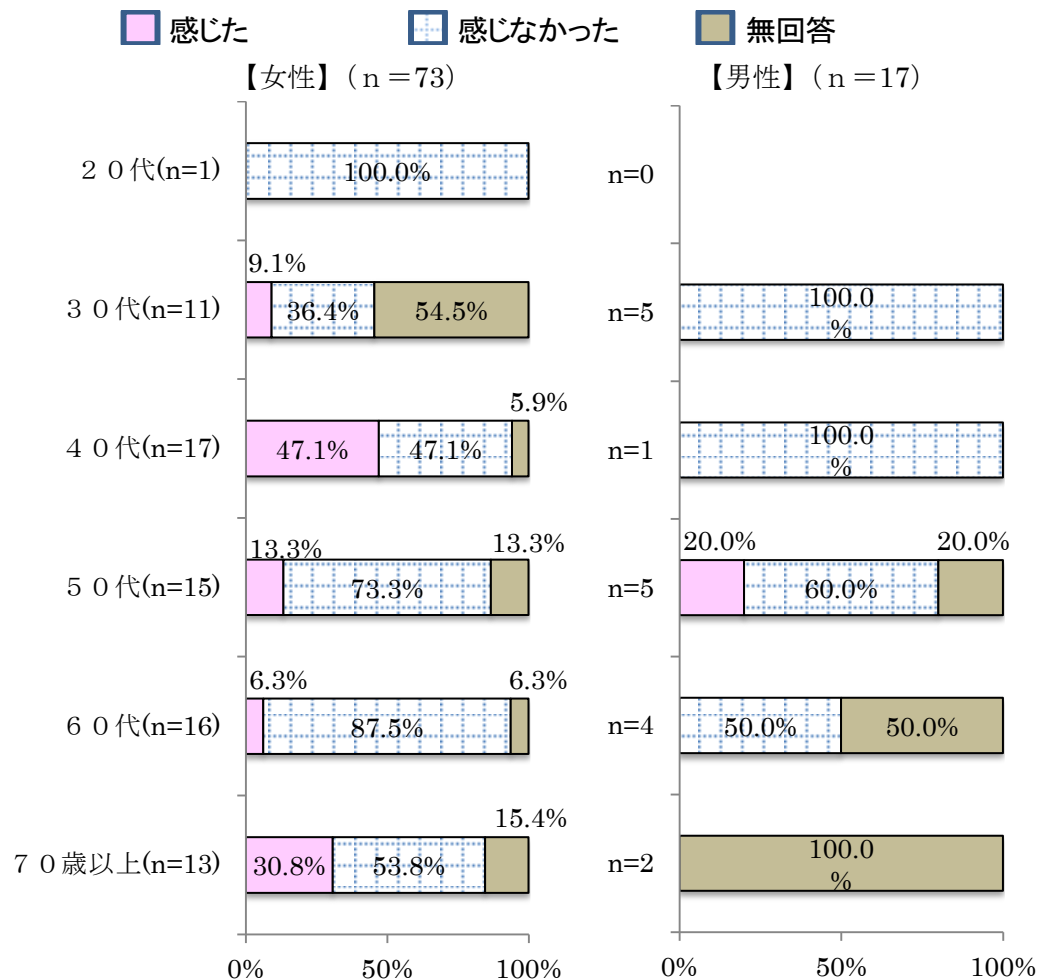
(8) あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。（1 つを選択）

図 2 - 6 - 1 命の危険を感じた経験



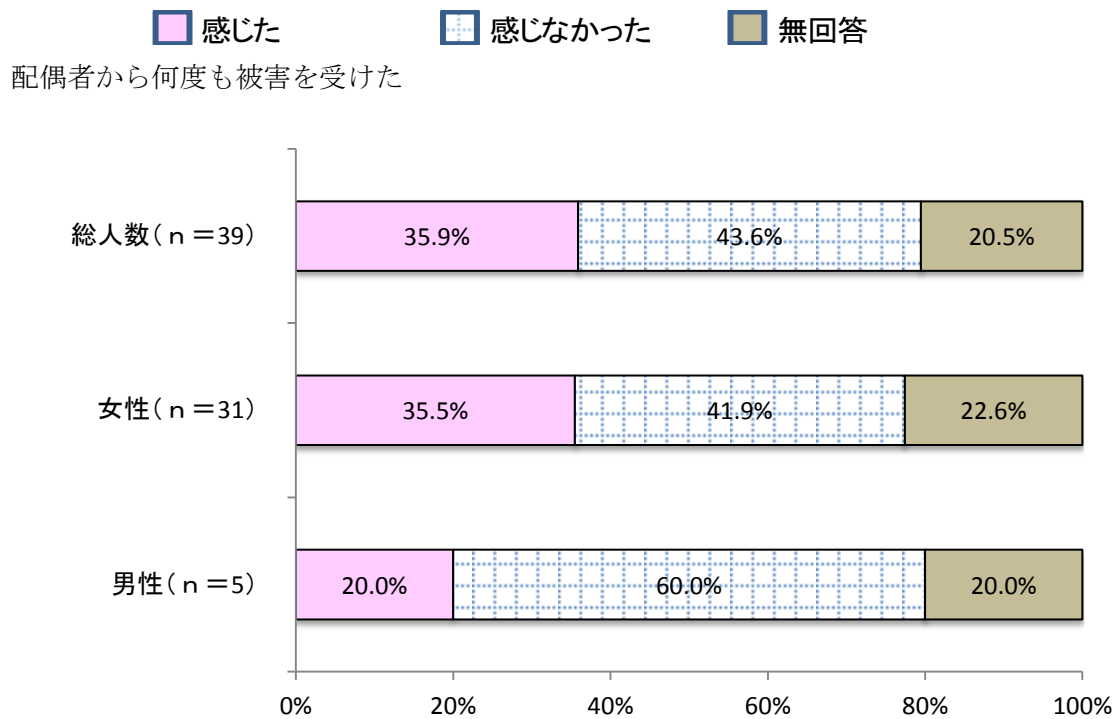
命の危険を感じた経験を性・年齢別にみると（図2-6-2）、女性の40代が4割、70歳以上が3割、男性の50代の2割が「感じた」と回答している。

図2-6-2 命の危険を感じた経験（性・年齢別）



配偶者からの被害を何度も受けた人（39人）でみると（図2-6-3）、3割の人が命の危険を「感じた」と答えている。

図2-6-3 命の危険を感じた経験



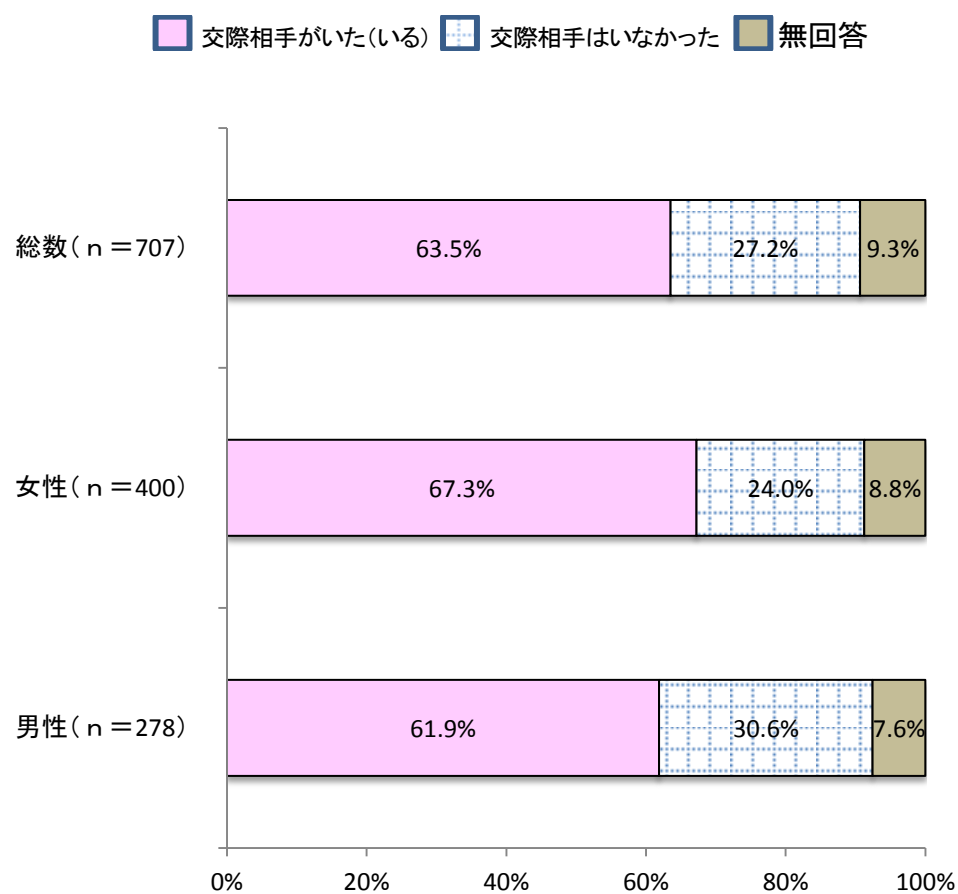
### 3 交際相手からの被害経験

#### (1) 交際相手の有無

交際相手がいたかどうかを聞いたところ（図3-1-1）「交際相手がいた（いる）」という人は6割であった。

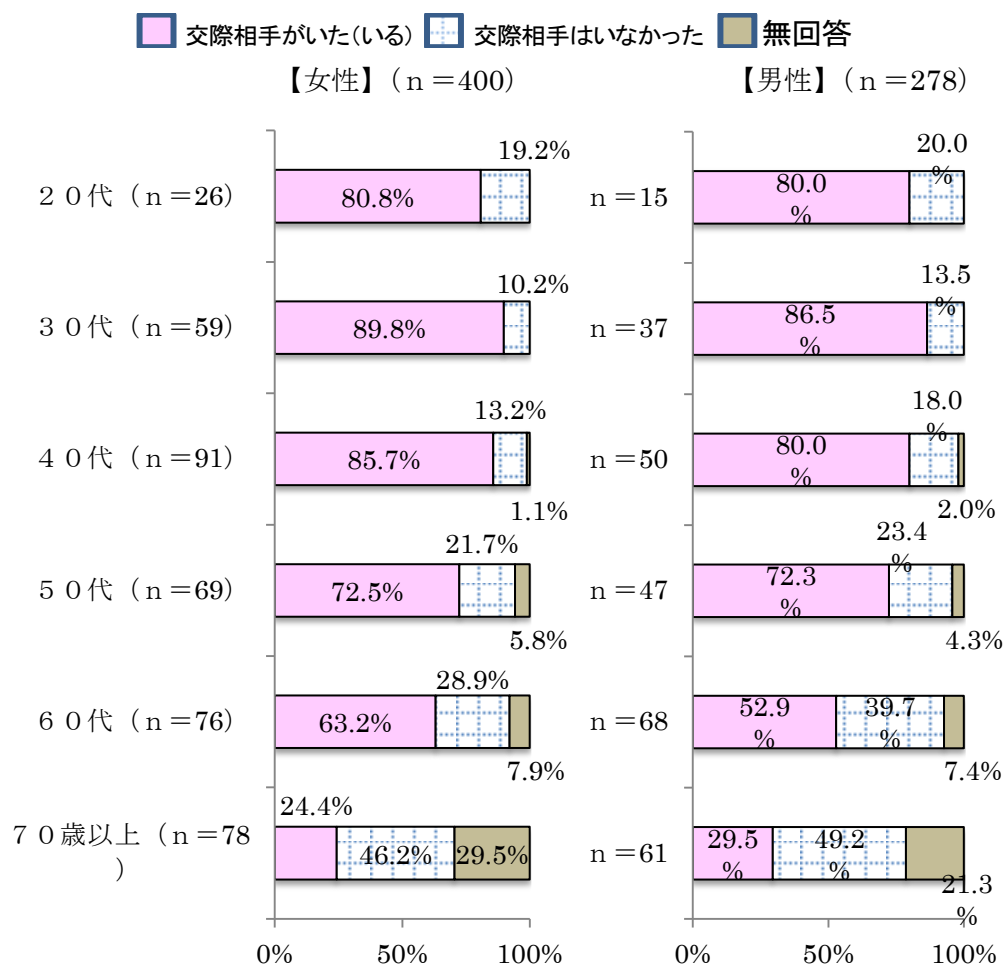
(9) あなたは、これまでに、交際相手がいきましたか。現在、結婚している方については、結婚前についてお答えください。なお、ここでいう「交際相手」には、事実婚は含みません。（1つを選択）

図3-1-1 交際相手の有無



交際相手がいたかどうか性・年齢別にみると（図3-1-2）、男女とも30代が「交際相手がいた（いる）」という人が多く、年齢が高くなるほど「交際相手はいなかった」という人が多くなる傾向にある。

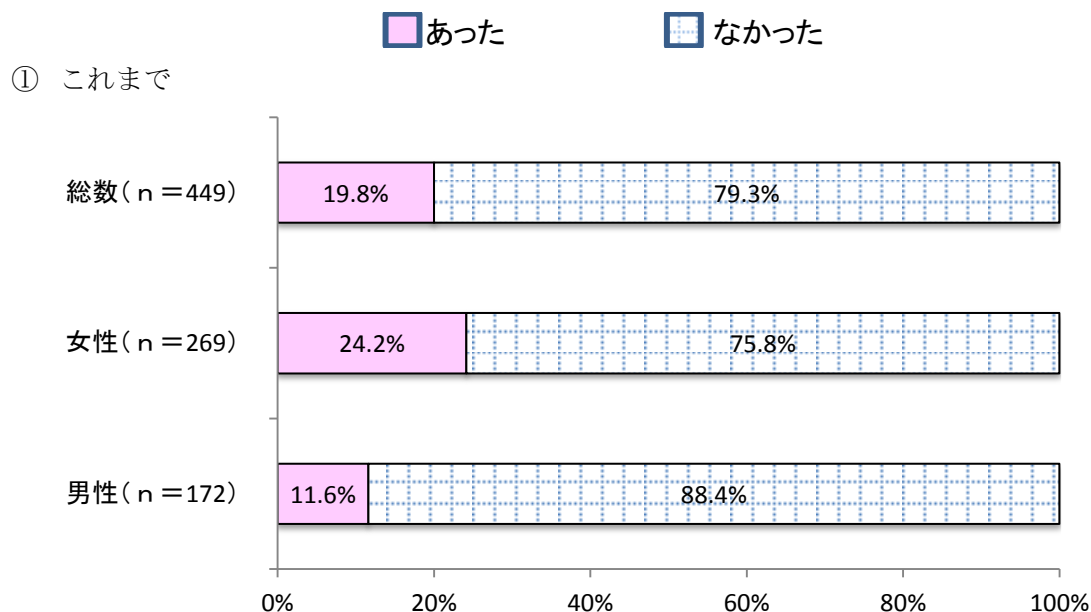
図3-1-2 交際相手の有無（性・年齢別）



## （２） 交際相手からの被害経験

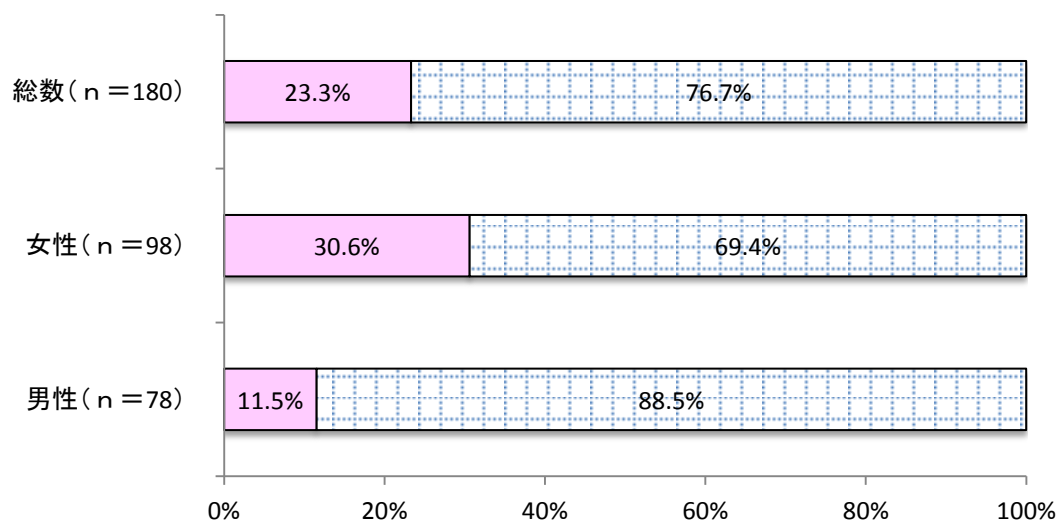
「交際相手がいた（いる）」という人（449人）に、“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”“経済的圧迫”の4つの行為をあげて、当時の交際相手から被害を受けたことがあるかを聞いた（図3-2-1）。当時の交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”“経済的圧迫”のいずれかの被害を受けたことが『あった』が約2割で、男女別では女性が2割、男性が1割となっている。

図3-2-1 交際相手からの被害経験（有無）



交際相手と同居した経験がある人（180人）に、同居の際の被害経験を聞いたところ、いずれかの被害を受けたことが『あった』が1割、男女別では女性が3割、男性が1割となっている。

### ② 同居の際

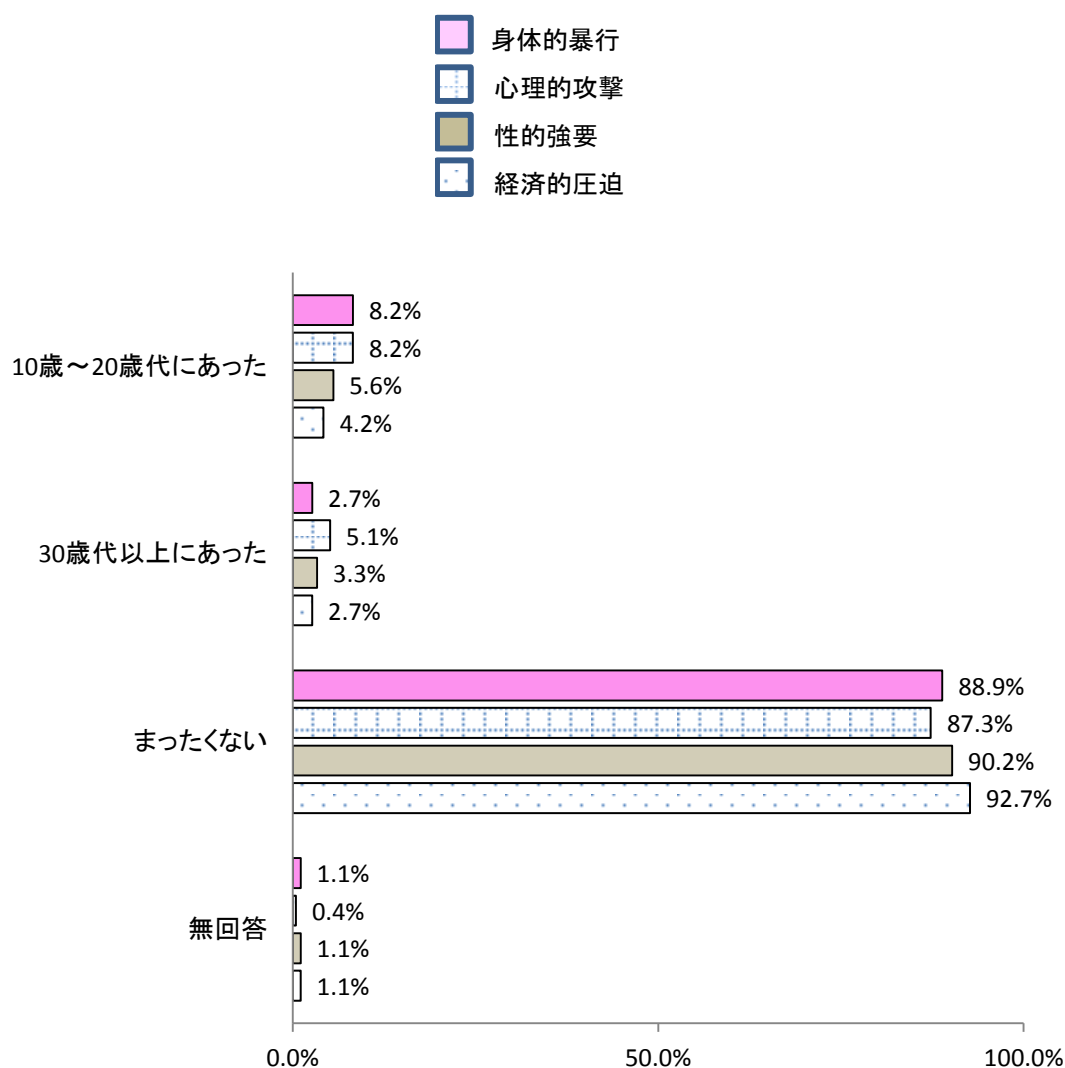


“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”“経済的圧迫”のそれぞれをみると、「10 歳～20 歳代にあった」、「30 歳代以上にあった」という人は、それぞれ 1 割未満であるが被害を受けている人がおり、若い世代の人が多く被害を受けている。

(9)で「交際相手がいた (いる)」と答えた方にお聞きます

(10)あなたは、交際相手から 1～4 のようなことをされたことがありますか。(複数回答可)

図 3 - 2 - 2 交際相手からの被害経験 (複数回答)



交際相手からの被害経験を男女別にみると（図 3-2-2）、いずれの行為についても男性より女性のほうが被害経験のある人が多くなっている。

図 3 - 2 - 2 交際相手からの被害経験（男女別）（複数回答）

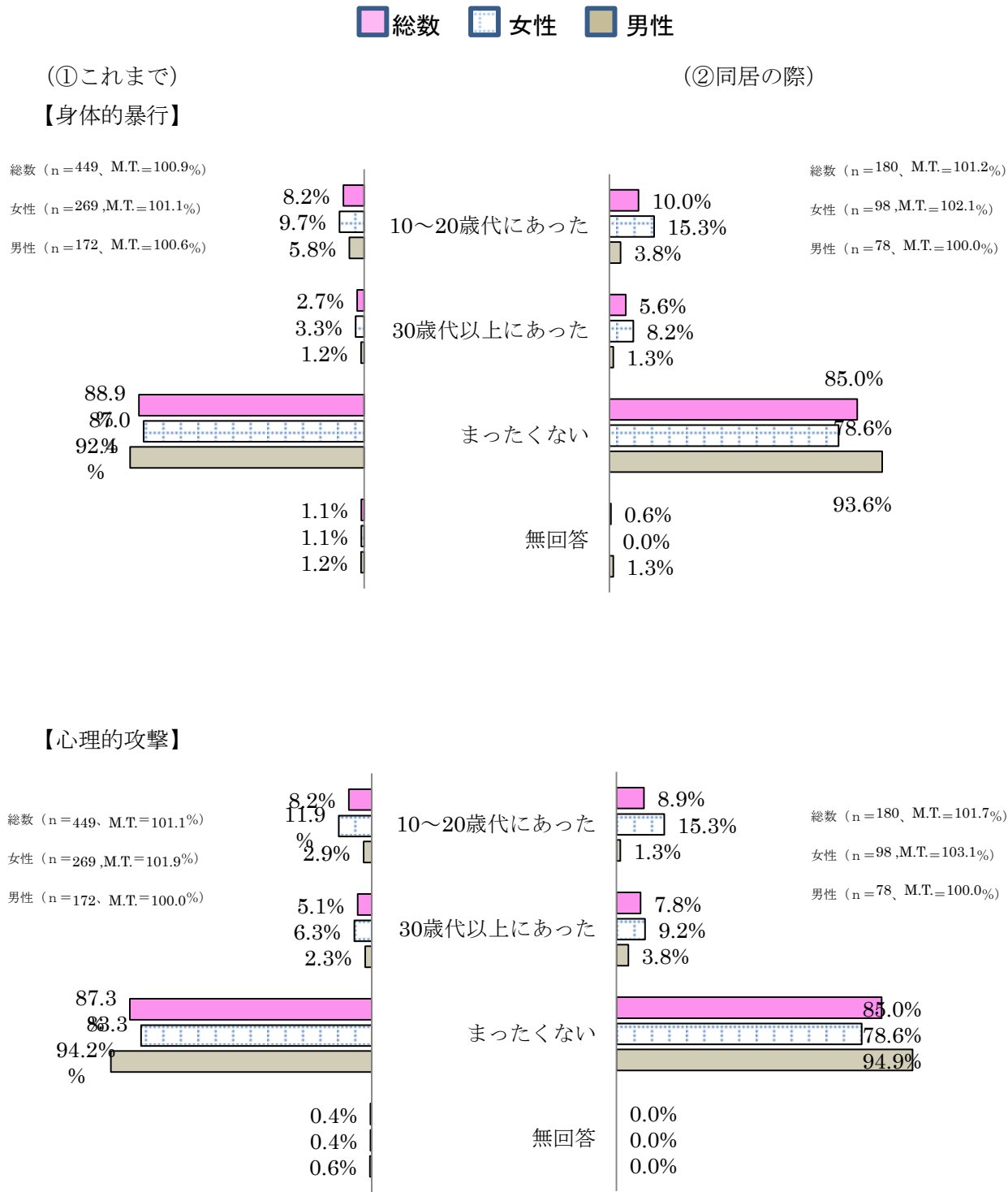
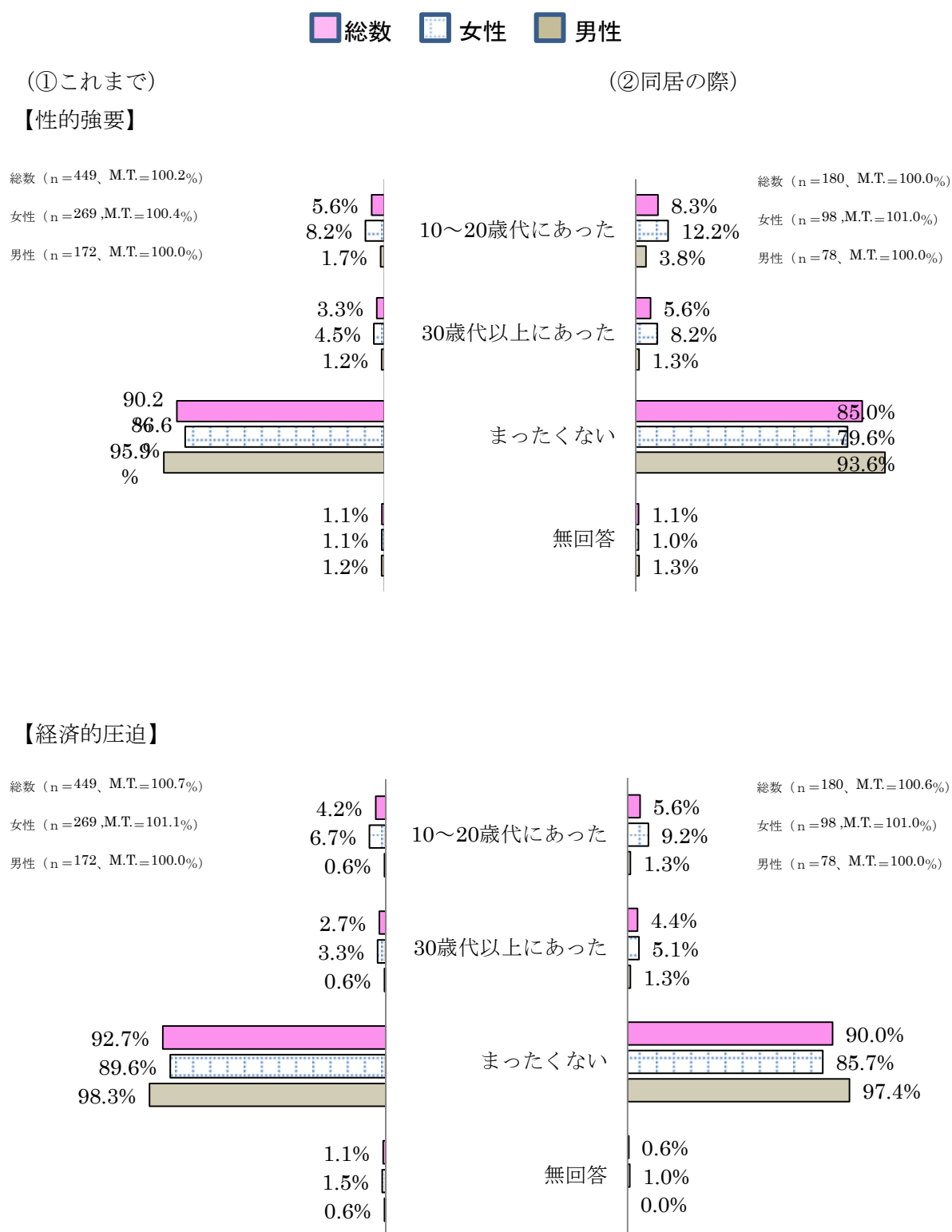




図3 - 2 - 2 交際相手からの被害経験（男女別）（複数回答） つづき



### (3) 交際相手から被害を受けた時の行動

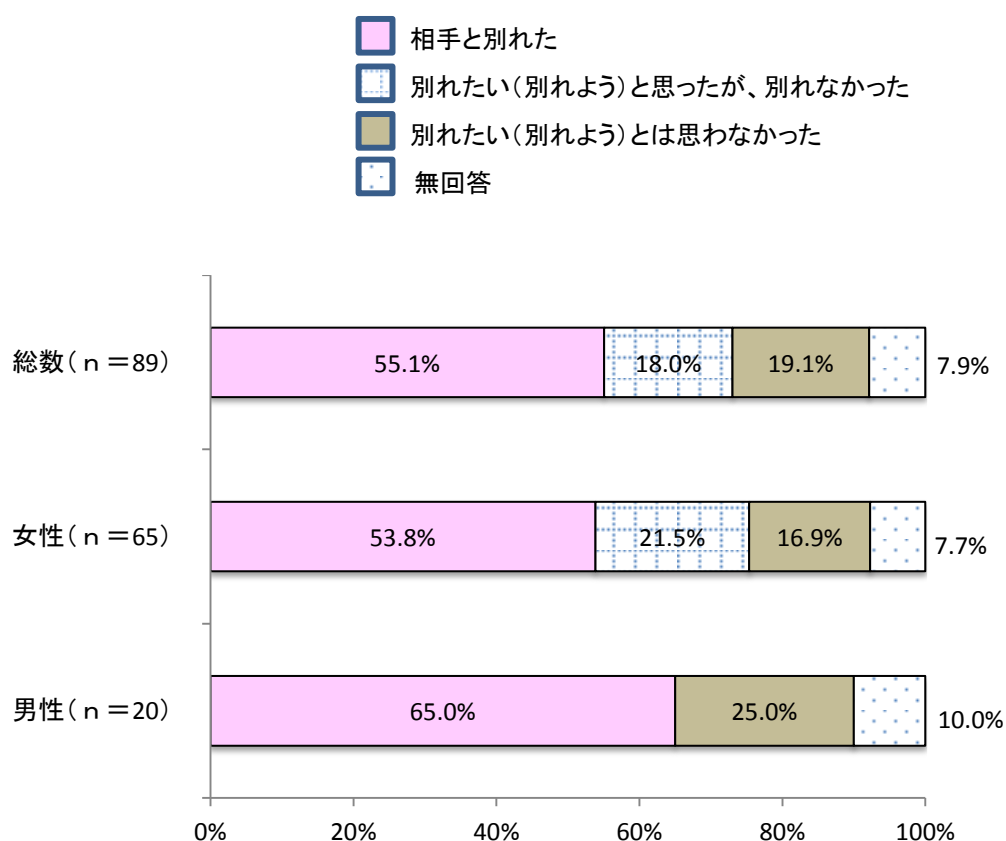
交際相手からの被害を受けたことがある人（89 人）に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ（図 3-3）、「相手と別れた」という人が半数を占めている。「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」という人と「別れたい（別れよう）とは思わなかった」という人は約 2 割となっている。

男女別にみると（図 3-3）、女性では「相手と別れた」という人が半数を超え、次いで「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」という人が多くなっている。一方、男性は、「相手と別れた」人が多く、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」という人はいなかった。

(12)～(15)は、(10)の 1～4 のうち 1 つでも、「10～20 歳代にあった」「30 歳代以上にあった」と答えた方にお聞きします。1～4 のすべてが、「まったくない」という方は (17)にお進みください。

(12)あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。(1 つを選択)

図 3 - 3 交際相手から被害を受けたときの行動



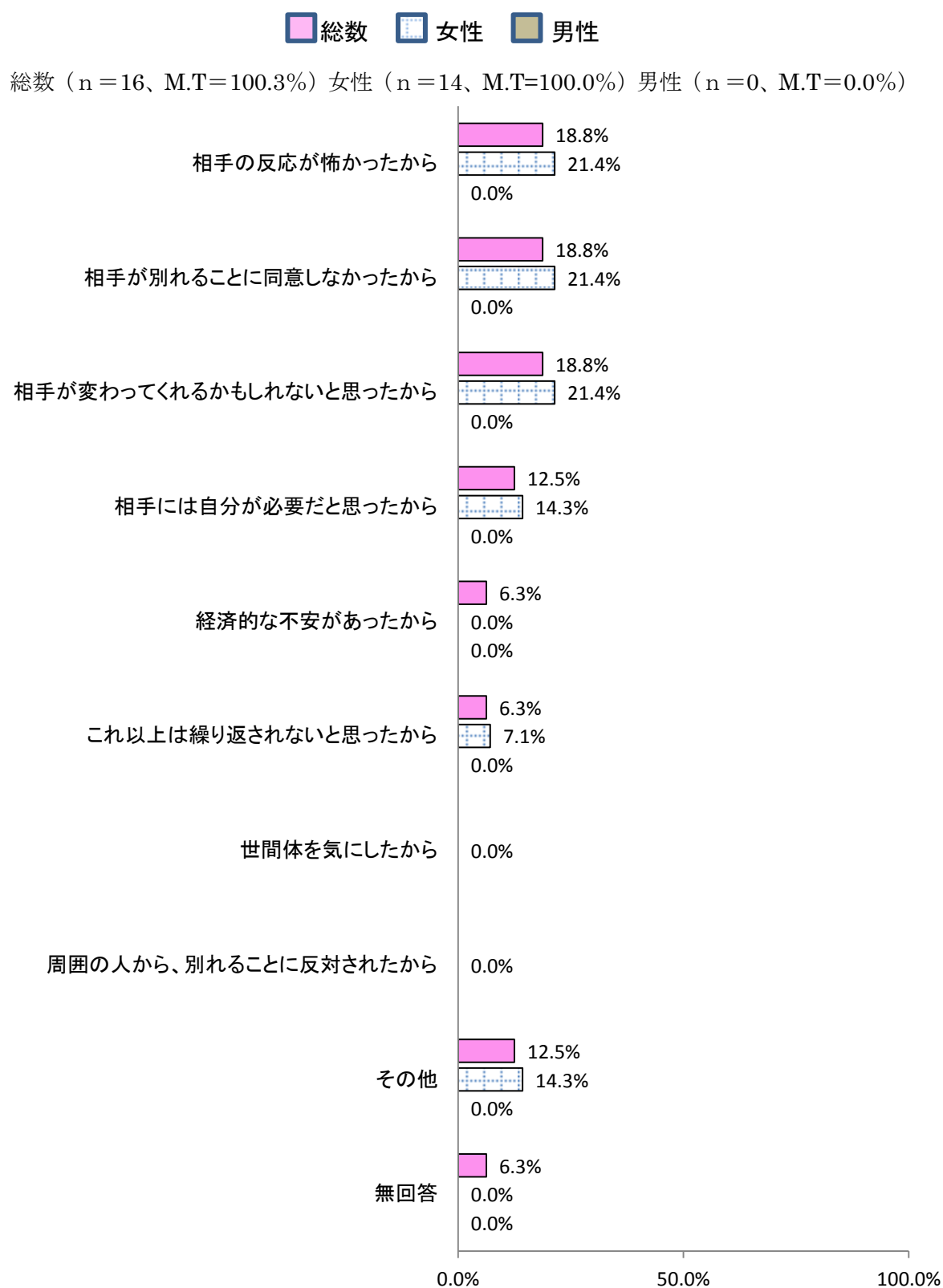
#### （４） 交際相手と別れなかった理由

交際相手から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい（別れよう）」と思ったが別れなかった」という人（16 人）に別れなかった理由を聞いたところ（表 3-4）、「相手の反応が怖かったから」、「相手が別れることに同意しなかったから」「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」がそれぞれ 3 人、「相手には自分が必要だと思ったから」が 2 人となっている。

その他の理由については[IV その他、ご意見欄への自由意見]の 94 ページに記載。

|                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(12)で「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。(13)あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。（1つを選択）</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|

図 3 - 4 交際相手と別れなかった理由（複数回答）



### （５） 生活上の変化

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（89 人）に、その行為によって、生活上の変化があったかどうかを聞いたところ（図 3-5）、「心身に不調をきたした」という人が 1 割強となっている。男女別にみると（図 3-5）、女性は「心身に不調をきたした」が 2 割となっている。

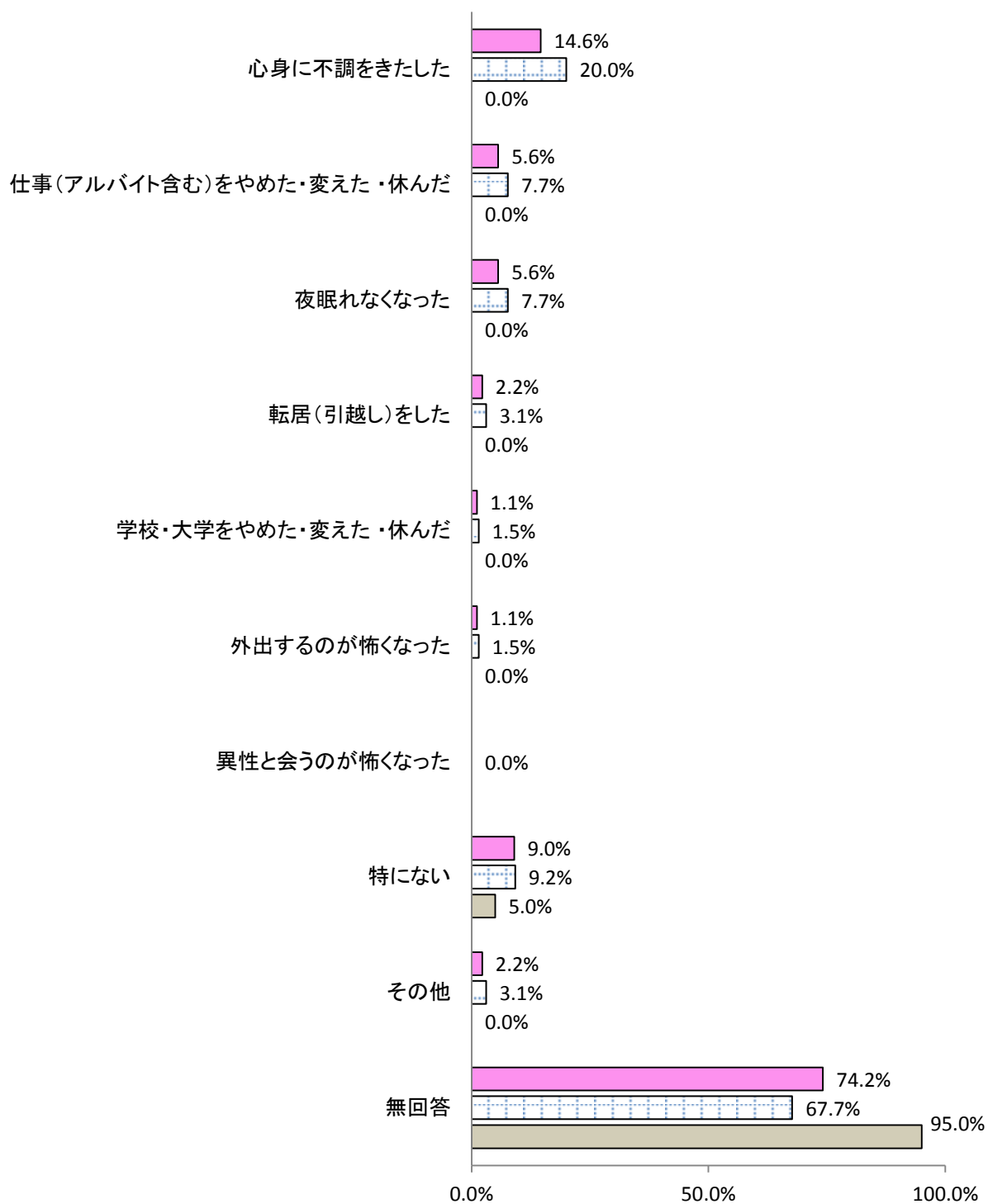
その他については、[IV その他、ご意見欄への自由意見]の 94 ページに記載。

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| (14)あなたは、交際相手から受けた 1～4 の行為によって、生活上の変化がありましたか。<br>(複数回答可) |
|----------------------------------------------------------|

図 3 - 5 生活上の変化（複数回答）

■ 総数 ■ 女性 ■ 男性

総数（n = 89、M.T = 115.6%）女性（n = 65、M.T = 121.5%）男性（n = 20、M.T = 100.0%）

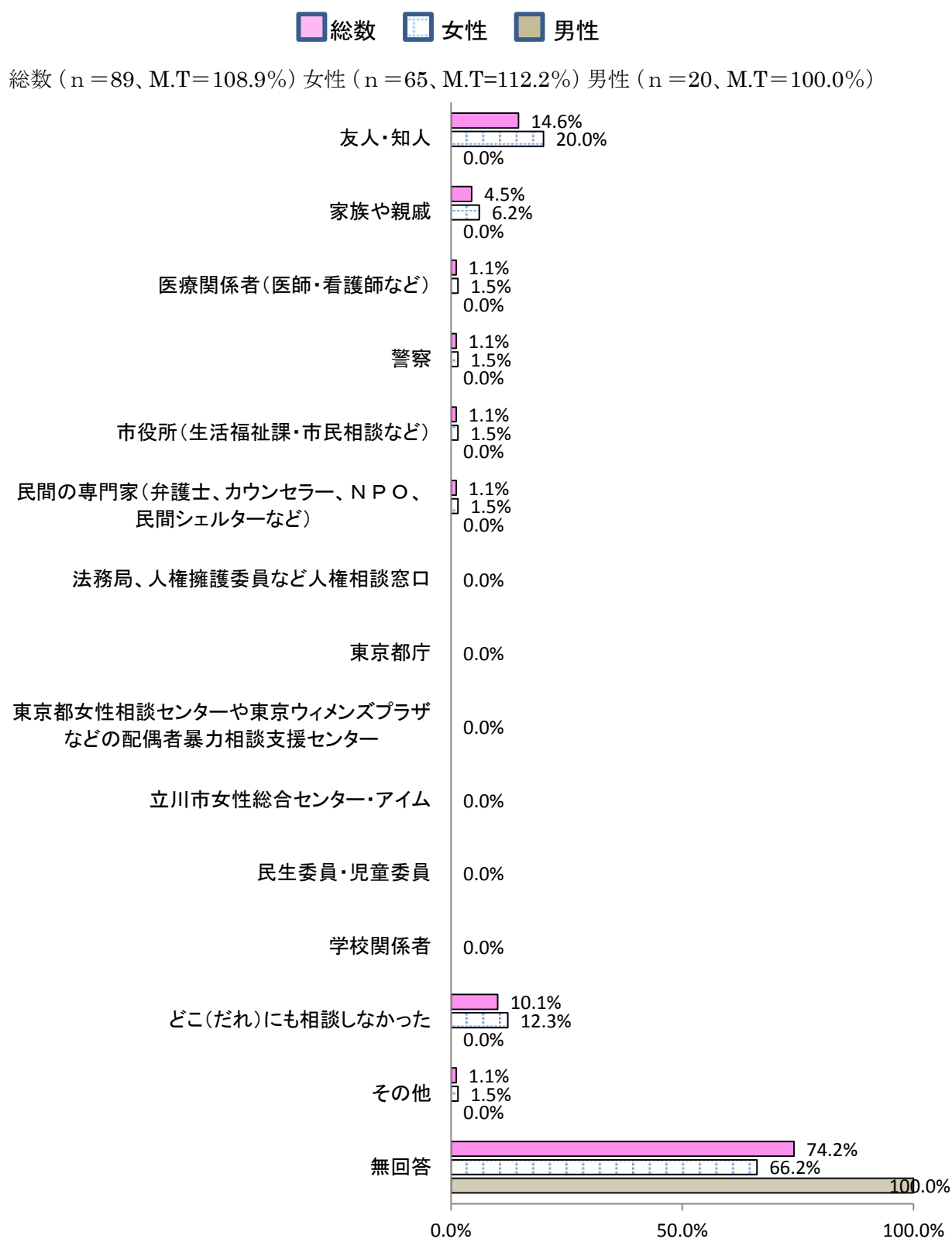


#### (6) 交際相手からの被害の相談先

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人(89人)に、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞いたところ(図3-6)、「友人・知人」が最も多く、次いで「家族や親戚」となっており、そのほかは、いずれも5%未満となっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」は1割ほどとなっている。その他については、[IV その他、ご意見欄への自由意見]の95ページに記載。

|                                                            |
|------------------------------------------------------------|
| (15)あなたは、交際相手から受けた1～4の行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可) |
|------------------------------------------------------------|

図3 - 6 交際相手からの被害の相談先（複数回答）





#### (7) 相談しなかった理由

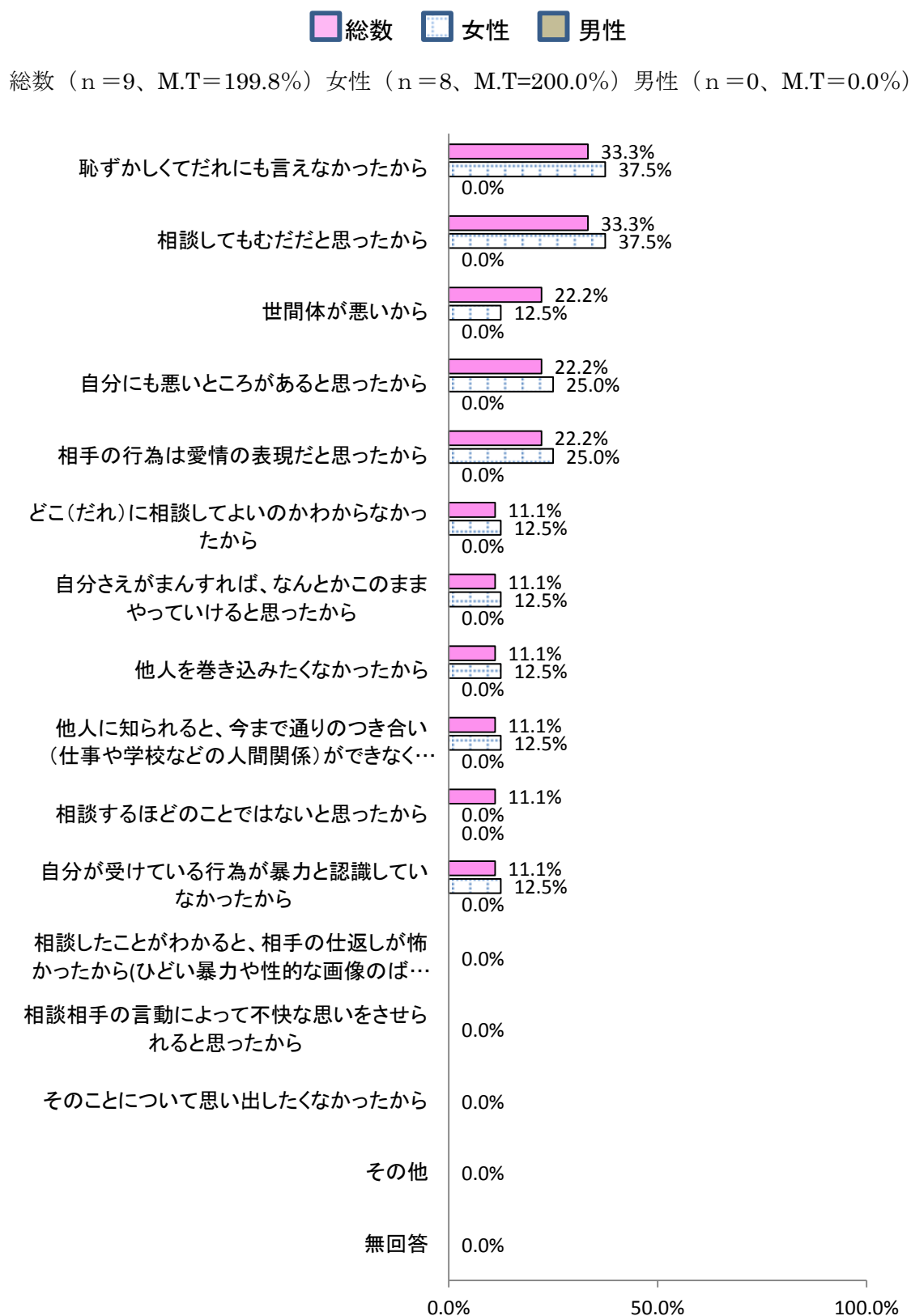
交際相手から受けた被害について「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（9人）に、相談しなかった理由を聞いてみると（図3-7）、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「相談してもむだだと思ったから」が3人でいちばん多く、次いで「世間体が悪いと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」それぞれ2人となっている。

その他の理由について、記載はなかった。

(15)で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

(16)どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（複数回答可）

図3 - 7 相談しなかった理由（複数回答）



#### 4 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制

##### (1) 男女間の暴力を防止するために必要なこと

男女間における暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ(図4-1)、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が6割ほどとなっており、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」、「加害者への罰則を強化する」が5割となっている。

男性より女性に多いもののうち男女差の大きい順に挙げると(図4-1)、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」、「加害者への罰則を強化する」、「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる」となっている。

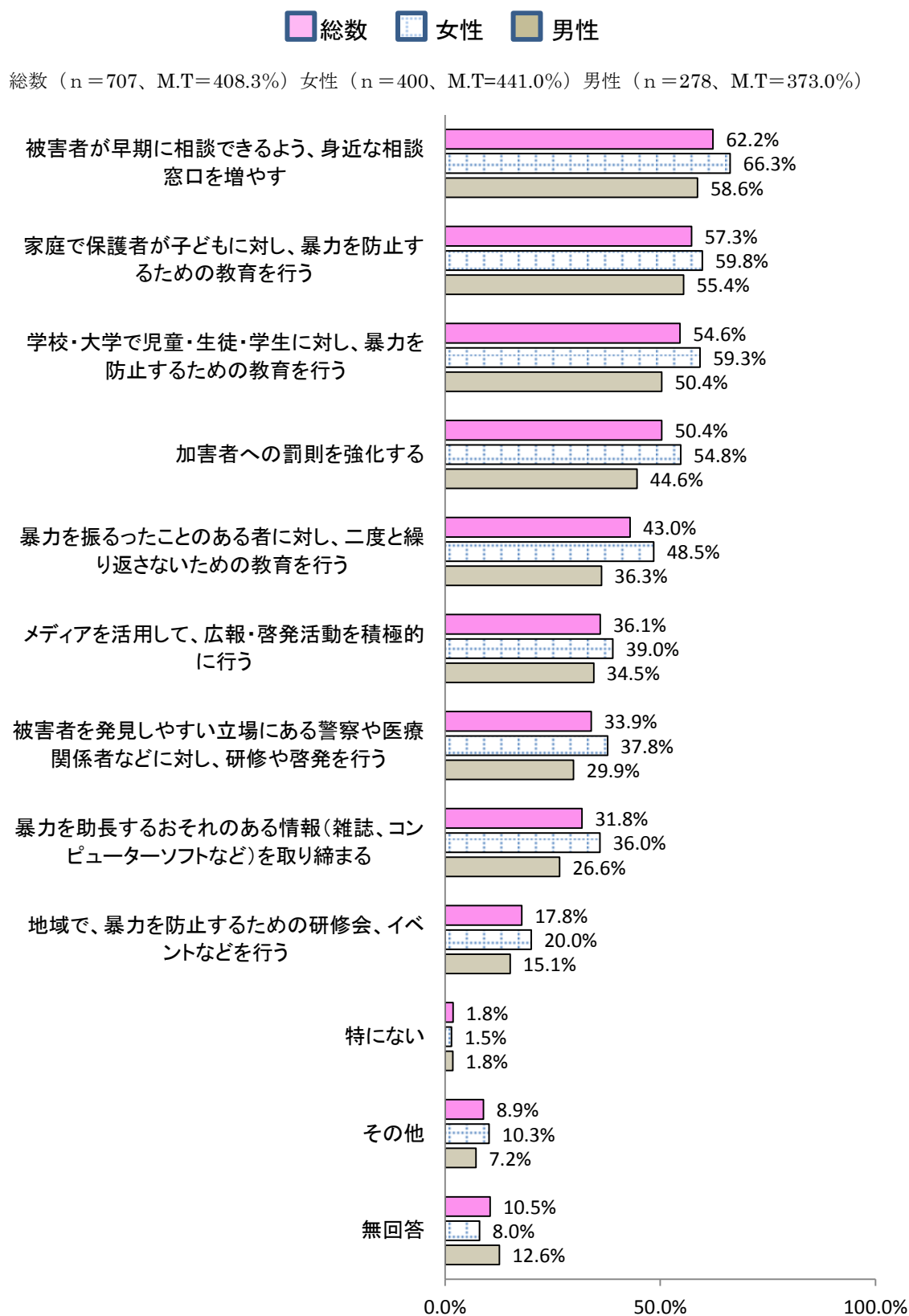
その他については[IV その他、ご意見欄への自由意見]の95ページから98ページに記載。

すべての方にお聞きします。

(17)男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

(複数回答可)

図4 - 1 男女間の暴力を防止するために必要なこと（複数回答）



## (2) 被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと

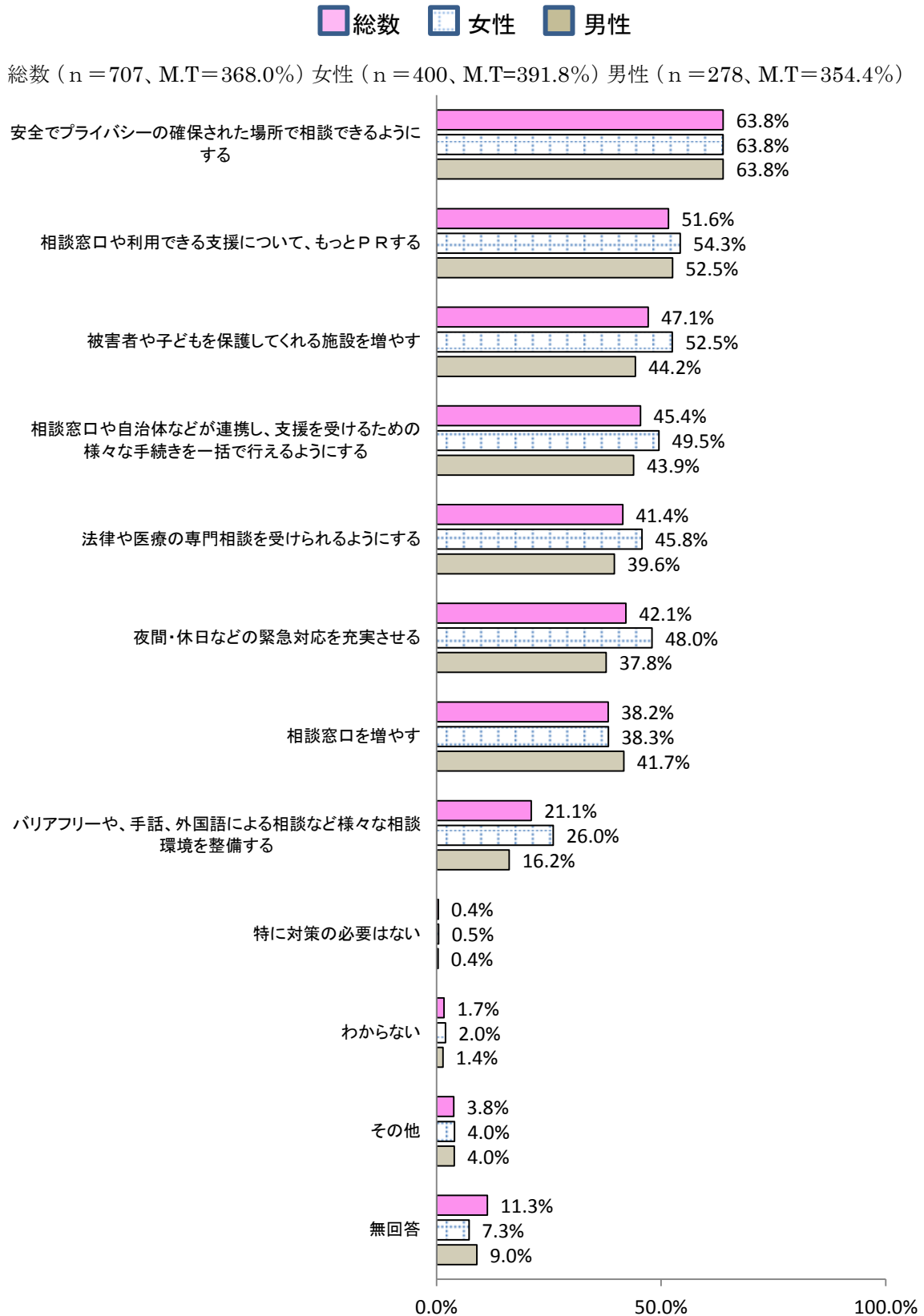
暴力による被害者が相談しやすい体制を作るために必要なことを聞いたところ（図4-2）、「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」が6割となり、次いで「相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする」、「被害者や子どもを保護してくれる施設を増やす」、「相談窓口や自治体などが連携し、支援を受けるための様々な手続きを一括で行えるようにする」となっている。

男性より女性に多く男女差の大きいものは（図4-2）、「夜間・休日などの緊急対応を充実させる」となっている。

その他については、[IV その他、ご意見欄への自由意見]の98ページから99ページに記載。

|                                               |
|-----------------------------------------------|
| (18)被害者が相談しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可) |
|-----------------------------------------------|

図 4 - 2 被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと（複数回答）

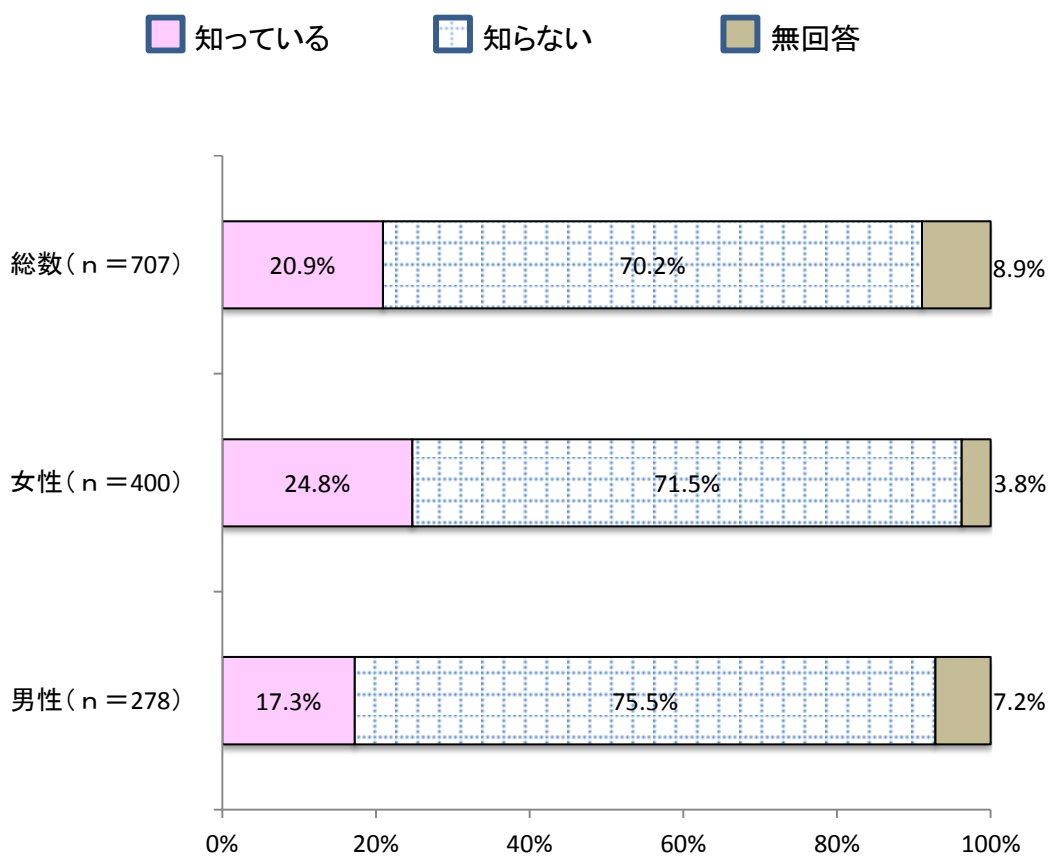


### (3) 女性総合センター・アイム・カウンセリング相談の周知度

立川市女性総合センター・アイムでカウンセリング相談を行っていることを知っているかどうか聞いたところ（図4-3-1）、「知っている」と答えた人は2割程度であった。男女別に見ても、女性で知っている人は2割、男性は1割であった。

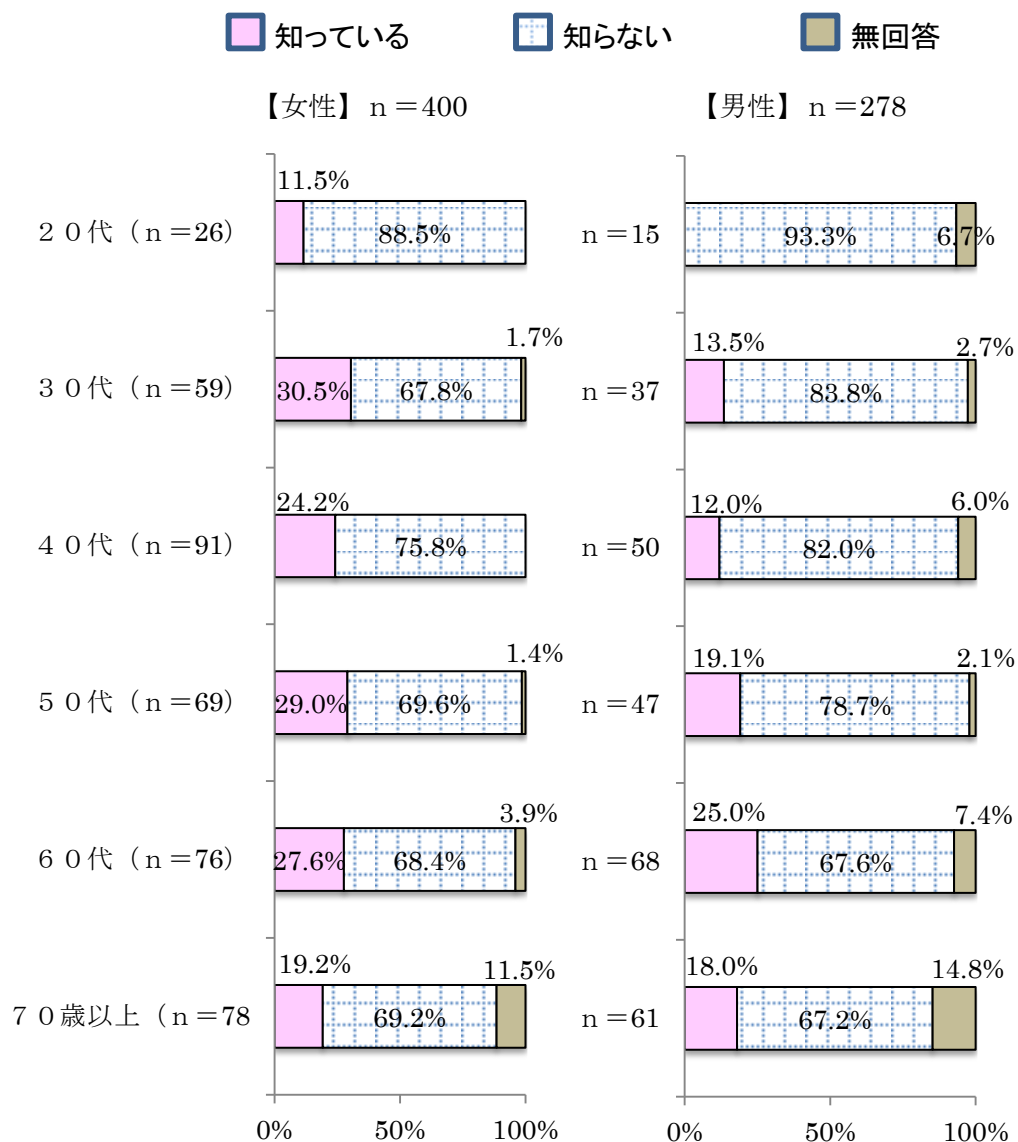
(19)あなたは、立川市女性総合センター・アイムでカウンセリング相談を行っているのを知っていますか（1つを選択）

図4-3-1 女性総合センター・アイムのカウンセリング相談の周知度



立川市女性総合センター・アイムでカウンセリング相談を行っていることを知っているか性・年齢別にみると（図4-3-2）、「知らない」と答えた人は半数を超えており、若い年代ほど割合が高い。「知っている」と答えた人は、女性は30代、50代、60代が約3割程度で、20代は1割である。男性は60代が2割、30代から70歳以上が1割であった。

図4-3-2 女性総合センター・アイムのカウンセリング相談の周知度（性・年齢別）





#### IV その他、ご意見欄への自由意見

- 1 (4),(5),(7),(13),(14),(15),(16),(17),(18),(23) のその他欄及びご意見欄への自由意見を設問ごとにご紹介します。((5),(16) のその他欄は回答無し)
- 2 自由意見の内容については、可能な限り原文のままとしましたが、明らかな誤字、脱字や個人・団体を特定しているものなどは、修正を加えている場合があります。

(3) で1～4のうち1つでも、「1、2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。

(4) あなたはこの2年の間に、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)

- 1.必要性を感じない。(女性70代)
- 2.女性と男性の性に関する考え方が根本から違うので、そういう事があると思い相談に値すると思わなかった。(女性70代)
- 3.海外にいて相談する人や、また余裕がなかった。(女性60代)
- 4.保育士に。(女性40代)

(6)で「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

(7) あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(1つを選択)

- 1.手続きに時間、エネルギーが必要で思うように進まない。(性別無回答/年代無回答)

(12)で「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

(13) あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(1つを選択)

- 1.「自分に原因があるのでは」と思い暫く耐えて後に別れた。(女性30代)
- 2.男が好きだから?(女性60代)
- 3.子どもに「中学までは」と言われた。(女性60代)

(14)あなたは、交際相手から受けた1～4の行為によって、生活上の変化がありましたか。(複数回答可)

- 1.持病が悪化した。(女性30代)
- 2.友達が減った。(女性40代)

(15)あなたは、交際相手から受けた 1～4 の行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)

1.保育士に。(女性40代)

すべての方にお聞きます。

(17)男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)

- 1.相談窓口を増やす件は、今の状態がわからないので答えられない。加害者への罰則を強化するのではなく被害者が行われたのと同じ事をした方が良い。加害者本人が、それを体験する事で自分が何をしたかがわかる。(女性40代)
- 2.発達障害、精神障害の、DVに深くかかわっていると思います。その講習会も必要だと思います。(性別無回答/年代無回答)
- 3.小さいうちはストレスを少なく、楽しく、よく遊ばせる。現代にふさわしい文化面の教育。自分達らしい道德・・守っているのが「カッコいい」と興味を持つよう誘導するような流れを作る。(男性70代)
- 4.知識教育の前に人間育成教育(例:修身等)の教育学校で行う。今の親には基本が無い。(学校で教育を受けていない。)(女性70代)
- 5.心理的、経済的なものに関しては、親の教育が大きいと思っています。基本的にそれが普通という環境で育っている為、考え方を改めさせるのは、かなり難しい気がします。「交際相手は、顔ではない」という事の自覚を持たせる教育は本当に大事だとも思います。(女性30代)
- 6.見えない所でされても発見できない。暴力を未然に防ぐ方法を考える。(女性40代)
- 7.加害者に、どこまでが暴力かを知ってもらう事が大事だと思う。(女性40代)
- 8.小学校と中学校で命の大切について教えることが必要です。(性教育をすることにより、生きているもの全てに愛情を持てるようになる。)(女性60代)
- 9.習い事ではなく、体育の授業などで護身術を教えれば女は弱いとかひ弱な男の子の認識を変えられるのでは?強い者が弱い者を護る教育の徹底。(女性60代)
- 10.(自衛隊の様に)訓練?して精神を鍛える?別メニューを考える。期間は、暴力が始まった日から発見された日まで。ちゃんと責任を持たせる。人を助ける訓練も考える。そのままにしない。(女性50代)
- 11.暖かい環境で子どもが育まれるべき。父と母が仲良くしている姿を見て子どもは育つべき。子育てでストレスが軽減するような取り組み。子どもが孤独にならない為の地域レベルの取り組みが必要。(女性30代)
- 12.子どもの前で暴力、暴言をしない。マネ連鎖するから。(女性40代)

- 13.幼少期からの繰り返しの教育（学校教育）（男性60代）
- 14.被害者を発見しやすい立場にある警察に対し、研修を職員に徹底させて、被害者が不幸な結果にならぬようにして欲しい。（女性70代）
- 15.道徳やモラルに付いて話し合う事を子どもの時から教えていく。（女性60代）
- 16.親が子供のしつけをしっかりとる。最近は親自体がしつけされていないからダメ。  
（女性50代）
- 17.被害者はもちろんだが加害者側の精神的カウンセリング、過去のトラウマや、経済的不安や孤独感など抱えている問題を話せる居場所作り。（男性50代）
- 18.具体的に細かく暴力の例を示す事。（女性70代）
- 19.暴力を少しでも受けたら、すぐ逃げるとか。別れるべきだ。別れても生きていけるよう（食べていける）仕事をするようにして！（女性60代）
- 20.被害者に対して立向かう強い気持ちを持つように教育する。（女性40代）
- 21.暴力についての教育が、と云うよりは人間としてお互いを尊重するなどが必要だと思う。一人ひとり自分に自信を持って生きていけるような教育、自分の意見をきちんと言える人間として育つように。（女性50代）
- 22.相談だけでは解決しない。（男性70代）
- 23.暴力かどうかのボーダーラインは個人で違うが、どのような場合に犯罪になるのか男女共に知っておくべき。夫婦や恋人では被害を自覚できない人がいて、それを周囲が気づけるような啓発が良いと思う。冤罪の可能性も考えるべきだが、まずは広く知って貰うことが大切だと思う。（女性30代）
- 24.家庭での愛情豊かな幼児教育。（男性60代）
- 25.互いに思いやる心を持たせる。（男性40代）
- 26.子どもの頃から精神力をやしなう。（男性30代）
- 27.教育機関、地域、行政による防止策、検討、啓発は難しい時代と考えます。どうしても設問的に男＞女が前提ですが女性＞男性の関係性における諸課題についてこれからはより考えるべきでは。（男性40代）
- 28.本人が、「自分の人生や子どもを守る」と死ぬ気でやらないとダメです。（女性60代）
- 29.とにかく被害者が逃げ込める場所を増やす。（男性60代）
- 30.それぞれの機関において横の繋がりを強化して情報の共有をする。（男性50代）
- 31.母親の愛情が足りない人が、問題行動を起こすことが多いように感じます。女性が外で働くことが、そんなに大切ですか？出来るだけ子供と一緒にいて愛情をたっぷり注ぐことのほうが大切だと安定した生活が送れるような施策の方が重要だと思います。  
（男性40代）
- 32.学校で暴力をふるう生徒の親はタトゥーが入ったような人。学校でも暴力防止の教育の必要があるが、まず家庭がしっかりしていなくてはならないと思う。（女性50代）

- 33.単に暴力が悪いことだと教えるのではなく暴力を行った結果がどうなるのかを深く教えるべき。(男性40代)
- 34.家庭環境が複雑な家庭ほど、そうなる傾向があるようです。そうした複雑な家庭のサポートが必要なかもしれません。(女性30代)
- 35.小さい頃の親の育て方、育てられ方だと思う。(親も同じように育てられたってことです)(女性50代)
- 36.非暴力の教育が必要、非暴力の思想も必要。(男性60代)
- 37.育った環境含め、本人の意識のレベルが問題。加害者への罰則を心から強化して欲しいと心からお願いします。(女性40代)
- 38.第三者の存在、たとえば親、兄弟、友人などが近くに住んでいる。行き来している。などが抑止になると思う。(女性50代)
- 39.市が防災や交通安全週間のように毎年広報活動としてDV撲滅のキャンペーンを展開し、その時は市報と別に各戸に読み易いチラシを配布して被害者に外とのつながりに対して自覚を促し、早期発見につなげる。(女性70代)
- 40.どういう行為が暴力にあたるのか情報を伝えて欲しい。もしこれは暴力かな？と思う人がいたらまず、どうしたらよいか？ということを示してあげてほしい。気軽に電話出来る所や、ここに電話すれば良いとかあると、いいのでは？と思います。(女性30代)
- 41.暴力をふるってしまう人(加害者)の心のケアが大事だと思う。(原因を追究し、どうしたら暴力をふるわずに済むかを一緒にケアして行く！)学校はもちもん、家庭教育や地域教育も大事であるべきだが防止する事だけを考えるのではなく、その裏に住む社会の背景、家庭環境をも考慮し社会全体で考えていかなければならないと考えた。(女性40代)
- 42.メディアを活用して広報、啓発活動を行うというよりメディアによる情報過多で模倣犯が出現する場合も多々あると思う。報道の自由がある(認められている)が、メディアに倫理観を求めたい。(男性50代)
- 43.男女に関係なく小中学生の頃に「いじめ暴力をうけた被害者がどんな辛い思いをするか」と言ったビデオのようなものを何度も見る必要があると思う。(女性40代)
- 44.子どもの育て方は親の責任、子どもを育てられない親を教育しなければどうにもならない。教養のあるなしに関わらず無責任な親が多すぎる。(男性70代)
- 45.無理だと思う。(女性30代)
- 46.暴力の定義とは何でしょうか。価値観が違いうように暴力も相手との関係があって、はじめて成り立つと思うので親が暴力を暴力と思っていなければ子どもには伝わらない。目で見えるものだけが暴力ではないはず、それも踏まえてもう一度小さいころから教育することが大切。でも子供を教育するのは「大人」。その「大人」が理解していなければ何も伝わらないと思う。(女性40代)

- 47.被害者と加害者が共依存にあること等の問題について、精神科医からの相談機関への教育。(女性40代)
- 48.何が暴力なのか、具体例を示し被害者に早く気付かせる必要。(女性40代)
- 49.子供の暴力を見て見ぬふりをする教師、PTAの研修会。(男性60代)
- 50.家庭内のことには警察や行政がなかなか介入できない為に大事に至ってしまうケースが多いのではないかと？本人たちの同意なしでも事態に介入できる権限を与えるための法制度が必要ではないかと思う。(男性50代)
- 51.暴力をふるう人と見極める力を養い、仮に見抜けなかったとした場合の相談窓口。基本的に見抜けないのであれば、自己責任的な面があると考えますが、そう言っていられないので相談窓口の設置。メディアがDV問題を取り上げることに對し、身近な行為(問題意識が低くなる)につながってしまうのではないかと心配になる。(男性30代)
- 52.愛情、人格、教養の欠如。(男性70代)
- 53.貧困や家庭環境によると思うから、子どもの時の様子を皆で見てサポートする(女性50代)
- 54.罰則を強化する。抑止力につなげる。(女性30代)
- 55.暴力に関する周辺だけでなく、男性がもっと楽に生きられる環境や女性への差別意識など全体に対して施策が求められていると思います。(女性30代)
- 56.交際相手はいなかったなので、この問いに答える意味がわかりません。(女性20代)
- 57.思想的な違いで別れました。(女性70代)
- 58.被害者が身を隠すシェルターをもっと増やすべきだ。(女性50代)

(18)被害者が相談しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)

- 1.結局、当てに出来ないだろう。(女性50代)
- 2.相談窓口を増やす。被害者、子どもを保護する施設を増やす。しかし現状が分からない為答えられません。(女性40代)
- 3.被害者が気が付いてない場合もある。「こういう事はDVですよ。」など広める事も必要。  
「こういう事をされて自分が辛ければDVの可能性があり」、他のPRは必要と考えます。(女性30代)
- 4.初期対応が重要だと思います。(女性70代)
- 5.加害者から守られる相談環境。加害者が怖くて相談できない場合が多いと思います。(女性30代)
- 6.いかにも「何かありました。」みたいな建物ではなく、人が集まりやすい病院、スーパー、駅等にも窓口があったら子連れでも入りやすいのでは？(女性50代)
- 7.直接人と話したり外に出る事を恐がる、億劫に思ったりする時も有ると思うので、そうい

う時こそSNS（LINE、メール、ツイート等）を活用したらどうだろうか？

（男性50代）

- 8.知人がストーカー被害にあって警察に相談にいったが、対応した男性警察官の対応が非常に女性差別的だった言っていました。女性の相談には必ず女性が対応すべきです。

（男性60代）

- 9.暴力をうけている自分が悪いのではなく、相手が悪いと教育を子どもの頃よりうけること。

（女性40代）

- 10.状況を軽視することなく相談を受ける側の教育の強化。（女性50代）

- 11.家庭に、嫉の責任を負わせなくなった結果、行政が色々な手を打たなければならなくなり、その分余計な負担となっていると思います。（男性40代）

- 12.保護が必ず出来る事。本人が希望しない限り帰宅などさせない。（男性40代）

- 13.軽い暴力であっても気軽に相談できるよう具体例を広く伝える。（男性40代）

- 14.家族で対応するようにして欲しい。子どもがそういう事になったら親と一緒に解決できると良いと思います。やっぱり最後は親の保護が精神的に必要なだと思います。親が協力してくれると自信がつきます。（女性30代）

- 15.民間でDV対策を行っている団体と行政が連携を結ぶ必要があると思います。

（男性50代）

- 16.手紙や電話等気軽に相談出来る手段を広くアピールする。（女性40代）

- 17.被害者が安心して守られる方法、手段、施設の信頼性がなければ誰でも相談する気にならない。（男性70代）

- 18.心理カウンセラーなどきちんとした資格をもっている人が対応して心のケアも一緒にすべき。市役所では土日休日は休み、それを少し考えて欲しい。市は考えていると云っても土日休日は休みで何を考えているのかな？と思う時もある。（女性40代）

- 19.最悪の結果を想像しながら対応する窓口職員を育成する。他人ごとにしらない。

（女性50代）

- 20.暴力を受けた時の一時的な対策とその後の自立や解決に至るまでの支援があるなら相談しやすいかと。（女性30代）

|                                                 |
|-------------------------------------------------|
| <p><b>(23) 【ご意見欄】</b> その他ご意見がありましたら、ご記入ください</p> |
|-------------------------------------------------|

- 1.今の世の中は自由すぎると思います。お金があれば何でも買えるコンビニなどを利用すれば結婚等していなくても一応生活できる。節度、教育等もっと小さいうちから教えていくべきだと思いますし、近所付き合いも少なく個人事情の事ばかりに力を入れすぎて、どうかと思う事もあります。（女性50代）

- 2.忙しい中、時間をさいて回答しています。クオカード等1枚でもお礼として配るのも良いかと思いますが、となると個人情報が出れますよね。難しいところです。（男性40代）

- 3.新聞、TV、情報誌、処々が事件、事故等を細かく報道し過ぎるために、どんどん真相が深い、醜い事件が増えているのではないかとと思っています。(女性50代)
- 4.(19)についての「知らない」は、相談しようと思った事がない為、知らないだけです。このアンケートについて立川市が今、行っている現状が知りたいと思いました。現状は、広報でわかるのでしょうか？(女性40代)
- 5.この調査で改善されるとは思えない。もっと工夫されたい。(男性70代)
- 6.質問の回答欄が3つだと自分の考えとは少し違うところもあると思います。(男性40代)
- 7.以前、市内の図書館のトイレを利用した際に上記相談窓口をPRするポスターを見かけたのが印象的だった。PR広告をどこに掲示するか困っている人の目につきやすい場所を探してもっといろいろな場所に掲示すればよいと思う。(自分は関係無いものと思っているので、あまり目に付かないのかもしれませんが。)(男性30代)
- 8.こんなアンケートに使う金をデパートのトイレ等に相談窓口の電話等の案内カードを増やした方良い。(男性40代)
- 9.残念だけど、罰則強化が抑止力(男性70代)
- 10.少しでもお役に立ったら幸いです。(女性20代)
- 11.自分が普通と思っていることでも他人が聞いたら大変な状況である事がある。色々な形で自己表現出来る場所があってほしい。(女性20代)
- 12.立場の弱い相手は守ってやらなければならないと思う。人、家族を気遣うこと。こんな調査されるなんて考えられない。(男性70代)
- 13.ほんの少数ですが、親、肉親、自分の子供への愛情が全く無く、動物の様に扱う人達があります。ただ平素はその人達は平凡な生活をしています。事件として発表される毎に、表面に出るのはごく一部で、潜在しているとも考えられます。生きる目標は何かをしっかりと教育する事が大切です。学校はまず愛情と礼儀を思いやり、具体的に教育することが今こそ必要と考えます。(性別無回答/年代無回答)
- 14.すべては、政治と生活力 or 貧困から悪は生まれると思います。これから若い人々、大変な世の中になると同時に生きる事の大変さ。(女性60代)
- 15.表面上の事ばかり見ないで実態をよく見て、発生のしくみ(何故、暴力まで発展してしまったのか)を分析する事が重要で解決のポイントだと思います。問題点は事実の分だけで個々にあり、大変な作業と時間を要すると考えられますが痛ましい事件を耳にする度、行政や警察は何をやっているのかと何度も思われています。要するに現在の対応では暴力やいじめの問題は無くならないと思います。よってこれ迄の表面上の取り組みはやめ、時間や費用、地域の住人を利用する。そして、その輪に行政や警察、医療、施設等を含めた包括的な仕組みを構築し、被害救済にトータルに対応出来る機関の結成が急務だと思います。当然、その機関は、これまでの行政の愚かな縦割り機関ではなく横の繋がりを持ったものでなければなりません。(女性50代)
- 16.子供の虐待のように周囲の人たちが通報出来るような環境や意識があればいいと思いま

す。(最終的には本人の決断の問題になるとは思いますが。)(女性40代)

17.夫は気が優しくて、まじめで、穏やかな人ですが、私の方が思った事をすぐ口に出してしまう性格でした。しかし夫が4~5年程前から職場の仕事上、うつ病になりました。今は病状は良くなりましたが、その時から言葉づかいや態度を改めて優しく接することが出来るようになりました。嫌味を言うことなどを止めるというのは自分自身の意識改革が、割と大変でした。暴力を振るう人を止めさせるのは本当に大変なことだと思います。(女性50代)

18.DVなどは女性に限らず男性にもあると思います。まずDVなどについて、もっと理解を広める活動とともに被害者、加害者の心のケアが大事だと思います。(女性30代)

19.34~5年前の離婚当時、この様な事があったのか?私の周りには聞いたこともなく、知ったこともありませんでした。この調査内容は、私には良くわかりません。(高齢者世帯です)(今、問題になっている事はわかりますが・・・。)(女性70代)

20.男女間暴力はTVのニュースでしか見たことがない。でも実際は、見えない所で被害者だとも思わずに暴力を振るわれている人も多いのでは。設問のような例があったら、すぐ相談するように、みんなが見える所で告知していければ、公共の施設内だけでは限られた人には見てもらえないと思うので。(女性40代)

21.幸いこの年まで異性に暴力、暴言など受けたことなく幸せに感じています。テレビ、新聞等で見聞きしますと相手は暴力を振るった後にすぐ謝ることがあります。それに騙されてズルズル離れられないようです。少しでも暴力行為があった場合、近隣並びに警察等が何らか処理をすべきと考えます。少しでも暴力があると認めた場合おせっかいでも関与すべきです。殺害されてしまってからでは遅いと思います。(女性60代)

22.今現在、横の繋がり、連携が感じる事が出来ません。実際、現状として家庭内暴力、暴言を受けて言うに言えず心が病んでいる人が多くいます。地域の方達との連携、ボランティア等が上手く各家庭との付き合い合っているなら人の目があるので少なくなり、暴力的なことも少しずつ自分の中で考えられる様になるのではと思います。暴力を受けている人は怯えているのが現状です。(女性60代)

23.設問(17)の暴力を助長するおれのある情報(雑誌、コンピューターソフト)とあるが、暴力を助長するおれのある「コンピューターソフト」とはどういうことか?ソフトに影響されて暴力と云うことを聞いたことがない。何かよくあるステレオタイプの偏見を感じる。(男性50代)

24.結婚を機にパニック障害と判定され今年で17年目を迎えます。その相手とは離婚したものの片親なので収入が少ない為(実母)実家に戻ることもできず、届け出した後も一緒に暮らしておりました。それから2回程、婚姻して(別の相手)も、この精神疾患を受け入れて貰えず、言葉や身体暴力を受けてきました。3人目の相手とは審判離婚まで発展しました。いろんな精神疾患を持つ私のようなものは、うつ病とは違う扱いをされ保険証まで扱いが違う。会社でなった、うつ病は手厚いのにかような理由で患った精



神病に対して何らかの援助があると助かります。仕事も出来ない身体になってしまっても現在の母との生活が苦しいからと面接に行けば開口一番「精神疾患とかありますか？」もう、この一言でイヤになります。身体的に不自由な訳ではないので見た目ではわからない。だからと言って現在の日本、東京、立川市の対応がどれだけ変わるかなんて無理に近いのかもしれませんが、心の病にまでなってしまった人を救える立川市になって頂けたら嬉しいです。長々と申し訳ございませんでした。(女性40代)

25.前に経験がありますが加害者をどう正していくか、止めるかも、とても大切だと思います。(女性30代)

26.デートDVも増えています。中学生から教育すべきだと思います。特にLINEなど、SNSですぐに返事を求める等、携帯電話も含め身近な問題とし束縛ではなく本当に人を愛するということを教えていくべきではないのでしょうか。素晴らしい調査だと思います。結果を公表しDV防止の啓発としてください。(女性50代)

27.亡くなった両親や兄弟の中でもDVについて聞いたことがないので普段余り意識したことが無かったです。(男性70代)

28.私自身は暴力等受けた事もなく理解できない「暴力をふるう」という事。ですが、中には障害者であったりするのでしょうか？まずは被害者との隔離、加害者の問診→検査→治療または、反省期間(暴力をふるった期間と一緒に)とする。とにかく自分のやった事には自分で責任を持っていくという事をして欲しいです。この様なアンケートに答える機会を、ありがとうございました。職場等の平等も考えていただけたら・・・。(女性50代)

29.自分の身体を大切にする為の早期の性教育。他人を愛する、大切にすることはどうか、他人と付き合うときはどういう事か、学べる場所はマンガやドラマ、友人からしか無いことが殆どでした。暴力を愛情と誤認したり大切に貰えない事が当たり前だと思っている人が多い気がします。男性にとっても女性にとっても不幸な事です。(女性30代)

30.離婚したくても経済的に出来ない。子供がいると働き口が少ない。せめて公的機関は、そういう人達を優先的に雇用すべき。(女性40代)

31.親が暴力的だと、その子供も暴力的になりやすいと思うので小学生のうちから暴力を防止するような教育は必要だと思います。(女性40代)

32.幸せの基は家庭の和。両親仲良く、子供は何でも親に言える環境を。小さい時から心に教育が今の時代特に必要と思います。(女性60代)

33.トイレの個室にDV相談のチラシが置いてあるのは良いことだと思う。目につく場所に置いてあると見たり、手に取ったり中々出来ないものです。(女性40代)

34.現状の法律では、どこまで警察の関与が立入れるのか？また、現実として暴力の相手から離れた場合、被害者の自立、経済はどのように支援出来るか。(被害者が専業主婦で乳幼児や2人以上の子供有りの場合、保育園の問題、働き口等)DVの人間は、その源か

- らDVである。常習化している人間が多い。その人達の心理学的ストレスを除去しない限りDVを止めることは難しいと思う。長期に渡り、小さい頃からの暴力に対する教育は不可欠である。(男性50代)
- 35.いろいろな立場の人の意見をもっと聞いてもらい、役所内だけでなく一般人も入れた会合をして欲しいです。(男性30代)
- 36.このようなアンケートは、とても意義あることだと思います。子どもが安心して育つ、安心して子育ての出来る立川市の街づくりに期待しています。(女性30代)
- 37.どうすることも出来ない弱者が、どうしたら救ってくれるのか誰もが分かるようにしてください。(男性40代)
- 38.年代が違くと物事の考え方が全然違ってくるので、我慢して来たりしているので回答も難しいです。(女性60代)
- 39.暴力が良くない事の教育が大切だとは思いますが、問題の無い家庭での教育は可能と思うが、問題のある家庭での教育は無理。→暴力二世防止には難しいと思うがやはり学校教育に期待したい。(防止)・DV被害者(女性、子ども、まれに男性)をいかに見つけ、救出する。現実には難しいと思う(対処)(男性60代)
- 40.アンケート結果の公表は？(男性60代)
- 41.親の教育がそのまま子どもに影響しますので母親の態度が一番大事だと思います。(女性50代)
- 42.お互いの人格を尊重すれば喧嘩は有っても暴力はないと思う。(男性70代)
- 43.被害者の訴えや救済を申込まれても、何か事件にならないと具体的に支援を働きかけない事が、非常に問題を拡大していることが多いように思える。加害者の人権を考える前に被害者を保護することに力を入れるべきと常に感じている。(女性70代)
- 44.他者に相談したり、窓口に行って訴える人の救済だけに留まらず、行動を起こす気力すらなく、自分の中に相手が暴力をふるう原因があるとさえ思いつめ鬱状態にある人の早期発見が求められる(地域の自治会、集合住宅に於ける管理組合との連携)又、自分が加害者である自覚がなく言葉や力で人をコントロールしようとする人へのイベントが大切な気がする。(男性50代)
- 45.身体に対しての暴力はもとより、相手を傷つけるような言葉、暴言は、加害者が自覚していない場合が多いと思う。PR広報などでは、その点も強調し、注意を促すようにして欲しい。(女性60代)
- 46.相手が嫌がることをしないという原則のもと、やはり家庭においても学校においても小さい頃から、しっかり教えて行かねばならないと思います。暴力かどうかの線引きは時と場合によりますが、思いやりを持ち人と接していくことを家庭で呼びかけてまいりたいと思います。(女性30代)
- 47.具体的に暴力に当たる例を細かく示す事が大切だと思います。これくらいの事は暴力に入らぬと考えている人が多いと思います。(与える人、受ける側、両方に)(女性70代)

- 48.私は70才です。26年間暴言、暴力に耐えてきましたが50才の時に精神と体力の限界で離婚しました。息子も娘もそんな中で育ち40才になる娘はその頃から原因でパニック障害で今だに働けず家事、子育ても出来ない状態です。私は46年間年金を払ってきましたが、現在支給額は月6万円です。生活できずに年齢で仕事も断られ、やっと知人の紹介で働いていますが、通勤も仕事も大変で苦勞しています。暴力に耐えきれず仕方なく離婚したのですが、その後亡くなった為に私は遺族年金も受けられず苦しい生活を年老いてからは厳しいです。夫は短気な性格でしたが途中からは、うつ病となり病院にも何件も行きましたが治りませんでした。本人も中々病院に行きたがりませんが、早い対処が大事で、医者に行くことが良いと思います。離婚後、夫はNPO法人に助けられ保護されて落ち着いて日々を過ごしたようです。この時、NPOの存在を知り本当に助かりました。(女性70代)
- 49.幸いにも全く無縁(暴力)の人生でした。しかし、これかの社会は、益々競争社会に向かって弱きものに暴力をふるう恐ろしい社会になるのではと危惧しております。このアンケートがわずかでもお役に立てればと思います。(女性70代)
- 50.外部との接触を禁じられている人、監視されている人は、相談できないのでは?相談したりして外に自分を発信出来ない多くの被害者をどう救うかを考えて欲しい。(女性40代)
- 51.「女性総合センター」という名称は性差別ではないか。男性の私は建物に入ることもできなかった。今でも入ることもしていない。(男性70代)
- 52.幼児虐待、女性へのつきまとい等、弱者への暴力に対して被害者への罰則が軽すぎると思います。そのような犯罪を犯した犯罪者は再犯率が高いと報道で知りました。受けた傷は一生消えません。(男性60代)
- 53.相談にも行けない、支援を受ける方法もわからず、辛い思いをしている人が居るとしたら、何とかして救って欲しい。その人自身が悪者ではないのだから。(女性20代)
- 54.近隣で暴力なのかケンカなどの判断がつきにくい場合、地域のコミュニティがない私のような人間は見えて見ぬふりになっています。行政に告げる制度があるなら、そういったこともアンケートを頂いて学んでおこうと考えました。ありがとうございます。(男性40代)
- 55.設問(12)は「ただちに別れる」のか時間が経過して別れるのかまで詳しくした方がいいと思います。(女性30代)
- 56.アンケートを見ましたけれど私の場合はモラハラということが合っているみたいでした。色々の人が大勢います。悲しいです。(女性70代)
- 57.(1)について①暴力の定義が不明確なので答えづらい。②色々なことを想定すると「場合による」の選択肢も多くのものに当てはまる(男性30代)
- 58.暴力で困っている人を救う事ができる仕組みを考え施行してほしい。男女平等な世の中を作ることが先決だと思う。貧困をなくすこと。(女性60代)

- 59.20 年前に死別しています。元気の時もこのような事は一度もありませんでした。  
(女性 70 代)
- 60.私は、もう一人暮らしになってしまい、いじめられたりすることは有りません。  
(性別無回答／年代無回答)
- 61.以前アトムで「護身術」のようなものを習いましたが、このような講座は万が一の時に役立つような気がして良いことだと思います。また、親子のかかわりに関する講座も必要だと思います。子どもの頃に感じた「愛」は生涯残ると思うので大事に時期だと思います。(女性 30 代)
- 62.警察や行政の担当者レベルの認識がまだまだ低いと思います。手持ちの資金もなく子供もいて、先行きに不安があるため逃げ出さずに耐えている人が、沢山いると思います。取りあえずの逃げ場だけでなく、長期的で総合的な支援を組立てて安心感を抱けると逃げ出す勇気が持てるかもしれません。(女性 40 代)
- 63.役所の対応は他人事のように思えます(担当者によって違うかですが) 以前、妹が暴力を受けていましたが(元夫) 役所の対応では解決の糸口もみつかりませんでした! 暴力をふるう人は親に大切にされた経験が無い人が多いですね(女性 60 代)
- 64.広報たちかわで、このテーマで連載を持ってみたいとはいかがでしょうか。「女性」学とでも言いますか。広報たちかわは情報提供、開示が中心ですが読んでいる人は多いと思いますし、20 歳未満にも見てもらえるよう専門家によるコラムを事例を交え紹介することで啓発していくのも良いのではないのでしょうか。(男性 40 代)
- 65.暴力があったのなら、その時点で別れの行動を起こすべき、世間体、お金、子ども、一人では不安、さびしい、とかいわゆるレベルが低い!! やっぱり、まだ好きかも? 考えている人には税金のムダづかいです。警察沙汰や恐怖により真剣に別れを考えている人を守ってください。(女性 60 代)
- 66.平和な社会にするためには男女間の暴力はあってはならないものだと思います。みんなが落ち着いてそれぞれが平穏な生活を続けいくことが必要だと思います。プライバシーを守って夜間でも対応できる窓口をつくり、被害者をいち早く守って、悲しい方が一人もいない世の中になってほしいです。私も社会の一員として、そう思うし願います。  
(女性 40 代)
- 67.こんな、つまらないアンケートに税金を使わないで下さい。(性別無回答／年代無回答)
- 68.自分は配偶者に恵まれていると思う。暴力の概念が割と広いことをアンケートを通じて学んだ。子どもを育てる上でも気を付けるようにしたい。(女性 40 代)
- 69.公務員の仕事の質が低すぎる。教員の質も悪い。税金から給料が支払われている以上、質の悪い仕事をしている人は生活保護者と同じだ。税金で生活しているのだから、それに見合った成果を出すのが当たり前だと思う。公務に就くのだからその身体は自身のものではないと思って仕事をして貰いたい。「私のためにお前ら税金を納めろ」なんて言う教員を採用するな。助けを求めている人たちをしっかりと助けてあげて欲しい。

(男性30代)

70.自分の母が父(母にとっては夫)と義父母に暴力をうけていた。別居していた時期があった。金銭的にサポートしてもらえれば良かった。辛い子ども時代で自分は結婚に対して後ろ向きとなった。この世から暴力がなくなり、すべての人がのびのび過ごせる世の中になってほしい。教育、環境を整備していく必要があると思う。(女性40代)

71.相談にかかる機関の守秘義務の強化など、事件が起きた際に単純なミスより守られなかったという状況を耳にするが、個人の判断での相談ではなく専門知識者からの教育の必要性を感じる(相談を受ける側)(女性50代)

72.我慢する。忍耐力不足がみられる。自尊感情が低い。自分を大切に出来ない人は他人を大切に出来ない傾向がある。誰かに必要とされている環境が大切。大人の暴力は、その子供の時代の環境に大きく影響されると思い。子ども時代の影響、考え方をどう確保、育成するかが大切。(男性40代)

73.DVで逃げている人の住所を役所が知らせてしまうような事をやっているようでは、どんなセクションを作ってもムダ。法で決められていないことを勇気をもって実行する人の誠が必要。(男性60代)

74.(17)(18)の項目で、市がやるべき事が全てでている。やらないといけない事を把握しているなら市民に問うまでもなくやって欲しい。行政と市民で暴力を無くしたい。(男性30代)

75.加害者→1、早く発見 1、精神医学的治療。 被害者→1、保護する場所の確保 以上が必要だと思います。(女性70代)

76.緊急時、保護してくれる場所が欲しい!理由は、妹の友人が彼にボコボコにされ、病院に行けたのですが何度も家に入り込み、どこかに一時的に保護してもらえ場所がなく困りました。(女性50代)

77.いずれ、ゆとり世代の人々が犠牲者となる日がくるのでしょうか、本当に大丈夫かと不安になります。世の中には強い者と弱い者がいて強い者が弱い者を助けるということを幼い頃に学ばせなかった罪は大きいと思います。ただ、男女間においては、どちらかが強いとはい切れませんが、いずれにせよ、お互いに助けるという気持ちが必要なのではないでしょうか?行政として取り組むべきは、パッチ当てではなく根本的な改善だと思います。(男性40代)

78.困っている人を助けるのは大変です。役所として出来る事も限られているはと思いますが、人助けをするには、時にはルールを破っても私個人は良いと考えます。無責任な発言かもしれませんが、そのくらいの強い意志がないと出来ない事ではないのでしょうか。(男性40代)

79.子どもが通っている中学校では素行が悪い子がいて、今の時代、手をあげられない教師に対し、生徒の方が優位に立つ場合があるようだ。そんな子の親も自分の子供は悪いとは思っていないようだ。(女性50代)

- 80.何がどこ（相談窓口、施設、機関）の場所等、知ることが大切です。解りやすく簡単に一定の場所に設置すること。（女性70代）
- 81.いくら無記名とはいえ、あまりにも突っ込んだアンケートだと思う。今回は協力するが、このようなアンケートはもう少し配慮が必要ではないか？特にこのアンケートの目的も書かれておらず問題があると思う。（男性50代）
- 82.自然の中で生きていくと心が育つと思います。小さい頃から川遊び、里山遊び、恐れも教えると良いです。お月様、お星さまも見るといいですよ。小学校の教育（自然とのふれあい）が大切かな。（男性60代）
- 83.男女間における暴力は勿論、小さな子供への虐待も少なくない。そのことに対し、暴力、虐待した本人の罪があまりにも軽く、また世の中に出てきてしまう。もっと罪を重くするべきだ。小さな命もちろん暴力されている方々、その時は本当に辛い時間だと思うから。少しでもこの数が減るように願っています。悪い方向へ行く前に手を差し延べてあげてください。（男性20代）
- 84.文字通りの男女平等は決してない。差があつてこそその社会ではないだろうか。平等と簡単な言葉で片付けるのではなく、差があることを飲み込んで次のステップの話をするべきだと思う。（男性30代）
- 85.過去、私の結婚、離婚の中で苦勞いたしました。元夫の言葉の暴力に耐え続け病気になるしました。その時の福祉の受けにくい行政を感じてまいりました。どうぞ良い福祉へと改善して下さることを願っております。よろしくお願いします。（女性60代）
- 86.警察がもっと家庭・夫婦の問題だから！！と言わずにきちんと対応すべきです。暴力をうけて顔がアザだらけになっているにもかかわらず、あっさりとあしらわれました。嫌がらせメールも1日に数千回それでもきちんとした対応なし！！これが2～3年前の警察の現状です。被害者は、どこに助けを求めたらよいのか？！24時間対応の相談所、あるいは地域に必ず1つは逃げ込める施設をもうけて欲しい。子どもがいる家庭では、なお更の事！！子供がいるからその家庭から逃げる事ができない。子どもを連れて行ける場所が欲しい。被害者、加害者、男女がどちらになるかは分かりませんが、もっと、暴力には色んな形がある。それを理解し親身になってほしい。特に警察である。一般市民はどうしても警察に行き意見を聞きたいと思う。そんな警察側にいとも簡単にあしらわれたら、どうしたら良いかわからなくなります。無料で出来る弁護士相談も増設してほしい。（女性40代）
- 87.暴力は男性でも女性でも人を肉体的にも精神的にも傷つけた加害者はそれなりの罪を受けて、被害者への謝罪をもっと加害者が背負うべきだと思います。被害者へのフォローを重点に自治体が動いて下されば良いと思います。（女性50代）
- 88.本人の行動は周囲の社会経済状況が反映されていて相互関係があり、一方的な判断は不適切な結果となる。相互関係の中では社会的経済的に相互支援が大切である。相互支援の実施による結果、新しい行動、新しい状況の反映が適切な結果への対応となることを

願いたい。(男性60代)

- 89.独身時代にDVを経験したので結婚相手は優しい人を選びました。ただ何となく物足りないというか刺激のなさを感じます。刺激的な人を求めてDVを繰り返すのは本人も問題があると思います。(女性40代)
- 90.30年以上前に亡くなりましたが、穏やかで優しい人でした。手を挙げられた事や怒鳴られた事はありませんでした。(女性70代)
- 91.子どもの為に、大きくなるまで我慢することにしています。母子家庭はお金が大変と友達に聞いたので母子家庭の方が楽になるような何かを教えて欲しいです。(女性40代)
- 92.母が言葉の暴力を受けてました。父は会社でリストラ要員になり50代で急変しました。しかし母は「私が我慢すれば・・・。」と。父は外では人柄が良かったです。母は無理がたたって60代前半でガンになり亡くなりました。私にはしていませんが注意すると改めてきました。その時だけです。外的証拠がないので相談も出来ないと思います。相談されたとしても、どう対処するか分かりにくいと思います。まずは「明確な基準」を設ける。それも少し低いレベルで。まずは相談してもらうことで印籠を渡す。もし印籠を渡さないのであれば考えられるケースを提示して次の基準を教える。あと手段ですが、相談所ではなく近くの喫茶店などに出向く。相談者は鬱状態に陥っていることもあるので、なるべくアウェーを意識させないところで。経験上、この程度しかわかりませんが参考になれば幸いです。(男性30代)
- 93.場所、相談相手の服や人柄など気軽に話せる雰囲気を作ってほしい。(行政がそういう場所を作るなら) 買い物ついでに食事ついでに行ってみようと思わせてくれると相談しやすいと思う。もちろん人権やプライバシーを守られる事を前提として・・・被害を受けた人はもちろん、加害者側の話も聞く必要があると思う。過去にそういう事してしまった人に「あんな施設があの時あったらなあ」とか「こういう相談できる人がいたらなあ」といった事が聞けると思う。もし行政でそういう対策チームを作るなら、被害が多いであろう女性だけのチームや若い人だけでつくった方がいいと思う。言い方は悪いが、おじさんはチームの責任だけおってればいい。(男性30代)
- 94.このようになかなり立入った内容のアンケートにもかかわらず依頼文や、アンケートの目的についての説明などが一切ないというのが信じられません。(男性30代)
- 95.中学校、高校と先輩というものの上下関係が出てくる頃から暴力が増えている気がする。不良マンガなどに憧れてしまう人もいるので、そのようなものは見せるべきではない。例え〇禁としても読んでいる人はたくさんいる。安易な気持ちでいじめをする人もいるので罪の重さを分からせるべき。(男性20代)
- 96.最近女性→男性の暴力が増えていると聞きます。こちらのパターンは先入観から見逃しがちになります。男性も訴えやすい環境が必要な時代になったのでしょうか。(男性20代)
- 97.教育が最も大切と考えます。被害者であることが認識出来れば相談も早期に可能だと思

います。(男性60代)

98.胸や尻をさわられても、嫌な相手ならセクハラになり、好きな人なら嬉しく訴えたりしない。暴力とセクハラの境目は難しい。恋人がいない歴の長い気弱な男性よ、別れを恐れずもっと積極的になれ。(男性60代)

99.各家庭によくある水のトラブルとかマグネットタイプの宣伝？を配布するとか→まずは、ここに電話みたい。市役所の冊子とか広報に載っているのでしょうけど、見ないで、そのままの人もいて気が付かないで悩んでいる人がいるのでは。(女性40代)

100.現在の配偶者に暴力をうけている人の中で「自分は暴力を受けている」と素直に言える人がどれだけいるのでしょうか？もし自分が暴力を受けていたら本当の事を言うのが怖いのでアンケートをすぐゴミ箱に捨ててしまうと思います。過去の事はいくらでも言えますが。アンケートの前半は、どれだけ正確な情報が集まるのか？と疑問に思いました。(女性40代)

101.このようなアンケートは大切だと思います。私は特に何もないですけど暴力をふるわれていると自覚できるよい事だと思います。後はもっと精神的な暴力の部分の事もきいて欲しいです。(女性30代)

102.子どものために夫の暴力を我慢している。お母さんを救ってあげて欲しい。性行為の強要は力づくであれば暴力に当たると思いますが、相手への思いやりを示しながら求めてくる場合は必ずしも暴力ではないので「場合による」を選びました。しかし精神的には苦痛です。(女性50代)

103.暴力のなくなる日が来ると、皆、気持ちよく生活できると思う。(男性40代)

104.私は親の立場から娘が困っている時やトラブルを抱えないように、親は普段から異性のお付き合いについては、どこまで話せばよいのか？どういうことについて話したらよいのか？について迷います。親がどのように子どもたちに教えてあげれば暴力を受けるといった事を経験せず、また加害者とならないのか？について情報を提供して欲しいと思います。(女性30代)

105.女性の社会進出と叫ばれているが、社会で活躍する事ももちろん大事な事ではあるが、家庭で子どもをキッチリ育てる事もとても大切な事であると思う。母親がお金のために働きに出て子どもを見られない様な現状を打破し、家庭環境、家庭教育、地域教育を充実させていく事は大事だと切に思います。(女性40代)

106.今回は男女間の暴力が対象で良い取組だと思いますが、家庭内外における児童に対する意識調査をお願いいたします。(男性50代)

107.老若男女問わず市営の施設に片仮名をネーミングにした我国の文化を公的立場で破壊するような行政は信頼感に欠けます。今回の補欠市議選の候補者など時間さえ守れば文句はないだろうという感じの音の暴力を見逃しているのはおかしい。学校長が変わると放送音量が変わるのも市役所は見逃している音の暴力である。「暴力」について男女間の事が質問されていますが、「人」として「人格」を認める考えの薄い人はあらゆる場面で



「それば暴力なのだ」とは気づかない。教育の場面に求める間もあつたが「親」が「要」であるでしょう。最近では女性の暴力に耐えられない弱い男が当たり前のようにテレビ番組に出ているのも注意すべきでしょう。(男性70代)

108.24時間365日どこかで必ずおきていること。それを、休んでしまったら被害者の人はどこに相談すればよいのかな。平日に仕事をしていたら相談する日は土、日、休日しかない。臨機応変に窓口をふやしても、この時代のニーズに合わせて行政は動いて欲しいな。今一度考えてみてください。よろしくお願いします。(女性40代)

109.私自身が若い頃DVを受けていたかもしれません。周囲はDVといっても私自身がそのような認識はしていません。不思議なもので加害者と被害者になる男女が惹かれあってしまう‘縁’みたいなものもあるのかもしれません。苦痛を感じるかどうか‘被害者’になるかが決まるような気がします。行政等関係機関も介入しづらい課題です。双方のメンタル面に問題があり、この男女が関係機関の介入で、暴力のない関係で男女の付き合い、結婚生活を続けることは難しいと思うのですが。被害者は100回殴られても1回の(加害者)の笑顔や暖かさで痛みを忘れるし殴られる自分が悪いと思う気持ちを変えられるのはまず難しいです。ただ生命の危機にあつたり、毎日暴力に怯えて暮らしている方は相談に行くことも何かあつたらと思うと怖くて相談出来ないし、暴力を受けていると言つてはいけなと考へてしまふと思ひます。SOSを出したくても出せない人をどう掘り起こしていくか、すごくデリケートな支援だと思ひます。(女性40代)

110.正直、嫌なことを思い出させられました。最終的には目が覚め、別れようとしたが、ここからがひどかった。モラハラ→脅迫→リベンジポルノ→ここまできてやつと親と弁護士に相談。そうしてしまう相手の人格も耐えてしまう自分の人格も家庭などの人間関係で形成される部分が大きいと思う。いいこともあつたし恋愛は自己責任と思つていた。その後は自分の性格も改善したので安心出来る家族を持つことが出来たが、SNSなどは怖くて出来ない。今の自分にたどり着かれては困るから。ひっそりと生きている感じ。これからの若い人にはそうなつてほしくない。恋愛は恐れず、でも自分も大切に。アレ？と思つたら上手に別れて欲しい。(女性40代)

111.親が子供をしつけるときの「愛のムチ」も暴力になるのであるろうか。そもそも暴力の定義付けが難しいと思う。相談窓口を増やすことは結構だが、ただ単に数を増やしただけでは被害者はどこの窓口に行けばよいのかが逆に分からなくなってしまうのではないか。家庭内暴力、男女暴力は世代間で伝わつてゆく。親となる人、なつた人の教育が、次の世代へ伝わらせないために重要である。(男性40代)

112.私が困つていたころは、相談するようなセンターなどはなかつた。(女性70代)

113.おかげさまで、今のところ自分の周りにはたぶん暴力に関係する人がいない。  
(女性50代)

114.立川のBarで知り合つた女性が、ある日、顔に傷を負つていました。話を聞くと交際相手の男性の監視が厳しく、別れ話を切り出したら顔に傷を負わされた。どこかに相

談したらと言いましたが面倒なこと（大ごと）にしたくないと。こういった DV 問題は身近にあるんだな。プロの「別れさせ屋」みたいなものがいたら良いなと思いました。

（男性 30 代）

115. 勇気をもって暴力（加害者）から逃れるように弁護士費用を安くして警察と弁護士さんとのダブルで加害者への交渉をしていただき一日も早く被害者を解放してあげて欲しいです。（女性 60 代）

116. 少し前に立川市に越してきた者です。このような、かなり研究された内容のアンケートに感心してしまいました。私は幸運なことに暴力を受けずに過ごしてきましたが、行政として必要な支援だと思いますので、今後とも宜しく願いいたします。立川市民になって良かったです。（女性 30 代）

117. 最初の（1）の問いについてですが、これはすべて暴力という言葉で片付けていいものでしょうか。犯罪ではないですか。これを暴力でかたづけている内は、何も変えられないと思います。（女性 20 代）

118. 現代の方々（女性）は働くことばかりに専念したいと、親が子どもに道徳を教えていない為に身勝手、我儘に育て上げ、何が良いか悪いのか判断がつかず常識が理解できず、大人になって「あばれ」、相手を思いやる事が出来ず、いたわる事が出来ず、暴力に走り、イジメる事をしてうっ憤を晴らしている。かわいそうな人間ですね。社会にはそんな人ばかりおりませんが、子どもの頃に親がしっかり教えておりましたら、暴れる人間には成長しませんでしたでしょうに。人には迷惑をかけてはいけない、人の物を取ってはいけない、悪いことをしてはいけない、と私たちの時代は教育していただきました。

（女性 70 代）

119. 今まで問われているような事はまったくないためよくわかりません。（テレビで見るくらいです）でも、こういう事をされている人は、自分では生きにくいのではないのでしょうか？大変なことになる前に未然な解決を希望します。（女性 50 代）

# 立川市男女間における暴力に関する調査

(平成27年度調査)

この調査に記入された内容については、統計以外の目的に使ったり、他にもらしたりすることはありませんので、ありのままを記入してください。

## ご記入にあたって

1. 封筒のあて名の方ご本人がお答えください。ご家族の方などが、代わりにご記入なさらないようにお願いします。
2. 調査は無記名方式で行い、回答結果は全て統計的に処理し、他の目的には一切使用しません。
3. ご記入いただいたこの調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、8月31日（月）までにポストに投函してください。  
(切手の貼付や差出人の記入は不要です。)

## 調査対象者について

平成27年7月13日現在、市内にお住いの20歳以上の方の中から、  
2,000人を無作為に抽出してお願いしています。

その後、転居など異動されている場合は、ご本人のお手元に届きましたら、  
ご回答をお願いいたします。



(お問い合わせ先)

立川市総合政策部男女平等参画課

〒190-0012 立川市曙町2-36-2

立川市女性総合センター・アイム5F

電話 042-528-6801

FAX 042-528-6805



## 立川市男女間における暴力に関する調査

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

○ : 空白マーク



: 正しいぬりつぶし



: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したりしないように注意してください。また、ご記入は黒または青のボールペン・サインペンか、HB以上の濃さの黒鉛筆をお願いします。

### すべての方にお聞きします。

- (1) あなたは、1～14ようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。 ※「夫婦」には、事実婚(婚姻届を出していない婚姻関係)や別居中の夫婦も含みます。以下、同様。(各項目、1つを選択)

|    |                                | 選択肢       |       |             |
|----|--------------------------------|-----------|-------|-------------|
|    |                                | 暴力にあたると思う | 場合による | 暴力にあたらないと思う |
| 1  | 平手で打つ                          | ○         | ○     | ○           |
| 2  | 足でける                           | ○         | ○     | ○           |
| 3  | 身体を傷つける可能性のある物でなぐる             | ○         | ○     | ○           |
| 4  | なぐるふりをして、おどす                   | ○         | ○     | ○           |
| 5  | 刃物などを突きつけて、おどす                 | ○         | ○     | ○           |
| 6  | いやがっているのに性的な行為を強要する            | ○         | ○     | ○           |
| 7  | 何を言っても長期間無視し続ける                | ○         | ○     | ○           |
| 8  | 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する      | ○         | ○     | ○           |
| 9  | 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」と言う | ○         | ○     | ○           |
| 10 | 大声でどなる                         | ○         | ○     | ○           |
| 11 | 家計に必要な生活費を渡さない                 | ○         | ○     | ○           |
| 12 | 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する         | ○         | ○     | ○           |
| 13 | 家族や友人との関わりを持たせない               | ○         | ○     | ○           |
| 14 | 避妊に協力しない                       | ○         | ○     | ○           |

- (2) あなたは、現在、結婚していますか。(1つを選択) ※ここでの「結婚」には、事実婚や別居中の夫婦も含みます。

○ 未婚(結婚したことはない) → (9) へお進みください

○ 既婚(現在、夫又は妻がいる)

○ 離別(結婚していたが、離婚した)

○ 死別(結婚していたが、死別した)



これまでに結婚したことのある方にお聞きします。

(3) あなたはこの2年の間に、あなたの配偶者から1～4のようなことをされたことがありますか。(項目ごとに1つを選択) ※ここでの「配偶者」には、事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含みます。以下、同様。

|   |                                                                                                       | 選択肢                   |                       |                       |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|   |                                                                                                       | 1、2度あった               | 何度もあった                | まったくない                |
| 1 | なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた<br>(身体的暴行)                                               | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 | 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた<br>(心理的攻撃) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 | いやがっているのに性的な行為を強要された<br>(性的強要)                                                                        | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4 | 生活費を渡さない、貯金を勝手に使われたり、外で働くことを妨害された(経済的圧迫)                                                              | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(4)～(8)は(3)で1～4のうち1つでも「1、2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。1～4のすべてが「まったくない」という方は(9)にお進みください。

(4) あなたは、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)

- ☐ 友人・知人
- ☐ 家族や親戚
- ☐ 医療関係者(医師・看護師など)
- ☐ 法務局、人権擁護委員など人権相談窓口
- ☐ 警察
- ☐ 東京都庁
- ☐ 東京都女性相談センターや東京ウィメンズプラザなどの配偶者暴力相談支援センター
- ☐ 市役所(生活福祉課・市民相談など)
- ☐ 立川市女性総合センター・アイム
- ☐ 民生委員・児童委員
- ☐ 民間の専門家(弁護士、カウンセラー、NPO、民間シェルターなど)
- ☐ 学校関係者
- ☐ どこ(だれ)にも相談しなかった
- ☐ その他( )



(4)で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

(5) どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（複数回答可）

- ☐ どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- ☐ 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- ☐ 相談してもむだだと思ったから
- ☐ 相談したことがわかったと、相手の仕返しが怖かったから（ひどい暴力や性的な画像のばらまきなど）
- ☐ 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- ☐ 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- ☐ 世間体が悪いから
- ☐ 他人を巻き込みたくなかったから
- ☐ 他人に知られると、今まで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- ☐ そのことについて思い出したくなかったから
- ☐ 自分にも悪いところがあると思ったから
- ☐ 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- ☐ 相談するほどのことではないと思ったから
- ☐ 自分が受けている行為がDVと認識していなかったから
- ☐ その他（ ）

(6) あなたは、あなたの配偶者からそのような行為を最初に受けたころ、どうしましたか。（1つを選択）

- ☐ 相手と別れた →(8)へお進みください
- ☐ 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった
- ☐ 別れたい（別れよう）とは思わなかった →(8)へお進みください

(6)で「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

(7) あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。（1つを選択）

- ☐ 相手の反応が怖かったから
- ☐ 経済的な不安があったから
- ☐ 世間体を気にしたから
- ☐ 相手には自分が必要だと思ったから
- ☐ これ以上は繰り返されないとと思ったから
- ☐ 周囲の人から、別れることに反対されたから
- ☐ 相手が別れることに同意しなかったから
- ☐ 子どもがいるから、子どものことを考えたから
- ☐ 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
- ☐ その他（ ）

(8) あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。（1つを選択）

- ☐ 感じた
- ☐ 感じなかった



## すべての方にお聞きします

(9) あなたは、これまでに、交際相手がいましたか。現在、結婚している方については、結婚前についてお答えください。なお、ここでいう「交際相手」には、事実婚は含みません。（1つを選択）

- ☐ 交際相手がいた（いる）
- ☐ 交際相手はいなかった→(16)へお進みください

## (9)で「交際相手がいた（いる）」と答えた方にお聞きします

(10) あなたは、交際相手から1～4のようなことをされたことがありますか。（複数回答可）

|   |                                                                                            | 選択肢                   |                       |                       |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|   |                                                                                            | 10～20歳代にあった           | 30歳代以上にあった            | まったくない                |
| 1 | なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた                                               | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 | 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 | いやがっているのに性的な行為を強要された                                                                       | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4 | アルバイト代や貯金を勝手に使われる、デート代を無理やり払わされる                                                           | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(11) (10)の交際相手と同居（同棲）経験がある方で、同居の際に交際相手から1～4のようなことをされたことがありますか。（複数回答可）

|   |                                                                                            | 選択肢                   |                       |                       |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|   |                                                                                            | 10～20歳代にあった           | 30歳代以上にあった            | まったくない                |
| 1 | なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた                                               | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 | 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 | いやがっているのに性的な行為を強要された                                                                       | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4 | アルバイト代や貯金を勝手に使われる、デート代を無理やり払わされる                                                           | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

(12)～(15)は、(10)の1～4のうち1つでも、「10～20歳代にあった」「30歳代以上にあった」と答えた方にお聞きします。1～4のすべてが、「まったくない」という方は(17)にお進みください。

(12) あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。（1つを選択）

- ☐ 相手と別れた →(17)にお進みください
- ☐ 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった
- ☐ 別れたい（別れよう）とは思わなかった →(17)にお進みください



(12)で「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

(13)あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。（1つを選択）

- ☐ 相手の反応が怖かったから
- ☐ 経済的な不安があったから
- ☐ 世間体を気にしたから
- ☐ 相手には自分が必要だと思ったから
- ☐ これ以上は繰り返されないとと思ったから
- ☐ 周囲の人から、別れることに反対されたから
- ☐ 相手が別れることに同意しなかったから
- ☐ 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
- ☐ その他（ ）

(14)あなたは、交際相手から受けた1～4の行為によって、生活上の変化がありましたか。（複数回答可）

- ☐ 学校・大学をやめた・変えた・休んだ
- ☐ 仕事（アルバイト含む）をやめた・変えた・休んだ
- ☐ 転居（引越し）をした
- ☐ 異性と会うのが怖くなった
- ☐ 外出するのが怖くなった
- ☐ 夜眠れなくなった
- ☐ 心身に不調をきたした
- ☐ 特にない
- ☐ その他（ ）

(15)あなたは、交際相手から受けた1～4の行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（複数回答可）

- ☐ 友人・知人
- ☐ 家族や親戚
- ☐ 医療関係者（医師・看護師など）
- ☐ 法務局、人権擁護委員など人権相談窓口
- ☐ 警察
- ☐ 東京都庁
- ☐ 東京都女性相談センターや東京ウィメンズプラザなどの配偶者暴力相談支援センター
- ☐ 市役所（生活福祉課・市民相談など）
- ☐ 立川市女性総合センター・アイム
- ☐ 民生委員・児童委員
- ☐ 民間の専門家（弁護士、カウンセラー、NPO、民間シェルターなど）
- ☐ 学校関係者
- ☐ どこ（だれ）にも相談しなかった
- ☐ その他（ ）





(15)で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

(16)どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（複数回答可）

- ☐ どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- ☐ 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- ☐ 相談してもむだだと思ったから
- ☐ 相談したことがわかると、相手の仕返しが怖かったから（ひどい暴力や性的な画像のばらまきなど）
- ☐ 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- ☐ 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- ☐ 世間体が悪いから
- ☐ 他人を巻き込みたくなかったから
- ☐ 他人に知られると、今まで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- ☐ そのことについて思い出したくなかったから
- ☐ 自分にも悪いところがあったと思ったから
- ☐ 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- ☐ 相談するほどのことではないと思ったから
- ☐ 自分が受けている行為が暴力と認識していなかったから
- ☐ その他（ ）

すべての方にお聞きします。

(17)男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。（複数回答可）

- ☐ 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
- ☐ 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
- ☐ 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- ☐ メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- ☐ 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- ☐ 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
- ☐ 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
- ☐ 加害者への罰則を強化する
- ☐ 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる
- ☐ 特にない
- ☐ その他（ ）



(18)被害者が相談しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)

- ☐ 相談窓口を増やす
- ☐ 安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする
- ☐ 相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする
- ☐ バリアフリーや、手話、外国語による相談など様々な相談環境を整備する
- ☐ 法律や医療の専門相談を受けられるようにする
- ☐ 夜間・休日などの緊急対応を充実させる
- ☐ 相談窓口や自治体などが連携し、支援を受けるための様々な手続きを一括で行えるようにする
- ☐ 被害者や子どもを保護してくれる施設を増やす
- ☐ 特に対策の必要はない
- ☐ わからない
- ☐ その他 ( )

(19)あなたは、立川市女性総合センター・アイムでカウンセリング相談を行っているのを知っていますか(1つを選択)

- ☐ 知っている
- ☐ 知らない

最後に、あなたご自身のことについてお聞きします。

(20)あなたの性別(1つを選択)

- ☐ 男
- ☐ 女

(21)あなたの年齢はおいくつですか。(1つを選択)

- ☐ 20代
- ☐ 30代
- ☐ 40代
- ☐ 50代
- ☐ 60代
- ☐ 70歳以上

(22)あなたの職業は次のどれにあたりますか。(1つを選択)

- ☐ 勤め人(常勤)
- ☐ 勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)
- ☐ 自営業(事業の経営者・家業の手伝い・内職など)
- ☐ 学生
- ☐ 専業主婦(夫)
- ☐ 無職
- ☐ その他の仕事 ( )



(23) 【ご意見欄】 その他ご意見がありましたら、ご記入ください

ご協力ありがとうございました。

アンケートへの記入が終わりましたら、同封の返信用封筒にて立川市総合政策部男女平等参画課あてにご返送くださいますようお願いいたします。 なお、アンケート結果は、個人情報などを含まない形で統計的に処理し、報告書としてまとめるほか、「広報たちかわ」やホームページなどで、報告させていただく予定です

「男女間における暴力に関する調査」集計表(単純集計)

すべての方にお聞きします。

(1) あなたは、1～14ようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。  
あなたの考えに近いものをお答えください。  
※「夫婦」には、事実婚(婚姻届を出していない婚姻関係)や別居中の夫婦も含みます。以下、同様。  
(各項目、1つを選択)

1 平手で打つ

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 531 | 75.1%  |
| (2) 場合による       | 150 | 21.2%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 13  | 1.8%   |
| 無回答             | 13  | 1.8%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

2 足でける

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 628 | 88.8%  |
| (2) 場合による       | 51  | 7.2%   |
| (3) 暴力にあたると思わない | 13  | 1.8%   |
| 無回答             | 15  | 2.1%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

3 身体を傷つける可能性のある物でなぐる

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 671 | 94.9%  |
| (2) 場合による       | 7   | 1.0%   |
| (3) 暴力にあたると思わない | 14  | 2.0%   |
| 無回答             | 15  | 2.1%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

4 なぐるふりをして、おどす

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 457 | 64.6%  |
| (2) 場合による       | 195 | 27.6%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 40  | 5.7%   |
| 無回答             | 15  | 2.1%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

5 刃物などを突きつけて、おどす

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 668 | 94.5%  |
| (2) 場合による       | 10  | 1.4%   |
| (3) 暴力にあたると思わない | 14  | 2.0%   |
| 無回答             | 15  | 2.1%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

6 いやがっているのに性的な行為を強要する

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 554 | 78.4%  |
| (2) 場合による       | 112 | 15.8%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 26  | 3.7%   |
| 無回答             | 15  | 2.1%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

7何を言っても長期間無視し続ける

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 368 | 52.1%  |
| (2) 場合による       | 262 | 37.1%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 63  | 8.9%   |
| 無回答             | 14  | 2.0%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

8交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 346 | 48.9%  |
| (2) 場合による       | 258 | 36.5%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 85  | 12.0%  |
| 無回答             | 18  | 2.5%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

9「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 441 | 62.4%  |
| (2) 場合による       | 192 | 27.2%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 59  | 8.3%   |
| 無回答             | 15  | 2.1%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

10大声でどなる

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 360 | 50.9%  |
| (2) 場合による       | 280 | 39.6%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 52  | 7.4%   |
| 無回答             | 15  | 2.1%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

11家計に必要な生活費を渡さない

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 444 | 62.8%  |
| (2) 場合による       | 169 | 23.9%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 77  | 10.9%  |
| 無回答             | 17  | 2.4%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

12職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 525 | 74.3%  |
| (2) 場合による       | 121 | 17.1%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 41  | 5.8%   |
| 無回答             | 20  | 2.8%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

13家族や友人との関わりを持たせない

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 490 | 69.3%  |
| (2) 場合による       | 136 | 19.2%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 63  | 8.9%   |
| 無回答             | 18  | 2.5%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

14 避妊に協力しない

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 暴力にあたると思う   | 468 | 66.2%  |
| (2) 場合による       | 155 | 21.9%  |
| (3) 暴力にあたると思わない | 64  | 9.1%   |
| 無回答             | 20  | 2.8%   |
| 計               | 707 | 100.0% |

(2) あなたは、現在、結婚していますか。

|                      | 回答数 | 構成比    |
|----------------------|-----|--------|
| (1) 未婚(結婚したことはない)    | 96  | 13.6%  |
| (2) 既婚(現在、夫又は妻がいる)   | 505 | 71.4%  |
| (3) 離別(結婚したが、離別した)   | 46  | 6.5%   |
| (4) 死別(結婚していたが、死別した) | 49  | 6.9%   |
| 無回答                  | 11  | 1.6%   |
| 計                    | 707 | 100.0% |

これまで結婚したことのある方にお聞きます。

(3) あなたはこの2年の間に、あなたの配偶者から1～4ことをされたことがありますか。(項目ごとに1つを選択)

1 ながったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた(身体的暴行)

|             | 回答数 | 構成比    |
|-------------|-----|--------|
| (1) 1,2度あった | 40  | 6.7%   |
| (2) 何度もあった  | 15  | 2.5%   |
| (3) まったくない  | 521 | 86.8%  |
| 無回答         | 24  | 4.0%   |
| 計           | 600 | 100.0% |

2 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた(心理的攻撃)

|             | 回答数 | 構成比    |
|-------------|-----|--------|
| (1) 1,2度あった | 35  | 5.8%   |
| (2) 何度もあった  | 24  | 4.0%   |
| (3) まったくない  | 518 | 86.3%  |
| 無回答         | 23  | 3.8%   |
| 計           | 600 | 100.0% |

3 いやがっているのに性的な行為を強要された(性的強要)

|             | 回答数 | 構成比    |
|-------------|-----|--------|
| (1) 1,2度あった | 26  | 4.3%   |
| (2) 何度もあった  | 12  | 2.0%   |
| (3) まったくない  | 538 | 89.7%  |
| 無回答         | 24  | 4.0%   |
| 計           | 600 | 100.0% |

4 生活費を渡さない、貯金を勝手に使われたり、外で働くことを妨害された(経済的圧迫)

|             | 回答数 | 構成比    |
|-------------|-----|--------|
| (1) 1,2度あった | 15  | 2.5%   |
| (2) 何度もあった  | 13  | 2.2%   |
| (3) まったくない  | 548 | 91.3%  |
| 無回答         | 24  | 4.0%   |
| 計           | 600 | 100.0% |

(3)で1～4のうち1つでも「1、2度あった」「何度もあった」と回答した方にお聞きします。

(4)あなたは、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)

|                                            | 回答数 | 構成比    |
|--------------------------------------------|-----|--------|
| (1) 友人・知人                                  | 33  | 35.1%  |
| (2) 家族や親戚                                  | 33  | 35.1%  |
| (3) 医療関係者(医師・看護師など)                        | 4   | 4.3%   |
| (4) 法務局、人権擁護委員など人権相談窓口                     | 0   | 0.0%   |
| (5) 警察                                     | 4   | 4.3%   |
| (6) 東京都庁                                   | 0   | 0.0%   |
| (7) 東京都女性相談センターや東京ウィメンズプラザなどの配偶者暴力相談支援センター | 3   | 3.2%   |
| (8) 市役所(生活福祉課・市民相談など)                      | 3   | 3.2%   |
| (9) 立川市女性総合センター・アィム                        | 1   | 1.1%   |
| (10) 民生委員・児童委員                             | 1   | 1.1%   |
| (11) 民間の専門家(弁護士、カウンセラー、NPO、民間シェルターなど)      | 2   | 2.1%   |
| (12) 学校関係者                                 | 0   | 0.0%   |
| (13) どこ(だれ)にも相談しなかった                       | 37  | 39.4%  |
| (14) その他                                   | 4   | 4.3%   |
| 無回答                                        | 6   | 6.4%   |
| 計                                          | 131 | 139.6% |

(4)で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

(5)どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(複数回答可)

|                                                        | 回答数 | 構成比    |
|--------------------------------------------------------|-----|--------|
| (1) どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから                           | 0   | 0.0%   |
| (2) 恥ずかしくてだれにも言えなかったから                                 | 2   | 5.4%   |
| (3) 相談してもむだだと思ったから                                     | 12  | 32.4%  |
| (4) 相談したことがわかると、相手の仕返しが怖かったから<br>(ひどい暴力や性的な画像のばらまきなど)  | 0   | 0.0%   |
| (5) 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから                       | 2   | 5.4%   |
| (6) 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから                    | 13  | 35.1%  |
| (7) 世間体が悪いから                                           | 2   | 5.4%   |
| (8) 他人を巻き込みたくなかったから                                    | 4   | 10.8%  |
| (9) 他人に知られると、今まで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)がで<br>きなくなると思ったから | 0   | 0.0%   |
| (10) そのことについて思い出したくなかったから                              | 2   | 5.4%   |
| (11) 自分にも悪いところがあると思ったから                                | 8   | 21.6%  |
| (12) 相手の行為は愛情の表現だと思ったから                                | 2   | 5.4%   |
| (13) 相談するほどのことではないと思ったから                               | 16  | 43.2%  |
| (14) 自分が受けている行為がDVと認識していなかったから                         | 4   | 10.8%  |
| (15) その他                                               | 4   | 10.8%  |
| 無回答                                                    | 1   | 2.7%   |
| 計                                                      | 72  | 194.4% |

(6) あなたは、あなたの配偶者からそのような行為を最初に受けたころ、どうしましたか。(1つを選択)

|                            | 回答数 | 構成比    |
|----------------------------|-----|--------|
| (1) 相手と別れた                 | 12  | 12.8%  |
| (2) 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった | 38  | 40.4%  |
| (3) 別れたい(別れよう)とは思わなかった     | 31  | 33.0%  |
| 無回答                        | 13  | 13.8%  |
| 計                          | 94  | 100.0% |

(6)で「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きます。

(7)あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(1つを選択)

|      |                        | 回答数 | 構成比    |
|------|------------------------|-----|--------|
| (1)  | 相手の反応が怖かったから           | 1   | 2.6%   |
| (2)  | 経済的な不安があったから           | 8   | 21.1%  |
| (3)  | 世間体を気にしたから             | 2   | 5.3%   |
| (4)  | 相手には自分が必要だと思ったから       | 1   | 2.6%   |
| (5)  | これ以上は繰り返されないと考えたから     | 0   | 0.0%   |
| (6)  | 周囲の人から、別れることに反対されたから   | 0   | 0.0%   |
| (7)  | 相手が別れることに同意しなかったから     | 2   | 5.3%   |
| (8)  | 子どもがいるから、子どものことを考えたから  | 18  | 47.4%  |
| (9)  | 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから | 5   | 13.2%  |
| (10) | その他                    | 1   | 2.6%   |
|      | 無回答                    | 0   | 0.0%   |
|      | 計                      | 38  | 100.0% |

(8) あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(1つを選択)

|     |        | 回答数 | 構成比    |
|-----|--------|-----|--------|
| (1) | 感じた    | 19  | 20.2%  |
| (2) | 感じなかった | 57  | 60.6%  |
|     | 無回答    | 18  | 19.1%  |
|     | 計      | 94  | 100.0% |

すべての方にお聞きます

(9) あなたは、これまでに、交際相手がいきましたか。現在、結婚している方については、結婚前についてお答えください。なお、ここでいう「交際相手」には、事実婚は含みません。(1つを選択)

|     |              | 回答数 | 構成比    |
|-----|--------------|-----|--------|
| (1) | 交際相手がいいた(いる) | 449 | 63.5%  |
| (2) | 交際相手はいなかった   | 192 | 27.2%  |
|     | 無回答          | 66  | 9.3%   |
|     | 計            | 707 | 100.0% |

(9)で「交際相手がいいた(いる)」と答えた方にお聞きます。

(10) あなたは、交際相手から1～4のようなことをされたことがありますか。(複数回答可)

1 ながったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

|     |             | 回答数 | 構成比    |
|-----|-------------|-----|--------|
| (1) | 10～20歳代にあった | 37  | 8.2%   |
| (2) | 30歳代以上にあった  | 12  | 2.7%   |
| (3) | まったくない      | 399 | 88.9%  |
|     | 無回答         | 5   | 1.1%   |
|     | 計           | 453 | 100.9% |



2人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 10～20歳代にあった | 37  | 8.2%   |
| (2) 30歳代以上にあった  | 23  | 5.1%   |
| (3) まったくない      | 392 | 87.3%  |
| 無回答             | 2   | 0.4%   |
| 計               | 454 | 101.0% |

3 いやがっているのに性的な行為を強要された

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 10～20歳代にあった | 25  | 5.6%   |
| (2) 30歳代以上にあった  | 15  | 3.3%   |
| (3) まったくない      | 405 | 90.2%  |
| 無回答             | 5   | 1.1%   |
| 計               | 450 | 100.2% |

4 アルバイト代や貯金を勝手に使われる、デート代を無理やり払われる

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 10～20歳代にあった | 19  | 4.2%   |
| (2) 30歳代以上にあった  | 12  | 2.7%   |
| (3) まったくない      | 416 | 92.7%  |
| 無回答             | 5   | 1.1%   |
| 計               | 452 | 100.7% |

(11) (10)の交際相手と同居(同棲)経験がある方で、同居の際に交際相手から1～4のようなことをされたことがありますか。(複数回答可)

1 なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 10～20歳代にあった | 18  | 10.0%  |
| (2) 30歳代以上にあった  | 10  | 5.6%   |
| (3) まったくない      | 153 | 85.0%  |
| 無回答             | 1   | 0.6%   |
| 計               | 182 | 101.2% |

2 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 10～20歳代にあった | 16  | 8.9%   |
| (2) 30歳代以上にあった  | 14  | 7.8%   |
| (3) まったくない      | 153 | 85.0%  |
| 無回答             | 0   | 0.0%   |
| 計               | 183 | 101.7% |

3 いやがっているのに性的な行為を強要された

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 10～20歳代にあった | 15  | 8.3%   |
| (2) 30歳代以上にあった  | 10  | 5.6%   |
| (3) まったくない      | 153 | 85.0%  |
| 無回答             | 2   | 1.1%   |
| 計               | 180 | 100.0% |

4アルバイト代や貯金を勝手に使われる、デート代を無理やり払わされる

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 10～20歳代にあった | 10  | 5.6%   |
| (2) 30歳代以上にあった  | 8   | 4.4%   |
| (3) まったくない      | 162 | 90.0%  |
| 無回答             | 1   | 0.6%   |
| 計               | 181 | 100.6% |

(12)～(15)は、(10)の1～4のうち1つでも、「10～20歳代にあった」「30歳代以上にあった」と答えた方にお聞きします。

(12) あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。(1つを選択)

|                            | 回答数 | 構成比    |
|----------------------------|-----|--------|
| (1) 相手と別れた                 | 49  | 55.1%  |
| (2) 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった | 16  | 18.0%  |
| (3) 別れたい(別れよう)とは思わなかった     | 17  | 19.1%  |
| 無回答                        | 7   | 7.9%   |
| 計                          | 89  | 100.0% |

(12)で「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。

(13) あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(1つを選択)

|                            | 回答数 | 構成比    |
|----------------------------|-----|--------|
| (1) 相手の反応が怖かったから           | 3   | 18.8%  |
| (2) 経済的な不安があったから           | 1   | 6.3%   |
| (3) 世間体を気にしたから             | 0   | 0.0%   |
| (4) 相手には自分が必要だと思ったから       | 2   | 12.5%  |
| (5) これ以上は繰り返されなかったから       | 1   | 6.3%   |
| (6) 周囲の人から、別れることに反対されたから   | 0   | 0.0%   |
| (7) 相手が別れることに同意しなかったから     | 3   | 18.8%  |
| (8) 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから | 3   | 18.8%  |
| (9) その他                    | 2   | 12.5%  |
| 無回答                        | 1   | 6.3%   |
| 計                          | 16  | 100.3% |

(14) あなたは、交際相手から受けた1～4の行為によって、生活上の変化がありましたか。(複数回答可)

|                             | 回答数 | 構成比    |
|-----------------------------|-----|--------|
| (1) 学校・大学をやめた・変えた・休んだ       | 1   | 1.1%   |
| (2) 仕事(アルバイト含む)をやめた・変えた・休んだ | 5   | 5.6%   |
| (3) 転居(引越し)をした              | 2   | 2.2%   |
| (4) 異性と会うのが怖くなった            | 0   | 0.0%   |
| (5) 外出するのが怖くなった             | 1   | 1.1%   |
| (6) 夜眠れなくなった                | 5   | 5.6%   |
| (7) 心身に不調をきたした              | 13  | 14.6%  |
| (8) 特にない                    | 8   | 9.0%   |
| (9) その他                     | 2   | 2.2%   |
| 無回答                         | 66  | 74.2%  |
| 計                           | 103 | 115.6% |

(15) あなたは、交際相手から受けた1～4の行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答可)

|                                            | 回答数 | 構成比    |
|--------------------------------------------|-----|--------|
| (1) 友人・知人                                  | 13  | 14.6%  |
| (2) 家族や親戚                                  | 4   | 4.5%   |
| (3) 医療関係者(医師・看護師など)                        | 1   | 1.1%   |
| (4) 法務局、人権擁護委員など人権相談窓口                     | 0   | 0.0%   |
| (5) 警察                                     | 1   | 1.1%   |
| (6) 東京都庁                                   | 0   | 0.0%   |
| (7) 東京都女性相談センターや東京ウィメンズプラザなどの配偶者暴力相談支援センター | 0   | 0.0%   |
| (8) 市役所(生活福祉課・市民相談など)                      | 1   | 1.1%   |
| (9) 立川市女性総合センター・アトム                        | 0   | 0.0%   |
| (10) 民生委員・児童委員                             | 0   | 0.0%   |
| (11) 民間の専門家(弁護士、カウンセラー、NPO、民間シェルターなど)      | 1   | 1.1%   |
| (12) 学校関係者                                 | 0   | 0.0%   |
| (13) どこ(だれ)にも相談しなかった                       | 9   | 10.1%  |
| (14) その他                                   | 1   | 1.1%   |
| 無回答                                        | 66  | 74.2%  |
| 計                                          | 97  | 108.9% |

(15)で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にお聞きます。

(16) どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(複数回答可)

|                                                    | 回答数 | 構成比    |
|----------------------------------------------------|-----|--------|
| (1) どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから                       | 1   | 11.1%  |
| (2) 恥ずかしくてだれにも言えなかったから                             | 3   | 33.3%  |
| (3) 相談してもむだだと思ったから                                 | 3   | 33.3%  |
| (4) 相談したことがわかったと、相手の仕返しが怖かったから(ひどい暴力や性的な画像のばらまきなど) | 0   | 0.0%   |
| (5) 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから                   | 0   | 0.0%   |
| (6) 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから                | 1   | 11.1%  |
| (7) 世間体が悪いから                                       | 2   | 22.2%  |
| (8) 他人を巻き込みたくなかったから                                | 1   | 11.1%  |
| (9) 他人に知られると、今まで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから | 1   | 11.1%  |
| (10) そのことについて思い出しなかったから                            | 0   | 0.0%   |
| (11) 自分にも悪いところがあると思ったから                            | 2   | 22.2%  |
| (12) 相手の行為は愛情の表現だと思ったから                            | 2   | 22.2%  |
| (13) 相談するほどのことではないと思ったから                           | 1   | 11.1%  |
| (14) 自分が受けている行為が暴力と認識していなかったから                     | 1   | 11.1%  |
| (15) その他                                           | 0   | 0.0%   |
| 無回答                                                | 0   | 0.0%   |
| 計                                                  | 18  | 199.8% |

すべての方にお聞きします。

(17) 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(複数回答可)

|                                            | 回答数  | 構成比    |
|--------------------------------------------|------|--------|
| (1) 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う          | 405  | 57.3%  |
| (2) 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う      | 386  | 54.6%  |
| (3) 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う            | 126  | 17.8%  |
| (4) メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う               | 255  | 36.1%  |
| (5) 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす             | 440  | 62.2%  |
| (6) 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う  | 240  | 33.9%  |
| (7) 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う     | 304  | 43.0%  |
| (8) 加害者への罰則を強化する                           | 356  | 50.4%  |
| (9) 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる | 225  | 31.8%  |
| (10) 特になし                                  | 13   | 1.8%   |
| (11) その他                                   | 63   | 8.9%   |
| 無回答                                        | 74   | 10.5%  |
| 計                                          | 2887 | 408.3% |

(18) 被害者が相談しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)

|                                                | 回答数  | 構成比    |
|------------------------------------------------|------|--------|
| (1) 相談窓口を増やす                                   | 270  | 38.2%  |
| (2) 安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする               | 451  | 63.8%  |
| (3) 相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする                   | 365  | 51.6%  |
| (4) バリアフリーや、手話、外国語による相談など様々な相談環境を整備する          | 149  | 21.1%  |
| (5) 法律や医療の専門相談を受けられるようにする                      | 293  | 41.4%  |
| (6) 夜間・休日などの緊急対応を充実させる                         | 298  | 42.1%  |
| (7) 相談窓口や自治体などが連携し、支援を受けるための様々な手続きを一括で行えるようにする | 321  | 45.4%  |
| (8) 被害者や子どもを保護してくれる施設を増やす                      | 333  | 47.1%  |
| (9) 特に対策の必要はない                                 | 3    | 0.4%   |
| (10) わからない                                     | 12   | 1.7%   |
| (11) その他                                       | 27   | 3.8%   |
| 無回答                                            | 80   | 11.3%  |
| 計                                              | 2602 | 368.0% |

(19) あなたは、立川市女性総合センター・アイムでカウンセリング相談を行っているのを知っていますか(1つを選択)

|           | 回答数 | 構成比    |
|-----------|-----|--------|
| (1) 知っている | 148 | 20.9%  |
| (2) 知らない  | 496 | 70.2%  |
| 無回答       | 63  | 8.9%   |
| 計         | 707 | 100.0% |

あなたご自身のことについてお聞きます。

(20) あなたの性別(1つを選択)

|     |     | 回答数 | 構成比    |
|-----|-----|-----|--------|
| (1) | 男   | 278 | 39.3%  |
| (2) | 女   | 400 | 56.6%  |
|     | 無回答 | 29  | 4.1%   |
|     | 計   | 707 | 100.0% |

(21) あなたの年齢はおいくつですか。(1つを選択)

|     |       | 回答数 | 構成比    |
|-----|-------|-----|--------|
| (1) | 20代   | 41  | 5.8%   |
| (2) | 30代   | 96  | 13.6%  |
| (3) | 40代   | 141 | 19.9%  |
| (4) | 50代   | 116 | 16.4%  |
| (5) | 60代   | 144 | 20.4%  |
| (6) | 70歳以上 | 141 | 19.9%  |
|     | 無回答   | 28  | 4.0%   |
|     | 計     | 707 | 100.0% |

(22) あなたの職業は次のどれにあたりますか。(1つを選択)

|     |                         | 回答数 | 構成比    |
|-----|-------------------------|-----|--------|
| (1) | 勤め人(常勤)                 | 198 | 28.0%  |
| (2) | 勤め人(非常勤・パートタイム・アルバイトなど) | 135 | 19.1%  |
| (3) | 自営業(事業の経営者・家業の手伝い・内職など) | 49  | 6.9%   |
| (4) | 学生                      | 6   | 0.8%   |
| (5) | 専業主婦(夫)                 | 145 | 20.5%  |
| (6) | 無職                      | 137 | 19.4%  |
| (7) | その他の仕事                  | 9   | 1.3%   |
|     | 無回答                     | 28  | 4.0%   |
|     | 計                       | 707 | 100.0% |

(23) 【ご意見欄】その他ご意見がありましたら、ご記入ください

|     |      | 回答数 | 構成比    |
|-----|------|-----|--------|
| (1) | 記述あり | 119 | 16.8%  |
|     | 無回答  | 588 | 83.2%  |
|     | 計    | 707 | 100.0% |

**男女間における暴力に関する調査報告書**

**\*平成 28（2016）年 2 月発行\***

編集・発行 立川市総合政策部男女平等参画課  
〒190-0012 東京都立川市曙町 2 丁目 36 番 2 号  
電 話 042（528）6801  
F A X 042（528）6805